

星美学園短期大学

Seibi Gakuen College



Student Handbook

学生要覧・講義要項

2025

第4章 講義要項

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	人間学Ⅰ AnthropologyⅠ					②科目コード	Y1-2B002			
③担当教員名	武内 裕輝									
④実務経験	小学校 宗教科主任 宗教部長（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【教養科目】（告示による教科目）外国語・体育以外の科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	キリスト教、特に、聖書とカトリック教会の教えによる人間観を軸に、自分自身・他者・世界・神との関わりに関わった人生について学ぶ。現代世界における人間を取り巻く具体的な課題について多角的に学びながら、自らの生き方を見つめ、現代世界において主体的に生きることについて、教員と他の受講者と共に探求する。									
②授業の概要	小学校で宗教科の指導にあたってきた教員が担当する。カトリック学校で共に学ぶ機会を得た者として、聖書を読み、カトリック教会の教えに照らし、キリスト教の価値観を学ぶことを通して、人間への理解を深め、人生の意味について考え、自らの生き方に活かしていくことを目標とする。幼児教育を志す本学の学生たちの瑞々しい感性を生かし、私たち一人ひとりにいのちを与え、育み、日々、活き活きと生きるように望んでおられる神のみことばから活力を得て、私たち一人ひとりが、神から与えられたいのちを大切に、日々、主体的に生きようと努めることを目指す。度々、聖書のメッセージと関連する現代世界の諸問題を取り上げる中で、アクティヴ・ラーニングを積極的に実施する。講義に加えて、自己理解ワーク・ペアワーク・グループワークなどを適宜行いながら、自らの考察を深めて表現し、他者の考えにも耳を傾け、教員と他の受講者と共に人間理解を深め、人生の意味を探究する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【知識・理解】 聖書とカトリック教会の教えからキリスト教の価値観を学び、人間への理解を深めることができる。 2【関心・意欲・態度】 キリスト教の価値観から学び、人生の意味を問い、考察を深めることができる。 3【思考・判断・表現】 現代世界の諸問題について、キリスト教の価値観に基づいて考察を深め、見解を述べるができる。 4【技能】 教員や他の受講者によって気づかされ学んだことを、豊かさとして受け止め、お互いに分かち合うことができる。									
④ディプロマブリシシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティヴ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○	反転授業		○	ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク		○	プレゼンテーション		○	実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	聖書とは何か？人間学とは何か？聖書を読み、人間について学ぶことの意義。									
第 2 回	聖書が語る神の人間へのメッセージ									
第 3 回	救いを待ち望む人間：イエスの時代における人間の状況									
第 4 回	救いを待ち望む人間：現代世界における人間の状況									
第 5 回	救い主の到来と人間：主の降誕と聖母マリア									
第 6 回	イエスの幼年時代とナザレでの生活									
第 7 回	イエスの活動の始まり									
第 8 回	イエスの言葉：山上の説教									
第 9 回	イエスの言葉：たとえ話									
第 10 回	イエスの祈り：主の祈り									
第 11 回	イエスの業：癒し									
第 12 回	イエスの業：赦し									
第 13 回	イエスの弟子たち									
第 14 回	前期のまとめ									
第 15 回	期末課題のグループ発表									
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：福音書を通読していくことが勧められる。1 週間あたり 2 章のペースで読み進め、特に、心に残った箇所を簡単にメモしておくだけでも、貴重な学びの機会となる。プロジェクト学習やプレゼンテーション（1 人 15 分程度 × 3 回／全 15 回）などの準備を含め、約 60 分の学習時間を要する。 復習：授業で扱った聖書箇所と配布資料を読み返しておくことが勧められる。各回のテーマについて、授業内容と自分なりの考察を簡単にまとめておくことは、毎回の提出課題や期末レポートの対策ともなる。リアクションペーパー（A4・1 枚以内 × 全 15 回）の作成を含め、約 60 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	『聖書』（フランシスコ会聖書研究所）、『カトリック教会のカテキズム』（カトリック中央協議会）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に使用する教材や資料は、初回授業および各回毎に配布する。 また、適宜、参考文献や映像資料等を紹介する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	在宅での学習が必要となる場合は Google Meet を使用する。 毎回の予習・復習課題は Google classroom を使用する。 万が一、遅刻・欠席する場合は、講義内容と課題を Google classroom で確認し、全体の進捗から大幅に遅れが生じないように努めること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験						0	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物		○	○	○	○	20	%			
4 発表・実技・プレゼン		○	○	○	○	20	%			
5 受講態度		○	○	○	○	20	%			
6 自主学習態度		○	○	○	○	20	%			
7 その他（レポート）		○	○	○	○	20	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物とレポートは採点と講評の後に返却する。 評価方法に記載されている全ての項目について個別の問い合わせに応じる。									
Ⅳ その他										
本科目は卒業のための必修科目である。 欠席・遅刻・早退・課題未提出などにより、単位が認定できなくなる事態を招かないように注意すること。 不測の事態が生じた場合は、自分だけで解決しようとはせず、至急、教職員に相談すること。 履修者の興味や関心を踏まえて、講義内容や使用する資料の一部を変更する場合もある。										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	人間学Ⅱ Anthropology Ⅱ					②科目コード	Y1-2B003			
③担当教員名	武内 裕輝									
④実務経験	小学校 宗教科主任 宗教部長（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【教養科目】（告示による教科目）外国語・体育以外の科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	キリスト教、特に、聖書とカトリック教会の教えによる人間観を軸に、自分自身・他者・世界・神との関わりに開かれた人生について学ぶ。現代世界における人間を取り巻く具体的な課題について多角的に学びながら、自らの生き方を見つめ、現代世界において主体的に生きることについて、教員と他の受講者と共に探求する。									
②授業の概要	小学校で宗教科の指導にあたってきた教員が担当する。カトリック学校で共に学ぶ機会を得た者として、聖書を読み、カトリック教会の教えに照らし、キリスト教の価値観を学ぶことを通して、人間への理解を深め、人生の意味について考え、自らの生き方に活かしていくことを目標とする。幼児教育を志す本学の学生たちの瑞々しい感性を生かし、私たち一人ひとりにいのちを与え、育み、日々、活き活きと生きるように望んでおられる神のみことばから活力を得て、私たち一人ひとりが、神から与えられたいのちを大切に、日々、主体的に生きようと努めることを目指す。度々、聖書のメッセージと関連する現代世界の諸問題を取り上げる中で、アクティヴ・ラーニングを積極的に実施する。講義に加えて、自己理解ワーク・ペアワーク・グループワークなどを適宜行いながら、自らの考察を深めて表現し、他者の考えにも耳を傾け、教員と他の受講者と共に人間理解を深め、人生の意味を探究する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【知識・理解】 聖書とカトリック教会の教えからキリスト教の価値観を学び、人間への理解を深めることができる。 2【関心・意欲・態度】 キリスト教の価値観から学び、人生の意味を問い、考察を深めることができる。 3【思考・判断・表現】 現代世界の諸問題について、キリスト教の価値観に基づいて考察を深め、見解を述べることができる。 4【技能】 教員や他の受講者によって気づかされ学んだことを、豊かさとして受け止め、お互いに分かち合うことができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティヴ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○		反転授業		○		ディスカッション・ディベート	
	グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク	
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	聖書の中の女性たち：旧約聖書編									
第 2 回	聖書の中の女性たち：新約聖書編									
第 3 回	聖書の中の食事の物語									
第 4 回	イエスと弟子たちの共同体									
第 5 回	主の晩餐と主の洗足									
第 6 回	天の国の共同体									
第 7 回	論争とイエス									
第 8 回	終末とイエス									
第 9 回	イエスの受難：逮捕、裁判									
第10回	イエスの受難：十字架の意味、人生における苦しみの意味									
第11回	イエスの復活：空の墓、弟子たちへの出現、復活の主と共に歩む弟子たち									
第12回	聖霊降臨：いのちの与え主である聖霊									
第13回	最初の弟子たちの交わりと共同体									
第14回	後期のまとめ									
第15回	期末課題のグループ発表									
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：福音書を通読していくことが勧められる。1 週間あたり 2 章のペースで読み進め、特に、心に残った箇所を簡単にメモしておくだけでも、貴重な学びの機会となる。プロジェクト学習やプレゼンテーション（1 人 15 分程度 × 3 回／全 15 回）などの準備を含め、約 60 分の学習時間を要する。 復習：授業で扱った聖書箇所と配布資料を読み返しておくことが勧められる。各回のテーマについて、授業内容と自分なりの考察を簡単にまとめておくことは、毎回の提出課題や期末レポートの対策ともなる。リアクションペーパー（A4・1 枚以内 × 全 15 回）の作成を含め、約 60 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	『聖書』（フランススコ会聖書研究所）、『カトリック教会のカテキズム』（カトリック中央協議会）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に使用する教材や資料は、初回授業および各回毎に配布する。 また、適宜、参考文献や映像資料等を紹介する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	在宅での学習が必要となる場合は Google Meet を使用する。 毎回の予習・復習課題は Google classroom を使用する。 万が一、遅刻・欠席する場合は、講義内容と課題を Google classroom で確認し、全体の進捗から大幅に遅れが生じないように努めること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		知識・理解	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	20	%			
5	受講態度	○	○	○	○	20	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	20	%			
7	その他（レポート）	○	○	○	○	20	%			
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法										
Ⅳ その他										
本科目は卒業のための必修科目である。 欠席・遅刻・早退・課題未提出などにより、単位が認定できなくなる事態を招かないように注意すること。 不測の事態が生じた場合は、自分だけで解決しようとはせず、至急、教職員に相談すること。 履修者の興味や関心を踏まえて、講義内容や使用する資料の一部を変更する場合もある。										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	日本国憲法 The Constitution of Japan						②科目コード	Y1-2A004		
③担当教員名	秋山 武吉									
④実務経験							⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2 単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	教職員免許法施行規則第 66 条の6に定める科目									
⑬保育士養成課程	【教養科目】(告示による教科目) 外国語・体育以外の科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本国憲法の概説									
②授業の概要	憲法は国家権力を制限し人権を保障するものであることを理解する。立憲主義、人権侵害、安全保障、憲法改正等を講義する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	憲法の立憲主義、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重、権力分立について理解し、説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
	○		○							
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画(授業の内容)										
第 1 回	立憲主義の意味(立憲的意味の憲法)									
第 2 回	日本国憲法史(新憲法の動き)									
第 3 回	国民主権(主権 国民 主権者としての国民 天皇制)									
第 4 回	平和主義(平和主義の原理 第9条)									
第 5 回	基本的人権の尊重(人権の一般原則)									
第 6 回	包括的基本権 幸福追求権(第 13 条から導きだされる権利・法益 自己決定権)									
第 7 回	法の下での平等(具体的事例の検討 性別 社会的身分による違憲問題)									
第 8 回	精神的自由権 経済的自由権(具体的事例の検討)									
第 9 回	人身の自由(具体的事例の検討)									
第10回	選挙制度(近代選挙制度の原則)									
第11回	社会権(具体的事例の検討 第 25 条)									
第12回	統治機構 国会 内閣(国会と内閣の関係)									
第13回	裁判所(裁判制度の説明を含む)									
第14回	憲法改正(具体的問題を検討 第9条)									
第15回	まとめ(憲法の諸問題・保育をめぐる法律問題)									
定期試験	実施する 筆記試験(資料、条文の参照可)									
⑧自主学習の課題	予習: 講義に際して指定したページを熟読して下さい。約 90 分。 復習: 講義の際に指摘した箇所の趣旨、意味内容を理解して下さい。約 90 分。									
⑨テキスト	高乗正臣著、『保育者のための法学・憲法入門』2020 年1月 15 日発行、成文堂									
⑩参考書/参考資料/準備物等	芦部信喜『憲法』岩波書店									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	教科書・配布した資料は忘れないように用意して下さい。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		立憲主義	国民主義	平和主義	基本的人権の尊重	権力分立	③配点比率			
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○	○	70	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物	○	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン						0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		定期試験、最終成績評価についての問い合わせには対応します。								
Ⅳ その他										
自宅学習のレポート課題は提出期限を守って下さい。尚、実習・ワクチン接種の為体調不良等の場合は考慮します。										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育者論 Studies on Kindergarten Teacher					②科目コード	Y2-2A001			
③担当教員名	徳田 多佳子									
④実務経験	幼稚園教諭（7年） 家庭的保育事業者 放課後デイサービス児童指導員					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目】教育の基礎的理解に関する科目・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の本質・目的に関する科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育者の役割 専門性									
②授業の概要	自身の保育の経験やさまざまな機会を訪れた園での経験をふまえ、実践例を示して学生の理解を促す。保育者として子どもに向き合い関わるとはどういうことなのかを理解する。また、これからの保育者に期待されることは何かを考察していく。その上で、研修を通して学ぶこと、育つことについて学ぶ。教職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等についても身に付け教職の在り方を理解していく。									
③履修者の到達目標（学習成果）	・今日の幼児教育や教職の職業的特徴を理解する。 ・子どもと共に生活することについて学び、保育者に求められる役割や資質能力について説明ができる。 ・幼児への指導及び指導以外の教員の職務の全体像を、特に地域との連携について理解する。 ・保育者としての専門性について考察し、研修の在り方などについて知り、学び続けることの必要性やチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
	○			○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		○			プレゼンテーション		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育者とは イントロダクション									
第2回	幼稚園教諭とは									
第3回	保育士とは									
第4回	保育教諭および施設で働く保育者とは									
第5回	保育者に求められる倫理									
第6回	保育者の制度的位置づけ									
第7回	保育者の専門性① 保育者の資質・能力									
第8回	保育者の専門性② 養護および教育の一体的展開									
第9回	保育者の専門性③ 保育の質の向上									
第10回	保育者の専門性④ 計画に基づく保育の実践と省察・評価									
第11回	保育者の連携・協働① 園内の保育者チームおよび家庭との連携									
第12回	保育者の連携・協働② 専門機関や地域との連携									
第13回	保育者としての葛藤									
第14回	保育の現代的な問題									
第15回	学修のまとめ									
定期試験	実施する（筆記試験）									
⑧自主学習の課題	予習：毎回のテーマに該当するテキストの章を熟読し、内容を確認して臨む。約 90 分 復習：出された課題に取り組んだり、配布プリントを読み返したりすることで、内容を理解して持論を展開できるようにする。約 90 分									
⑨テキスト	野津直樹・宮川萬寿美（編）『保育者論－主体性のある保育者を目指して』 萌文書林 必要資料はその都度配布する。参考資料等はその都度紹介する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレベール館 厚生労働省『保育所保育指針』フレベール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレベール館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	保育者の専門性に関し、現代社会がどのようなことを期待しているか、新聞やニュース等で情報を集め、その内容が“子どもの育ち”とどのように関係するか、自分なりに考えようとする姿勢をもって授業に望んでほしい。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		保育者の職務内容の理解	教職の意義の理解	保育者の役割の理解	保育者の協働の理解	保育者の専門性向上の理解	③配点比率			
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○	○	50	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物	○	○	○	○	○	20	%		
4	発表・実技・プレゼン				○		0	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	25	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	○	5	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		保育・教職実践演習（幼稚園） Practical Seminar for the Teaching and Child-Care Specialist					②科目コード		Y5-2C003				
③担当教員名		打越 みゆき 大井 美緒											
④実務経験		大井 美緒（幼稚園教諭 15 年）						⑤担当形態		複数、クラス分け（一部合同あり）			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程		【幼二種免・教職に関する科目】教職実践演習											
⑬保育士養成課程		【必修科目】（告示別表1による教科目）総合演習 保育実践演習（演習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		保育・教育の実践力を身につける											
②授業の概要		この授業は、幼稚園教諭としての学びの集大成である。講義、ワークシート、討論を通して、幼稚園教諭としての総合的な実践力を養っていく。現場での実際を知りながら子どもの姿や保育者のあり方について理解を深めていけるよう、実務経験教員は保育現場における具体的な事例を示していく。また、保育士資格を取得する上での関連も考えていく。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 保育・教育を実践していく上で必要な ICT 機器の知識を活用して、保育教材をつくることができる。 2. 保育・教育を実践していく上で、重要なポイントをまとめることができる。 3. 履修カルテを作成してこれまでの学習で修得した知識・技能についてまとめることができる。											
④ディプロマブリシー（DP）との関係		①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		○		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
		グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		【合同】ガイダンス & 保育者の歩みと足跡（打越・大井）											
第 2 回		協同的な学びと育ち 理論（打越）											
第 3 回		協同的な学びと育ち 実践（打越）											
第 4 回		子ども理解の方法と実際（大井）											
第 5 回		保育者の専門性（大井）											
第 6 回		保護者および地域との関係づくり：グループごとにロールプレイ（打越）											
第 7 回		保育の振り返り（大井）											
第 8 回		園の安全管理（打越）											
第 9 回		教育課程および全体的な計画を考える											
第10回		幼保小の接続（ゲスト教員）											
第11回		気になる子どもの行動の理解と対応（ゲスト教員）											
第12回		保育と ICT ① レクチャー（ゲスト教員）											
第13回		保育と ICT ② プランニング 実践：教材制作（打越・大井）											
第14回		保育と ICT ③ 発表会（打越・大井）											
第15回		学修ポートフォリオの作成（打越・大井）											
定期試験		実施しない											
⑧自主学習の課題		予習 テキストの該当箇所を読んでおく。予習には約 10 分の学習時間を要する。 復習 毎回課題に取り組み、次の週に提出する。復習には約 50 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト		小櫃智子・矢藤誠慈郎（編）『改訂 2 版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み―幼稚園保育所編』わかば社 2023 年											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		なし											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項		この科目は毎回の授業課題で評価する。 授業を欠席した場合には、Google classroom を確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 授業で配られた資料やワークシートは紙ファイル（授業初回に配布）にファイリングすること（採点対象）。 テキストがワークになっているため、再履修の者はテキストを購入しなおすこと。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		ICT教材	授業のポイントのまとめ		履修カルテづくりとまとめ					③配点比率			
②評価方法													
1 定期試験										0	%		
2 小テスト										0	%		
3 提出物		○		○		○				70	%		
4 発表・実技・プレゼン		○								10	%		
5 受講態度										0	%		
6 自主学習態度										0	%		
7 その他（授業ファイル・テキスト）		○								20	%		
④ルーブリック評価		取り入れている。							比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		課題を採点し、返却する。Google classroom を使用した課題については、Google classroom からフィードバックする。											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	重複障害・LD 等教育論 Education for Persons with Learning Mutple Disabilities and Other Developmental Disorder					②科目コード	Y2-2B003			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（10 年）・公認心理師（5 年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年	⑦開講期		⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了		必修		
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目									
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育の本質・目的の理解に関する科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	発達障がい・重複障がい児の理解と教育課程の編成の方法及び自立活動に関する内容									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がいや重複障がい児者及び家族への心理支援、学校現場への巡回相談などの実戦経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。本授業では、LD（学習障がい）、AD/HD（注意欠如多動性障がい）、重複障がい児者の行動特徴や教育課程の編成方法、カリキュラムマネジメントの実際を知り、そのメカニズムを詳細に捉えるためのアセスメントと教育課程との関連について学習する。パワーポイントでの情報提示に加え、教材を体験する演習も用いてアクティブラーニングを実施する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 発達障がいLD、AD/HD などの発達障がいの行動特徴をそれぞれ理解し区別することができる 2. 重複障がいの理解と支援、アセスメントのポイントをつかむ 3. LD、AD/HD 重複障がい児の教育課程の編成方法、カリキュラムマネジメントについて説明することができる 4. 知能検査や発達検査は何を測定するものなのかを理解する									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション（障害特性に合わせたカリキュラム・マネジメントと自立活動）									
第 2 回	AD/HD の基本的行動特徴と理解									
第 3 回	AD/HD の疑似体験と二次障害について									
第 4 回	AD/HD の教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際									
第 5 回	AD/HD 児がもつ衝動性に対する支援と対応									
第 6 回	幼稚園教育実習における特別支援教育体験（事例検討）									
第 7 回	LD の基本的行動特徴と理解									
第 8 回	LD の疑似体験と二次障害について									
第 9 回	LD の教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際									
第10回	LD 児への学習指導法と具体的支援									
第11回	特別支援教育で用いられる教材の体験									
第12回	知能検査・発達検査の理解									
第13回	協調運動障がいの特徴と支援方法									
第14回	重複障がいの理解									
第15回	重複障害の教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの実際									
定期試験	筆記試験 ※授業後に小テストを実施します									
⑧自主学習の課題	予習：約 90 分間の学習時間を要する。文部科学省 HP にある「発達障害について」の資料を読み込むこと 復習：約 90 分間の学習時間を要する。小テストのキーワードについて再度配付資料の内容を読み返すこと									
⑨テキスト	授業時、随時提示する									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目 ②評価方法		発達障害 (AD/HD と LD) の理解と支援	重複障害の 理解と支援	教育課程の 編成方法と カリキュラム マネジメント	知能検査・ 発達検査の 理解		③配点比率			
1	定期試験	○	○	○	○		50	%		
2	小テスト	○	○	○	○		40	%		
3	提出物						0	%		
4	発表・実技・プレゼン						0	%		
5	受講態度	○	○	○	○		5	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○		5	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		小テスト・定期試験ともに用語を記入する問題であるため取り入れていない				比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名	知的障害者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Intellectually Disabled Persons							②科目コード	Y4-2B017				
③担当教員名	井出 麻里子 竹森 亜美												
④実務経験	臨床心理士（竹森 10 年）・公認心理師（竹森 5 年）							⑤担当形態	複数				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択			
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修		保育士資格	発達障がい児保育 BP 修了							
⑫教職課程	【特二種免：特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目												
⑬保育士養成課程													
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ	教育課程の理解と模擬授業の実践												
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、知的障害児・者への療育、学校現場への巡回相談・授業研究などの実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定しながら講義を行う。また、モンテッソーリ教材の研究知見をもとに、教材研究の視点から指導を行う。知的障害特別支援学校の教育課程（自立活動含む）の編成の方法とカリキュラムマネジメントを踏まえたうえで、学習指導案の書き方を学ぶ。それらの知識を基に、仮想事例を対象にした模擬授業を構成し、グループごとに発表を行う。特別支援学校の教育実習で課題となる「研究授業」に向けての基礎力及び応用力を養う実践的な授業である。												
③履修者の到達目標（学習成果）	1 知的障害特別支援学校の教育課程の編成方法（特に幼稚部・小学部）とカリキュラムマネジメントの実際を理解する。 2 仮想事例に基づき、学習指導案を立案し、実施することができる。 3 グループで適切な役割分担をし、協力しながら模擬授業を構成することができる。												
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業					ディスカッション・ディベート						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク		○		
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回	知的障害特別支援学校の教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメント												
第 2 回	生活単元学習と自立活動												
第 3 回	学習指導案の作成／模擬授業説明												
第 4 回	模擬授業①（教科指導／国語・算数）												
第 5 回	模擬授業②（教科指導／図画工作）												
第 6 回	模擬授業③（教科指導／音楽）												
第 7 回	模擬授業④（遊びの指導）												
第 8 回	模擬授業⑤（生活単元学習／朝の会）												
定期試験	実施しない												
⑧自主学習の課題	予習：グループごとによく話し合い、発表に向けて学習指導案作成、教材作成に努めること。テキストを熟読し、学習指導案の「目標」が何なのかをよく検討すること。 復習：模擬授業で指摘された事項をレポートにまとめること ※予習・復習ともに約 90 分の時間を要する。												
⑨テキスト	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）開隆堂出版												
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館												
⑪教材費	模擬授業で使用する教材費は、グループで負担を分担すること。なるべく廃材などを活用すること。												
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特別支援学校教諭免許状の取得を希望することを前提とする。 履修上の注意事項：特別支援学校の授業に関する実技科目であるため、保育場面での支援は対象としない。 その他：発表グループは教員で決定する。												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		教育課程の理解	模擬授業	学習指導案	発表グループへのコメントシート			③配点比率					
②評価方法													
1	定期試験								0	%			
2	小テスト								0	%			
3	提出物			○	○				35	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○						50	%			
5	受講態度	○	○	○	○				5	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○				10	%			
7	その他								0	%			
④ルーブリック評価	模擬授業の評価項目についてはルーブリック評価を活用する								100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。 模擬授業の評価を講評する。												
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	肢体不自由者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Disabled Persons							②科目コード	Y4-2B018			
③担当教員名	渡邊 章											
④実務経験								⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（15）	⑨授業形態	後期	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		必修		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【特二種免許・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目											
⑬保育士養成課程												
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について学ぶ											
②授業の概要	この授業では、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1) 幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（肢体不自由）の教育実践に即した教育課程の編成方法について理解している。 2) 個別の指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。 3) 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解している。 4) 肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		○			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー											
第 2 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の教育課程とカリキュラム・マネジメント											
第 3 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の個別の指導計画の作成											
第 4 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の体験的な活動を通した指導の工夫											
第 5 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の姿勢や認知の特性に応じた指導の工夫											
第 6 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の指導における ICT や教材・教具の活用											
第 7 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の自立活動の指導											
第 8 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の学習指導案の作成と授業改善											
定期試験	レポート提出											
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約 90 分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約 90 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		肢体不自由者の教育の基本	肢体不自由者の指導方法の基礎	肢体不自由者の指導における配慮事項				③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験	○	○	○				50	%			
2	小テスト							0	%			
3	提出物	○	○	○				20	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				10	%			
5	受講態度	○	○	○				10	%			
6	自主学習態度	○	○	○				10	%			
7	その他							0	%			
④ルーブリック評価		取り入れていない						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名	病弱者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Invalids							②科目コード		Y4-2B019			
③担当教員名	渡邊 章												
④実務経験								⑤担当形態					
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		必修		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目												
⑬保育士養成課程	病弱者の教育的ニーズへの対応について学ぶ												
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法について学ぶ												
②授業の概要	この授業では、特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（病弱）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントについて理解する。また、病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解するとともに、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。												
③履修者の到達目標（学習成果）	1) 幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成方法について理解している。 2) 個別の指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。 3) 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等における配慮事項について理解している。 4) 病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができるとともに、授業改善の視点を身に付けている。												
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		○			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○		
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー												
第 2 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の教育課程とカリキュラム・マネジメント												
第 3 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の個別の指導計画の作成												
第 4 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の学習環境に応じた指導の工夫												
第 5 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の指導における ICT や教材・教具の活用												
第 6 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等に配慮した指導の工夫												
第 7 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の自立活動の指導												
第 8 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の学習指導案の作成と授業改善												
定期試験	レポート提出												
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約 90 分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約 90 分の学習時間を要する。												
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社												
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版												
⑪教材費	なし												
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		1) 病弱者の教育の基本		2) 病弱者の指導方法の基礎		3) 病弱者の指導における配慮事項		4) 自立活動					
②評価方法												③配点比率	
1	定期試験	○		○		○		○		50 %			
2	小テスト									0 %			
3	提出物	○		○		○		○		20 %			
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○		○		10 %			
5	受講態度	○		○		○		○		10 %			
6	自主学習態度	○		○		○		○		10 %			
7	その他									0 %			
④ルーブリック評価		取り入れていない								比率合計		100 %	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名		視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む） Theory of Education for Intrllectually Visually Impaired Persons				②科目コード		Y4-2B020			
③担当教員名		村尾 愛美									
④実務経験		リソースルームティーチャー（1 年）／児童指導員（3 年）				⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程		【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目									
⑬保育士養成課程											
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ		視覚障害、聴覚障害、言語障害を有する幼児児童生徒に対する教育における教育課程の編成の方法及び自立活動に関する内容とその具体例について									
②授業の概要		リソースルームティーチャーとして通常の学級に在籍している発達障害等により特定の教科学習の理解に困難を示している児童に対する学習支援、また、児童指導員として児童発達支援センターにおける発達に遅れや偏りのある乳幼児に対する指導・支援などの実務経験のある教員による講義である。 本授業では、視覚障害、聴覚障害、言語障害に対する指導のために必要な基礎知識および技能を身ににつけるとともに、根拠に基づいた指導・支援計画を立案できることを目指す。特に、各学校・学級における教育課程、カリキュラムマネジメント、自立活動の指導は本授業の中心的な学習事項である。									
③履修者の到達目標（学習成果）		1 【知識・技能】視覚障害、聴覚障害、言語障害を有する幼児児童生徒に対する教育について、教育課程の編成の方法とカリキュラムマネジメントに関する基礎的事項を説明することができる。また、自立活動に関する内容を中心に、指導・支援法についての基礎的事項を説明することができる。 2 【思考・判断・表現】グループワークを通して、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児の教育における教育課程及び自立活動に関する先行研究等から課題を抽出し、その課題に関して考察を加え、今後の在り方について自分の考えを述べることができる。 3 【関心・意欲・態度】視覚障害、聴覚障害、言語障害教育の現状と課題に関心を持ち、自ら学習を進めることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
				○		○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			○
		グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク	
⑥ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回		特別支援教育における、視覚障害教育、聴覚障害教育、言語障害教育の歴史と意義：授業のねらい、進め方を含む									
第 2 回		視覚障害に対する指導・支援：視覚障害特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第 3 回		視覚障害と自立活動：情報の入手及び移動の制限に視点を当てて									
第 4 回		聴覚障害に対する指導・支援：聴覚障害特別支援学校、特別支援学級及び通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第 5 回		聴覚障害と自立活動：コミュニケーション方法、手話と音声言語との関係に視点を当てて									
第 6 回		言語障害に対する指導・支援：通級による指導の教育課程の編成とカリキュラムマネジメント									
第 7 回		言語障害と自立活動：構音障害、吃音、言語発達の遅れに視点を当てて									
第 8 回		視覚障害教育、聴覚障害教育、言語障害教育の現状と課題ーいわゆる知的発達に遅れない発達障害や情緒障害との関連：グループワーク									
定期試験		筆記試験（持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題		予習：各授業回において、次の授業内容に関する資料を配布し、予習事項を提示する。配布資料を含め、参考書・参考資料などを用いて予習しておくこと。予習には約 90 分を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。配布資料や参考書・参考資料などを用いて、復習事項をまとめ、次の授業時まで提出すること。復習には約 90 分を要する。翌週の授業でふりかえりの小テストを実施する。									
⑨テキスト		必要に応じて、資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等		我妻敏博『聴覚障害児の言語指導－実践のための基礎知識 改訂版』田研出版、2011。 加藤正子・竹下圭子・大伴 潔（編著）『特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2012。 小林宏明・川合紀宗（編著）『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2013。 文部科学省（著）『聴覚障害教育の手引ー言語に関する指導の充実を目指してー』ジヤース教育新社、2020。 大伴 潔・大井 学（編著）『特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』学苑社、2011。 芝田裕一（著）『視覚障害児・者の理解と支援 新版』北大路書房、2015。 全国盲学校長会（編著）『視覚障害教育入門Q&A 新訂版』ジヤース教育新社、2018。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領ー平成 29 年 4 月告示』海文堂出版									
⑪教材費		不要									
⑫履修条件／履修上の注意事項		本授業ではグーグルクラスルームを用いて課題及び授業資料の提示を行う。そのため、クラスルームに必ず参加すること（担当教員が初回授業時までに案内する）。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		知識・技能		思考・判断・表現		関心・意欲・態度					
②評価方法								③配点比率			
1	定期試験	○		○						40 %	
2	小テスト	○		○						20 %	
3	提出物	○		○		○				15 %	
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○				15 %	
5	受講態度					○				5 %	
6	自主学習態度					○				5 %	
7	その他									0 %	
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計	100 %	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		授業回ごとの小テストまたは提出物に対して、講評を行う。 定期試験及び最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
Ⅳ その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	保育原理 Principle of Upbringing					②科目コード	Y2-2A002			
③担当教員名	徳田 多佳子									
④実務経験	幼稚園教諭（7年） 家庭的保育事業者 放課後デイサービス児童指導員					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の本質・目的の理解に関する科目 保育原理（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育の意義と基本									
②授業の概要	自身の保育の経験やさまざまな機会を訪れた園での経験をふまえ、実践例を示して学生の理解を促す。保育所保育指針等に基づき保育の理念や役割、制度、実践について基礎的な知識を学び、保育者の仕事がどのように位置づけられて何を期待されているかについて学習する。また保育の特性を学び、その目標、方法、計画とその評価についても学習する。それにより子どもの主体性を尊重し、環境を通して行われる保育とはどのようなものかについて理解する。さらに保育の思想や歴史的変遷、国内外の保育にふれ、より広い視野で保育の機能とその意義や課題を探る。基本的には講義形式で進めるが、学生が自身の考えや意見を述べる機会を多く取りたいと考えている。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育所保育指針等を読解し、その中で示されている保育の基本について理解し、説明することができる。 2. 保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度について理解し、説明することができる。 3. 保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 4. 現在の保育と子ども、子育てにおける課題を把握し、その解決方法について考察して意見を述べることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育の理念と概念									
第2回	保育の社会的役割と責任									
第3回	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令									
第4回	保育の実施体系									
第5回	保育所保育指針に基づく保育									
第6回	保育の目標と方法									
第7回	乳児の保育									
第8回	1歳以上3歳未満児の保育									
第9回	3歳以上児の保育									
第10回	子ども理解に基づく保育の過程									
第11回	諸外国の保育の思想と歴史									
第12回	日本の保育の思想と歴史									
第13回	諸外国の保育の現状と課題									
第14回	日本の保育の現状と課題									
第15回	学修のまとめ									
定期試験	実施する（筆記試験）									
⑧自主学習の課題	予習：毎回のテーマに該当するテキストの章を熟読し、内容を確認して臨む。約90分 復習：出された課題に取り組んだり、配布プリントを読み返したりすることで、内容を理解して持論を展開できるようにする。約90分									
⑨テキスト	天野珠路、北野幸子（編）『新・基本保育シリーズ1保育原理』中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要資料はその都度配布する。参考資料等はその都度紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレベール館 厚生労働省『保育所保育指針』フレベール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレベール館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	保育においては子どもの成長・発達だけを考えるのではなく、その子が生活し、育つ家庭や地域の環境に目を向けることが大切である。 現代社会のさまざまな問題を、ニュースや新聞、インターネットなどから情報を得て、子どもの最善の利益を実現するために保育者はどのような関わりが求められるのか、どのようにして環境構成を行うべきかを、自分なりに考えようとする姿勢をもって授業に望んでほしい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		保育の意義に関する理解	保育の基本に関する理解	保育の目標と方法に関する理解	保育の歴史や現状に関する理解	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験		○	○	○	○			50		%
2 小テスト								0		%
3 提出物		○	○	○	○			20		%
4 発表・実技・プレゼン								0		%
5 受講態度		○	○	○	○			25		%
6 自主学習態度		○	○	○	○			5		%
7 その他								0		%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		乳児保育Ⅰ Infant's UpbringingⅠ					②科目コード		Y4-2B012				
③担当教員名		清水 かおり											
④実務経験		保育士・保育教諭（５年）、幼稚園教諭（６年）、乳幼児教育分野における国際協力（２年）					⑤担当形態		単独				
⑥開講対象		幼児保育学科 ２年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程													
⑬保育士養成課程		【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の内容・方法の理解に関する科目乳児保育（講義）											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		乳児の発達理解・乳児の育ちを支える保育者の役割											
②授業の概要		保育現場に従事してきた経験から実践の面白さや難しさを共有し、学生の乳児保育へのイメージを具体化していく。 「子どもの最善の利益」を主軸とし、事例と保育理論から受容的・応答的な関わりを考え、3 歳未満児の保育の基本を学ぶ。また乳児保育の意義や目的、現状と課題を踏まえた保育を実現させるための連携も学ぶ。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び児保育の果たす役割について説明できる。 2. 保育所の他、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。 3. 3 歳未満児の保育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解し、健やかな成長を支えるための基礎知識を獲得する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○			
		グループワーク		○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		オリエンテーション、乳児保育の意義や目的と役割											
第 2 回		乳児保育の基本											
第 3 回		0・1・2 歳児の子どもの発達と特徴											
第 4 回		3 歳未満児の身体の発達											
第 5 回		3 歳未満児の言葉と社会性の発達											
第 6 回		0 歳児の保育内容											
第 7 回		1 歳以上 3 歳未満児の保育内容											
第 8 回		乳児の生活と遊びの基本的事項											
第 9 回		乳児の生活の基本											
第10回		乳児の遊び											
第11回		乳児保育の環境構成											
第12回		乳児保育における全体的な計画											
第13回		乳児保育における子育て支援（グループワーク）											
第14回		乳児保育における連携（グループワーク）											
第15回		乳児の発達理解・乳児の育ちを支える保育者の役割についてのまとめと振り返り											
定期試験		筆記試験を実施する											
⑧自主学習の課題		予習：予習には 90 分の学習時間を要する。テキストの該当箇所を読み、課題に取り組むこと。 復習：復習には 90 分の学習時間を要する。提示された授業テーマに関する復習事項に取り組むこと。 日常生活の中で 3 歳未満児に興味をもち、観察をしたりニュースを観たり聞いたりしたことを考察すること。											
⑨テキスト		小山朝子編著、亀崎美沙子、善本真弓『講義で学ぶ乳児保育』わかば社 2019 年											
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		なし											
⑫履修条件／履修上の注意事項		やむを得ず授業を欠席した場合には、授業の資料があれば担当教員まで取りにくること。 自宅学習が必要となった場合には、課題を Google classroom より配信する予定である。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		乳児保育の役割の理解	乳児保育の現状と課題についての理解	乳児の発達と保育内容の基礎知識	乳児保育における連携・協働			③配点比率					
②評価方法													
1 定期試験		○	○	○	○			50		%			
2 小テスト		○	○	○	○			20		%			
3 提出物		○	○	○	○			30		%			
4 発表・実技・プレゼン								0		%			
5 受講態度								0		%			
6 自主学習態度								0		%			
7 その他								0		%			
④ルーブリック評価		取り入れていない						比率合計		100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法		・提出物は返却し、講評する。 ・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名	乳児保育Ⅱ Infant' s Upbringing Ⅱ							②科目コード	Y4-2B013				
③担当教員名	清水 かおり												
④実務経験	保育士・保育教諭（5年）、幼稚園教諭（6年）、乳幼児教育分野における国際協力（2年）							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2年			⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程													
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の内容・方法の理解に関する科目乳児保育（演習）												
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ	乳児の発達理解・乳児の育ちを支える保育者の役割												
②授業の概要	乳児保育Ⅰに続き、保育現場に従事してきた経験から3歳未満児についての専門的知識と保育技術を伝えていく。 子どもの豊かな生活や遊びの実現のための援助を実践から学ぶ。また、3歳未満児クラスの指導計画の作成や相応しい環境等について学び、養護及び教育の一体性の視点からも保育の理解を深めていく。												
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。 3. 乳児保育における配慮について説明できる。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画を立案することができる。												
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○				
	グループワーク		○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク						
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画（授業の内容）													
第1回	オリエンテーション、乳児保育の意義												
第2回	子どもの育ちと保育内容（1）睡眠／抱っことおんぶ（グループワーク）												
第3回	子どもの育ちと保育内容（2）おむつについて考える／おむつ実験												
第4回	子どもの育ちと保育内容（3）排泄／おむつ替え（グループワーク）												
第5回	子どもの育ちと保育内容（4）衣服と着替え（グループワーク）												
第6回	子どもの育ちと保育内容（5）清潔／沐浴（グループワーク）												
第7回	子どもの育ちと保育内容（6）授乳と食事の援助（グループワーク）												
第8回	子どもの育ちと保育内容（7）健康と安全／身体計測（グループワーク）、乳児保育を支える連携（1）												
第9回	乳児保育を支える連携（2）												
第10回	0歳児の保育内容と遊び（グループワーク）												
第11回	1歳以上3歳未満児の保育内容と遊び（グループワーク）												
第12回	小テスト、乳児保育における指導計画（1）長期的・短期的・個別指導計画												
第13回	乳児保育における指導計画（2）個別指導計画、保育の質の向上を目指した観察・記録及び自己評価												
第14回	3歳未満児の1日の流れと実践のまとめ												
第15回	3歳未満児の遊び												
定期試験	実施しない												
⑧自主学習の課題	予習：予習には30分の学習時間を要する。テキストの該当箇所を読み、課題に取り組む。 復習：復習には30分の学習時間を要する。提示された授業テーマに関する復習事項に取り組む。 日常生活の中で3歳未満児に興味をもち、観察をしたりニュースを観たり聞いたりしたことを考察する。												
⑨テキスト	善本真弓編著小山朝子亀崎美沙子『演習で学ぶ乳児保育』わかば社2020年												
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館												
⑪教材費	200円												
⑫履修条件／履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業の資料があれば担当教員まで取りにくること。 自宅学習が必要となった場合には、課題を Google classroom より配信する予定である。												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		乳児の発達と保育者の援助	乳児の遊びと保育者の援助	乳児の生活の援助と配慮	指導計画の立案			③配点比率					
②評価方法													
1	定期試験							0	%				
2	小テスト			○				20	%				
3	提出物	○	○	○	○			60	%				
4	発表・実技・プレゼン		○	○				20	%				
5	受講態度							0	%				
6	自主学習態度							0	%				
7	その他							0	%				
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物は返却し、講評する。 ・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。												
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	障がい児保育Ⅰ Insurance for Handicapped Children Ⅰ					②科目コード	Y4-2B014			
③担当教員名	岡本 明博									
④実務経験	児童指導員・臨床発達心理士・ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士〔20年〕					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科	2年	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育BP修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 障害児保育(演習)									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	障がい児保育の実践Ⅰ									
②授業の概要	児童指導員・臨床発達心理士として、児童発達支援センター等での児童の発達支援や幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校への発達支援相談、ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士として、児童発達支援センター及び地域の児童や家族への相談・支援の勤務経験を活かし、障がい児保育の具体的な事例をもとに講義を展開する。共生社会の実現に向けて特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する関わりが求められる。そこで、障がい児保育の意義と目的を理解し、障がいのある子どもについて理解を深め、日々の保育のあり方について学ぶ。前半では障がい児保育を支える理念や歴史的変遷を、中盤では障がいのある子どもの理解と保育における発達援助を、後半には障がい児保育の方法と形態について取り上げる。また、実践事例の検討では、少人数でディスカッションやグループワークを行い、他者との意見交換を通して学習する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) 障がい児保育に関心をもち、一人ひとりにあった有効な手立てを自ら探求できる。 2. (思考・判断・表現) 障がいのある子どもの理解を深め、一人ひとりの発達課題に即した保育が説明できる。 3. (技能) 障がい児保育において、障がいに応じた支援を実行できる。 4. (知識・理解) 障がい児保育の意義と目的を理解し、自分なりに要点を説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク	○	プレゼンテーション					実習・フィールドワーク		
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	障がい児保育Ⅰを学ぶ意義、受講上の留意点、成績評価の説明、ディスカッションを通して、保育者としての障害児保育の考え方を整理する。									
第2回	障がいの概念、障害モデル、障害観、合理的配慮									
第3回	発達と障がい									
第4回	障がい児保育の歩み									
第5回	障がい児保育の基本のまとめ 1回～4回の確認課題(小テスト)									
第6回	肢体不自由・重症心身障がい・医療的ケアの子どもの理解と援助									
第7回	視覚障がいの子どもの理解と援助									
第8回	聴覚障がい・言語障害の子どもの理解と援助									
第9回	知的障がいの子どもの理解と援助：ディスカッション									
第10回	発達障がいの子どもの理解と援助 ①自閉スペクトラム障害：グループワーク・ディスカッション									
第11回	発達障がいの子どもの理解と援助 ②ADHD・LD：グループワーク・ディスカッション									
第12回	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助：グループワーク・ディスカッション									
第13回	障がいの種類と援助の技術と方法のまとめ 6回～12回の確認課題(小テスト)									
第14回	障がい児保育の方法と形態、職員間の連携・協働：ディスカッション									
第15回	保育課程における指導計画									
定期試験	レポート提出									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、キーワードを提示する。キーワードに関連する内容について、事前に調べ、予習用ノートにまとめる。予習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項に関連する内容について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習用ノートにまとめる。復習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。									
⑨テキスト	野田敦史・林恵編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会「演習・保育と障害のある子ども第2版」』みらい(2024)、授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、次回授業までに復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験			○	○	○		30	%		
2 小テスト			○	○	○		20	%		
3 提出物							0	%		
4 発表・実技・プレゼン	○		○	○	○		10	%		
5 受講態度	○		○	○	○		10	%		
6 自主学習態度	○		○	○	○		10	%		
7 その他	○		○	○	○		20	%		
④ルーブリック評価	取り入れている。					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・授業内レポート(リアクションペーパー等)の内容について講評する。 ・試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	障がい児保育Ⅱ Insurance for Handicapped Children Ⅱ					②科目コード	Y4-2B015			
③担当教員名	岡本 明博									
④実務経験	児童指導員・臨床発達心理士・ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士〔20年〕					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必修別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 障害児保育(演習)									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	障がい児保育の実際Ⅱ									
②授業の概要	児童指導員・臨床発達心理士として、児童発達支援センター等での児童の発達支援や幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校への発達支援相談、ケースワーカー・社会福祉士・精神保健福祉士として、児童発達支援センター及び地域の児童や家族への相談・支援の勤務経験を活かし、障がい児保育の具体的な事例をもとに講義を展開する。共生社会の実現に向けて特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する関わりが求められる。そこで、障がい児保育の意義と目的を理解し、障がいのある子どもについて理解を深め、日々の保育のあり方について学ぶ。前半では障害児保育の実践的な方法を、中盤では関係機関との連携を、後半には障がい児の事例について取り上げる。また、実践事例の検討では、少人数でディスカッションやグループワークを行い、他者との意見交換を通して学習する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度)障がい児保育に関心をもち、一人ひとりにあった有効な手立てを自らより積極的に探究できる。 2. (思考・判断・表現)障がいのある子どもの理解を深め、一人ひとりの発達課題に即した保育が専門的に説明できる。 3. (技能) 障がい児保育において、一人ひとりの障がいに応じた支援を実行できる。 4. (知識・理解) 障がい児保育の意義と目的を理解し、自分なりに要点を総合的に説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：障がい児保育Ⅱを学ぶ意義、受講上の留意点、成績評価の説明、個別の指導計画の作成									
第2回	個別の(教育)支援計画とは									
第3回	個別の(教育)支援計画の作成									
第4回	障がい児保育の記録と評価									
第5回	基本的生活習慣獲得の援助：ディスカッション									
第6回	集団生活と遊びの援助、子ども同士の関わりと育ち合いの援助：ディスカッション									
第7回	保護者や家族への支援：ディスカッション									
第8回	障がい児保育の実践的な技術と方法のまとめ 1回～7回の確認課題(小テスト)									
第9回	小学校・特別支援学校との連携：ディスカッション									
第10回	障がいのある子どもの保健・医療・福祉施策と連携、現状と課題：ディスカッション									
第11回	地域の社会資源との連携、現状と課題：ディスカッション									
第12回	障がい児に関わる教育・保健・医療・福祉施策と地域連携、現状と課題のまとめ 9回～11回の確認課題(小テスト)									
第13回	障がい児保育の実践 ① ADHD の子どもの支援：グループワーク・ディスカッション									
第14回	障がい児保育の実践 ②自閉スペクトラム症の子どもの支援：グループワーク・ディスカッション									
第15回	障がい児保育の実践 ③肢体不自由のある子どもの支援：グループワーク・ディスカッション									
定期試験	レポート提出									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、キーワードを提示する。キーワードに関連する内容について、事前に調べ、予習用ノートにまとめる。予習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項に関連する内容について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習用ノートにまとめる。復習は30分の学習時間を目安に取り組むこと。									
⑨テキスト	野田敦史・林恵編集『学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会「演習・保育と障害のある子ども第2版」』みらい(2024)、授業時に資料を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	不要									
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、次回授業までに復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験		○	○	○			40	%	
2	小テスト		○	○	○			25	%	
3	提出物							5	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			10	%	
5	受講態度	○						10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			5	%	
7	その他	○	○	○	○			5	%	
④ルーブリック評価	取り入れている。					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・授業内レポート(リアクションペーパー等)の内容について講評する。 ・試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に依じる。									
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育内容総論 Introduction to Child Care and Education						②科目コード	Y4-2A011				
③担当教員名	古川 寿子											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程	【幼二種免許・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）											
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科目】保育の本質・目的に関する科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保育内容の全般（5 領域）についての把握と理解、総合的な指導											
②授業の概要	幼稚園教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解していく。特に、具体的な幼児は遊びの中でどのような経験をしているのかについて学び、5 領域のねらいと内容のつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	・幼稚園教育の基本や各領域のねらい及び内容について理解し、遊びを通して総合的に育つことについて、具体的に説明ができる。 ・幼児が園生活の中で経験していく内容と指導上の留意点を理解している。 ・幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ・幼児教育と小学校教育との円滑な接続について説明ができる。 ・幼児の実態に沿って、保育の構想をしていくことの重要性を理解する。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	保育とはどのような営みか（幼稚園教育の基本及び評価について）											
第 2 回	保育者の役割①一人ひとりの幼児に応えるとは											
第 3 回	保育者の役割①一人ひとりの幼児に応えるとは（ディスカッション）											
第 4 回	保育者の役割②指導と援助（幼児の思考を視野に入れた保育の構想の重要性について）											
第 5 回	保育者の役割②指導と援助（幼児の言動等も視野に入れた保育の構想の重要性について）											
第 6 回	領域とは何か①保育内容と領域の関係（幼稚園教育の基本）											
第 7 回	領域とは何か①保育内容と領域の関係（各領域のねらい及び内容について）											
第 8 回	領域とは何か② 5 領域のねらい（遊びを通して総合的に育つことを理解する）											
第 9 回	領域とは何か② 5 領域内容のつながり（遊びを通して総合的に育つことを理解する）											
第10回	子どもの遊びの分析（遊びの中でどのような経験をしているのかについて学ぶ 1 基礎）											
第11回	子どもの遊びの分析（遊びの中でどのような経験をしているのかについて学ぶ 2 発展）											
第12回	幼児期における遊びと学びの関連性について（小学校以降の教科とのつながり）											
第13回	幼児期における遊びと学びの重要性について（小学校以降の教科とのつながり）											
第14回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり（幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点）											
第15回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての、振り返りとまとめ											
定期試験	筆記試験											
⑧自主学習の課題	テキストや資料、配布プリントを読み返し、理解を深めること。 予習：約 30 分間の学習時間を要する。シラバスに沿って事前に該当するテキストの箇所に目を通しておくこと。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。毎回レクチャーのあとに演習課題が出される。											
⑨テキスト												
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考資料等はその都度紹介する。必要資料はその都度配布する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレベール館 厚生労働省『保育所保育指針』フレベール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレベール館											
⑪教材費												
⑫履修条件／履修上の注意事項												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		保育の営みの理解	保育者の役割の理解	総合的に見ることの理解	遊びの重要性の理解					③配点比率		
②評価方法												
1	定期試験	○	○	○	○					70	%	
2	小テスト									0	%	
3	提出物	○	○	○	○					10	%	
4	発表・実技・プレゼン									0	%	
5	受講態度	○	○	○	○					5	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○					5	%	
7	その他 授業シート	○	○	○	○					10	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法												
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	教育相談基礎論 Fundamental Theories of Educational Counseling						②科目コード	Y3-2B002		
③担当教員名	佐藤 亜美									
④実務経験	公認心理師、臨床心理士						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2 単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【幼二種免・教育の基礎的理解に関する科目等】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法・幼児理解の理論及び方法									
⑬保育士養成課程	告示別表第2による教科目【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼稚園における教育相談活動の展開									
②授業の概要	公認心理師、臨床心理士として、幼児・児童への発達支援・心理支援を行ってきた教員が授業を担当する。実務経験をいかし、教育相談活動の具体的な事例をもとに講義を展開する。幼児の発達や学びの過程では、様々な心理的な問題が生じることがある。本講義では、幼児の発達の状況や心理的特質とともに、幼児を取り巻く環境要因を把握し、支援するための基礎的知識や方法を身に付ける。授業計画の前半では、教育相談活動の概要や幼児理解の方法について扱う。中盤では、基礎的なカウンセリング技法や園内での体制整備および地域の専門機関との連携を取り上げる。後半では、具体的な事例を通して教育相談の進め方を扱う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1.（関心・意欲・態度）教育相談活動に関心をもち、最良の実践を自ら探求できる。 2.（思考・判断・表現）幼児の心理的問題を理解し、相談活動を計画・評価できる。 3.（技能）教育相談活動に必要な観察技法、カウンセリングの諸技法を実行できる。 4.（知識・理解）教育相談を展開するために必要な基本的理論や概念を説明できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			○	ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	オリエンテーション：講義の受け方と成績評価の説明、幼稚園における教育相談の意義									
第 2 回	幼稚園における教育相談活動の役割と展開の概要									
第 3 回	教育相談活動におけるカウンセリング・マインド									
第 4 回	幼児を理解する方法（1）：観察と記録による発達の理解									
第 5 回	幼児を理解する方法（2）：観察と記録による精神力動的理解									
第 6 回	教育相談活動を展開する環境や態度									
第 7 回	教育相談活動に必要な諸技法（1）：カウンセリング技法									
第 8 回	教育相談活動に必要な諸技法（2）：行動的アプローチ									
第 9 回	地域における他職種との連携による教育相談活動									
第10回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際（1）：育児不安や児童虐待									
第11回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際（2）：場面緘黙									
第12回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際（3）：吃音									
第13回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際（4）：不登園									
第14回	幼児期の心理的問題と相談活動の実際（5）：いじめ									
第15回	教師のメンタルヘルスを高める取り組み									
定期試験	定期試験（筆記試験：持ち込みなし）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約 90 分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習ノートの提出を求める。復習には約 90 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	小田豊・秋田喜代美（編）『子どもの理解と保育・教育相談』みらい、2008 年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、2017 年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、2017 年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2017 年									
⑪教材費	不要。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業資料を web 上からダウンロードし、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験		○	○	○			30	%	
2	小テスト		○	○	○			30	%	
3	提出物	○						10	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○						10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			15	%	
7	その他	○						5	%	
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		・定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。								
Ⅳ その他										
「ピアヘルパー」、「准学校心理士」の受験や申請に必修の科目である。										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	子ども家庭支援の心理学 Psychology to support a Child and a Family					②科目コード	Y3-2A001			
③担当教員名	上原 実貴									
④実務経験	公認心理師（5 年） 森田療法心理療法士（3 年） ガイダンスカウンセラー（13 年） カウンセリング心理士（17 年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の対象の理解に関する科目 子ども家庭支援の心理学									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども及び子育て中の家庭支援に必要なとなる心理学的知識									
②授業の概要	公認心理師として子どもから高齢者までの幅広い発達の支援に携わってきた教員が授業を担当する。本講義では、生涯発達やその課題を学びつつ、子ども一人ひとりが多様な家庭背景や社会環境の中でそれらの課題に直面していることを知ることで、対象となる子ども家庭のことをより包括的に深く理解できるようにすることを目的とする。また、それらの理解を背景に、子どもの心の健康とその課題についても理解する。講義形式で授業を行うとともに、双方向型授業として、パワーポイントや個別・グループワークを用いる。関心や理解度に応じて事例を紹介するが、チームで支援する良さを知るために、部分的にプロジェクト型学習の体験をしてもらいながら授業を進めていく。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 生涯発達における各発達段階の特徴及び課題について要約して説明できる。 2. 子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得し、様々な子育て家庭の事例を包括的に理解・説明できる。 3. 子どもとその家庭を取り巻く現代の社会状況を説明できる。 4. 子どもの精神保健に対する基本的な知識及びその課題を学び、要約して説明できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	オリエンテーション：科目の目的・授業の進め方、生涯発達①青年期「自分について知る」（個別のワーク）									
第 2 回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題①：家族の時代的変化、ジェノグラム（個別のワーク）									
第 3 回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題②：結婚・出産・子育てをめぐる社会的状況、性役割意識（個別のワーク）									
第 4 回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題③：ライフコースワーク（個別のワーク）									
第 5 回	家族・家庭理解、子育て家庭の現状と課題④：多様な子育て家庭とその理解、ひとり親家庭と離婚、貧困家庭									
第 6 回	生涯発達②：職業的なアイデンティティの発達と母親の就労についてグループディスカッション									
第 7 回	子どもの精神保健とその課題①：アタッチメントの理解、母親の就労と育児不安についてグループディスカッション									
第 8 回	子どもの精神保健とその課題②：「安心感の輪」と心身の健康									
第 9 回	生涯発達③：幼児期の自己主張と青年期の自己主張の比較 グループディスカッション									
第10回	生涯発達④：幼児期～学童期までの自己調整能力、園におけるアタッチメントの留意点									
第11回	生涯発達⑤：青年期～成人期の保育者のセルフケア									
第12回	生涯発達⑥：成人期～中年期 家族のライフサイクル									
第13回	生涯発達⑦：～高齢期（祖父母）との関係、孫という存在									
第14回	生涯発達⑧：レジリエンス、社会情動的スキルの形成と人生、									
第15回	子どもの精神保健とその課題③子どもの攻撃的な行動等									
定期試験	レポート									
⑧自主学習の課題	予習：各回の授業において、次回に向けた課題を指示する。テキストの該当ページに目を通し、不明の用語はあらかじめ調べること。予習は約 90 分の学習時間を想定している。 復習：配布資料及びテキストの内容を整理し、講義内容を要約してまとめること。復習は約 90 分の学習時間を想定している。									
⑨テキスト	児童育成協会（監修）白川佳子・福丸由佳（編集）『子ども家庭支援の心理学』中央法規、2019。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		各発達段階の特徴と課題	子育て家庭の事例	子どもと家庭を取り巻く社会状況	子どもの精神保健の知識と課題	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○		○		20	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	70	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		・授業内課題に関しては、その授業中または以降の授業の中でフィードバックを行う。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に依る。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		幼児と人間関係 Children and Human Relationship						②科目コード		Y4-2A002			
③担当教員名		坂本 真季											
④実務経験		公認心理師、臨床発達心理士							⑤担当形態		単独		
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程													
⑬保育士養成課程		【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】 領域及び保育内容の指導法に関する科目・領域に関する専門的事項：人間関係											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		幼児を取り巻く現代的課題と人間関係の発達について関係発達論の視点から理解する											
②授業の概要		本演習科目は、幼児の育つ環境の現状と課題をふまえながら乳幼児の人間関係の発達の理解と保育者としてのかかわり方について理解を深めていく。公認心理師（臨床発達心理士）として子育て支援・保育現場に従事してきた教員が担当し、実務経験を活かして具体的な事例をもとに進めていく。毎回の授業は、双方向的授業としてパワーポイントや映像資料を用いて受講者の理解度や関心に応じて進める。また、事例に対するディスカッションやロールプレイなどのグループワークを取り入れる。反転授業および自主学習として Google classroom を活用して資料や課題を提示する。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1 〔関心・意欲・態度〕 幼児の人間関係を取り巻く現代的な課題と幼児期の人間関係に関心をもち、自ら探求できる。 2 〔思考・判断・表現〕 幼児の行動を状況や発達をふまえながら、多面的に考察し、意見を述べることができる。 3 〔技能〕 幼児の育ちにおいて家族や地域が果たす役割について理解し、幼児への望ましい関わり方について検討することができる。 4 〔知識・理解〕 幼児の人間関係の発達特徴について理解し、説明することができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業			○		ディスカッション・ディベート		○		
		グループワーク		プレゼンテーション					実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		現代社会の特徴と乳幼児の人間関係 * オリエンテーションを含む											
第 2 回		保育における人間関係											
第 3 回		幼児期に育みたい資質・能力											
第 4 回		幼児期に育みたい資質・能力と保育者のかかわり * 事例およびロールプレイを通して検討する											
第 5 回		乳幼児の人間関係の育ち—信頼と愛着—											
第 6 回		乳幼児と人間関係と保育者のかかわり * 事例およびロールプレイを通して検討する											
第 7 回		幼児の遊びと協同性の育ち											
第 8 回		幼児の協同性と保育者のかかわり * 事例およびロールプレイを通して検討する											
第 9 回		幼児の自立心の育ち											
第10回		幼児の自立心と保育者のかかわり * 事例およびロールプレイを通して検討する											
第11回		幼児の道徳性・規範意識の育ち											
第12回		幼児の道徳性・規範意識と保育者のかかわり * 事例およびロールプレイを通して検討する											
第13回		保育者の言葉かけ—子どもの主体性を育む観点から—											
第14回		子どもの遊びの観察方法—子どもの目線で捉える—											
第15回		子どもの人間関係と保育者の役割											
定期試験		実施する（レポート課題）											
⑧自主学習の課題		予習：次回の内容に関連する事項を調べるなど、Google classroom の課題に取り組む。約 30 分間の学習時間を要する。 復習：配布プリントと授業内容をふまえて Google classroom の課題に取り組む。約 30 分間の学習時間を要する。											
⑨テキスト		なし											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等		・ 受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待します。 ・ やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 ・ 本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回の講義で伝えます）。 ・ 自宅学習が必要な状況となった場合には、Google classroom（meet を含む）を活用しオンライン授業を行う。											
⑪教材費													
⑫履修条件 / 履修上の注意事項													
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		③配点比率			
②評価方法													
1 定期試験		○		○		○		○		40 %			
2 小テスト										0 %			
3 提出物		○		○		○		○		40 %			
4 発表・実技・プレゼン		○		○		○		○		0 %			
5 受講態度		○		○		○		○		10 %			
6 自主学習態度		○		○		○		○		10 %			
7 その他										0 %			
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		保育内容の指導法「人間関係」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Human Relationships						②科目コード		Y4-2B010			
③担当教員名		藪中 征代											
④実務経験								⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期 後期		⑧単位 (時間数) 1 単位 (30)		⑨授業 形態 演習		⑩必選 別 選択			
⑪関連免許資格等		幼二種 免許 必修		特二種 免許 必修		保育士 資格 必修		発達障がい児 保育 BP 修了					
⑫教職課程		【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）											
⑬保育士養成課程		【厚生労働省告示別表第1による教科科目】 保育の内容・方法に関する科目 保育内容演習											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		人間関係を育むための援助方法											
②授業の概要		本授業では、領域「人間関係」のねらい及び内容の理解を深める。保育内容「人間関係」は時代の流れや変化の中で非常に重視しなければならない領域であり、人間の原点である乳幼児期の人間形成の重要性について理解する。そのことを理解した上で、幼稚園・保育所・幼保連携型こども園における子どもの人間関係の形成について考える。「人間関係」の範囲は、乳幼児同士、乳幼児と保護者や保育者、保育者同士、保育者と保護者など多岐にわたる。学生にとっては未だ構築したことのない人間関係を扱うにあたり、具体的な保育現場の事例を映像教材で示し、実際の乳幼児の姿をイメージしやすいようにする。											
③履修者の到達目標 (学習成果)		1. 領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造・指導上の留意点を説明できる。 2. 保育現場における人間関係を育むための指導を計画できる。 3. 遊びや生活の中で「人と関わる力」がどのように発達するのか、および発達に即した援助を理解し、それを説明できる。 4. 具体的な事例を通して、人と関わる力をはぐくむための適切な援助について説明できる。											
④ディプロマポリシー (DP) との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラー ニング実施内容		プロジェクト型学習		〇		反転授業		ディスカッション・ディベート		〇			
⑥ ICT 機器による 授業や支援		グループワーク		〇		プレゼンテーション		〇		実習・フィールドワーク		〇	
⑦授業の計画（授業の内容）		パソコン・タブレット端末による 双方向授業											
第 1 回		ガイダンス、領域「人間関係」の意義を理解する。											
第 2 回		領域「人間関係」のねらいの意味とねらいを達成するための援助を理解する。											
第 3 回		乳幼児を取り巻く環境、家庭生活の変化と課題を知る。											
第 4 回		0歳児～2歳児の人との関わりが育つ過程を理解する。また、発達に即した保育者の援助について学び、指導計画に表す。											
第 5 回		3歳児～5歳児の人との関わりが育つ過程を理解する。また、発達に即した保育者の援助について学び、指導計画に表す。											
第 6 回		愛着形成の視点から、愛着の形成過程、大人の関わりの基本姿勢について理解する。											
第 7 回		依存と自立の視点から依存の意味を考え、依存と自立の関係を理解する。また、自立に向けた保育者の援助について理解する。											
第 8 回		自我の発達、自己主張、自己抑制の関係を理解する。											
第 9 回		乳幼児期のコミュニケーションの特徴と重要性を理解し、コミュニケーション能力をはぐくむ保育者の援助を理解する。											
第10回		生活や遊びの中でとらえた子ども同士の関係、保育者の援助について理解し、いざこざの原因、保育者の援助についてまとめる。											
第11回		いざこざを通して成長する力を知り、いざこざへの対処、援助の方法を理解する。											
第12回		共感する気持ちや思いやりをはぐくむための援助を理解、幼児期にふさわしい道徳性、人権教育について考える。											
第13回		個と集団の関係を考え、一人一人が生かされる集団について理解し、協同性をはぐくむための適切な援助について考える。											
第14回		都市化の動向の中で地域資源を活用し、様々な人と関わる展開を考える。											
第15回		国際化の動向の中で、多文化保育を通じた多様な子どもとの関わりを考える。											
定期試験		実施する（課題レポートの提出）											
⑧自主学習の課題		復習：毎回の授業内容のキーワードや論点をもとに復習をすること。次回のキーワードを予習し、疑問点をノートにまとめておくこと。復習には約 60 分の学習時間を要する。 予習：各授業回において予習事項を提示する。予習事項についてはノートにまとめておくこと。予習には約 60 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト		藪中征代・玉瀬友美編著『保育内容・人間関係』萌文書林（2023 年 7 月発刊予定）											
⑩参考書 / 参考資料 ／ 準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		なし											
⑫履修条件 / 履修上 の注意事項		グループディスカッションでは、積極的に自身の考えを他者に発表すること。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		ねらい・内容		指導計画		「人と関わる 力」の発達 と援助		「人と関わる 力」をはぐくむ 援助		③配点比率			
②評価方法													
1 定期試験		〇		〇		〇		〇		40 %			
2 小テスト		〇		〇		〇		〇		30 %			
3 提出物		〇		〇		〇		〇		10 %			
4 発表・実技・プレゼン		〇		〇		〇		〇		20 %			
5 受講態度										0 %			
6 自主学習態度										0 %			
7 その他										0 %			
④ルーブリック評価		取り入れている										比率合計 100 %	
⑤課題等に対するフィード バックの方法		課題に対しては以下の方法でフィードバックを実施 ・個別にゲーグルクラスルーム等へのコメント付きの返却 ・集団に対しては、対面授業時に課題の解説を実施											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	知的障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physicology, Psychology for Intellectually Disabled Persons						②科目コード	Y3-2A004				
③担当教員名	木下 愛											
④実務経験	公認心理師、臨床心理士						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了		必修			
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育の対象の理解に関する科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	知的障害の特性の理解											
②授業の概要	公認心理師、臨床心理士として、障害児童の心理支援を行なってきた教員が授業を担当する。児童精神科クリニックおよび療育機関において、種々のアセスメント方法を用いて、児童生徒の理解を他の専門職と協働した経験を生かし、知的障害者の具体的な事例を紹介する。講義では、知的障害者の心理的、生理的、病理的的特性について学習する。個の特性に応じた適切な発達教育支援の在り方、知的障害とこれに関連する障害、合併疾患などについて学び、基礎的知識を身につける。受講生には、毎回の授業においてディスカッションに参加することが求められる。											
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 知的障害の定義や原因を説明できる。 2. 知的障害に関連する障害の概要を説明できる。 3. 知的障害の運動・認知特性と支援を説明できる。 4. 知的障害の言語・社会的特性と支援を説明できる。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		○		ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○			
⑦授業の計画(授業の内容)												
第 1 回	オリエンテーション(講義の受け方と成績評価の説明)、知的障害の定義と知的機能											
第 2 回	知的障害の原因(生理型と病理型の理解)											
第 3 回	知的障害と関連する障害: ダウン症候群											
第 4 回	知的障害と関連する障害: てんかん											
第 5 回	知的障害の運動特性と支援											
第 6 回	知的障害の感覚・知覚・認知特性と支援											
第 7 回	知的障害の言語・コミュニケーション特性と支援											
第 8 回	知的障害のパーソナリティ・社会性と支援											
定期試験	定期試験(筆記試験: 持ち込みなし)を実施する											
⑧自主学習の課題	予習: 各授業回において、予習シートを配布する。授業時において紹介する参考資料をもとに、調べておくこと。授業回の開始時に予習シートの提出を求める。予習には約 90 分の学習時間を要する。 復習: 各授業回において、復習シートを配布する。復習事項について、当日の資料や参考書等を用いて調べ、復習シートにまとめておくこと。授業回の開始時に復習ノートの提出を求める。復習には約 90 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。											
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版、2018 年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)』海文堂出版、2018 年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂出版、2018 年											
⑪教材費	不要											
⑫履修条件/履修上の注意事項	やむを得ず授業を欠席した場合には、授業資料を担当教員にメール連絡するなどして入手し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。必ず次回授業までに授業資料を入手すること。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		定義と原因	関連障害	運動・認知	言語・社会			③配点比率				
②評価方法												
1 定期試験		○	○	○	○			40	%			
2 小テスト		○	○	○	○			40	%			
3 提出物								0	%			
4 発表・実技・プレゼン								0	%			
5 受講態度								0	%			
6 自主学習態度		○	○	○	○			20	%			
7 その他								0	%			
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・ 定期試験の素点および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。											
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理 Pathology, Physicology, Psychology for Disabled Persons						②科目コード	Y3-2A005				
③担当教員名	渡邊 章											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期		⑧単位(時間数)	1 単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許	必修		保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育の対象の理解に関する科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理について学ぶ											
②授業の概要	この授業では、肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や関係機関との連携について理解する。											
③履修者の到達目標(学習成果)	1) 肢体不自由の起因疾患となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2) 観察や検査を通して、脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3) 家庭や医療機関との連携の重要性について理解している。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○			
⑦授業の計画(授業の内容)												
第 1 回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー											
第 2 回	肢体不自由の概念											
第 3 回	肢体不自由の起因疾患											
第 4 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の認知の困難と特性の把握											
第 5 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒のコミュニケーションの困難と特性の把握											
第 6 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の運動・動作の困難と特性の把握											
第 7 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の移動介助における配慮点											
第 8 回	肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の支援における家庭や医療機関との連携											
定期試験	レポート提出											
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約 90 分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約 90 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		肢体不自由者の心理・生理・病理に関する基本	肢体不自由者の生活や学習における配慮点					③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験	○	○						50	%		
2	小テスト								0	%		
3	提出物	○	○						20	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○						10	%		
5	受講態度	○	○						10	%		
6	自主学習態度	○	○						10	%		
7	その他								0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		毎回提出するレポートへのコメントによりフィードバックする。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名	病弱者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Invalids						②科目コード		Y3-2A006				
③担当教員名	渡邊 章												
④実務経験							⑤担当形態		単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(15)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		必修		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程	【特二種免許・特別支援教育に関する科目】特別支援教育領域に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目												
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育の対象の理解に関する科目												
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理について学ぶ												
②授業の概要	この授業では、病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気等に関する病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解し、幼児、児童又は生徒一人一人の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を理解するとともに、家庭や学校間、関係機関との連携について理解する。												
③履修者の到達目標（学習成果）	1) 病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解している。 2) 観察や検査、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性を把握することを理解している。 3) 家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性について理解している。												
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション			⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習					反転授業					ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク		○		プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業							グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回	イントロダクションー授業のねらいと学習の進め方ー												
第 2 回	病弱（身体虚弱を含む）の概念												
第 3 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気（身体疾患や精神疾患）や心身の不調な状態が続く背景となる病理面と心理面及び生理面の特徴とそれらの相互作用												
第 4 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の病気や障害の状態、社会性の発達及び認知の特性の把握												
第 5 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の支援における心理面の配慮点												
第 6 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の支援におけるアシスティブテクノロジーの活用と配慮点												
第 7 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の食の支援における配慮点												
第 8 回	病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の支援における家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携												
定期試験	レポート提出												
⑧自主学習の課題	予習 次回のテーマについて各種資料を調べて概要を理解しておく。毎回の授業開始時に質疑応答により理解度を確認する。予習に約 90 分の学習時間を要する。 復習 毎回配布する資料から重要な点を整理し、考察を加えて提出する。復習に約 90 分の学習時間を要する。												
⑨テキスト	植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著『特別なニーズ教育の基礎と方法』ジヤース教育新社												
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考図書は、授業で随時紹介する。 準備物については、授業で指示する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版												
⑪教材費	なし												
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		病弱者の心理・生理・病理に関する基本	病弱者の生活や学習における配慮点							③配点比率			
②評価方法													
1	定期試験	○	○							50	%		
2	小テスト									0	%		
3	提出物	○	○							20	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○							10	%		
5	受講態度	○	○							10	%		
6	自主学習態度	○	○							10	%		
7	その他									0	%		
④ルーブリック評価										比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法													
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	視覚障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Visually Impaired Persons					②科目コード	Y3-2A007			
③担当教員名	大内 進									
④実務経験	特別支援学校教諭（25 年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（15）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	必修	保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程	【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目									
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育の対象の理解に関する科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	視覚障害児・者の心理・生理・病理について、特別支援教育との関連においてその基本事項を学ぶ。									
②授業の概要	盲学校教員としての実務経験や国立特別支援教育総合研究所等での研究職としての視覚障害教育に関する実際の研究成果を踏まえて、生理に関しては主に視覚及び触覚の基礎知識について、病理に関しては視覚障害と関連深い眼疾患の概要と保育や教育の場で配慮すべき事項について、心理については全盲児及び弱視児の認知特性とそれに伴った支援や指導での配慮事項について、それぞれ感覚代行の有用性と関連付けて概説する。障害理解の観点から点字や白杖歩行等の習得のメカニズムも紹介する。 講義は基本的にパワーポイントを用いて双方向型の授業の推進および授業内容の理解促進に努める。 グーグルクラスルーム（googleclassroom）を利用して自主学習を支援する。 点字、歩行、日常動作については実習活動を取り入れる。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 眼の機能等に関連付けて視覚障害の概要を説明できる。 2. 全盲児及び弱視児の知覚・認知・概念発達等の特性を説明できる。 3. 視覚に障害がある幼児児童の保育や教育場面における有効な視覚や視覚以外の感覚を活用した指導や支援を行うための配慮事項を説明できる。 4. 点字、歩行および日常生活動作等に関する基本事項を学び、感覚代行の有用性と関連付けて説明できる（障害理解）。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	①視覚障害とは		②眼の構造と働き		③点字の基礎（1）点字とは					
第 2 回	①視覚と視機能		②点字の基礎（2）点字表記（清音）							
第 3 回	①視覚障害に関連する主な眼疾患		②点字の基礎（3）点字表記（濁音等）							
第 4 回	①触覚の生理と機能		②点字の基礎（4）点字表記（数字等）							
第 5 回	①視覚障害児の知覚特性と認知発達		②点字の基礎（5）点字文法の基本							
第 6 回	①視覚障害児の概念形成		②介添え歩行の原則							
第 7 回	①中途障害者と「障害の受容」の課題		②白杖歩行及び日常動作の自立の基礎							
第 8 回	①視覚障害者の自立と社会参加		②視覚障害者の心理・生理・病理面から保育における配慮についてまとめる。							
定期試験	筆記試験（持ち込みなし）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回においてキーワード及び参考資料等を示し、事前学習を求める。予習した内容は所定のシートに記載し、授業回の開始時に提出を求める。約 90 分の学習時間を要する。 復習：各学習回において、復習事項及び理解確認のための課題シートあるいはレポートを提示する。課題等は次の授業開始時に提出を求める。約 90 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	毎回、プリント資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書 香川邦生他編『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』教育出版、 香川邦生編、猪平真理、大内進、牟田口辰己著『視覚障害教育に携わる方のために五訂新版』慶応義塾大学出版会 2021 年 阿佐 博著『点字のレッスン』改訂新版視覚障害者支援総合センター 2020 年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂出版 2018 年 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』開隆堂出版 2018 年									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		眼の機能と視覚障害の概要	知覚・認知・概念発達等の特性	保育や教育場面での配慮について	障害理解			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○			50	%	
2	小テスト	○	○	○	○			10	%	
3	提出物	○	○	○	○			10	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			10	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題やレポートについては添削の上返却する。									
Ⅳ その他										
国家資格ではないが、下記の教員免許を有する。 中学校教諭一級（社会）、高等学校教諭二級（社会）、養護学校教諭一級、小学校教諭2種、盲学校教諭2種										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名		聴覚言語障害者の心理・生理・病理 Pathology, Physiology, Psychology for Hearing Impaired Persons					②科目コード		Y3-2A008			
③担当教員名		村尾 愛美										
④実務経験		リソースルームティーチャー（1 年）／児童指導員（3 年）					⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講 期	後期	⑧単位 （時間数）	1 単位 （15）	⑨授業 形態	講義	⑩必選 別	選択	
⑪関連免許資格等		幼二種 免許		特二種 免許	必修	保育士 資格			発達障がい児 保育 BP 修了			
⑫教職課程		【特二種免・特別支援教育に関する科目】免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目・心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理・生理及び病理に関する科目										
⑬保育士養成課程		【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育の対象の理解に関する科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ		聴覚障害及び言語障害に関する心理・生理・病理学的な基礎事項と子どもの特性										
②授業の概要		リソースルームティーチャーとして通常の学級に在籍している発達障害等により特定の教科学習の理解に困難を示している児童に対する学習支援、また、児童指導員として児童発達支援センターにおける発達に遅れや偏りのある乳幼児に対する指導・支援などの実務経験のある教員による講義である。 本授業では、聴覚障害、言語障害の心理・生理・病理に関する基礎知識及び技能を身につけることをねらいとする。また、言語・コミュニケーションの困難さと関連して、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害や情緒障害におけるコミュニケーションの問題についても学習する。										
③履修者の到達目標 （学習成果）		1 [知識・技能] 言語障害、聴覚障害の概念・定義、種類・原因を説明できる。言語障害児、聴覚障害児の特性について説明できる。言語障害及び聴覚障害の評価法を説明できる。いわゆる知的発達に遅れのない発達障害や情緒障害における言語・コミュニケーションの問題を説明できる。 2 [思考・判断・表現] 言語獲得と言語障害及び聴覚障害との関係、その他の言語・コミュニケーションの困難さに関する知見に基づき、言語・コミュニケーションの成り立ち、それを踏まえた在り方について述べることができる。 3 [関心・意欲・態度] 言語障害児、聴覚障害児を含め、言語・コミュニケーションに困難さを示す子どもの特性に関心を持ち、自ら学習を進めることができる。										
④ディプロマポリシー （DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニ ング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
		グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による 授業や支援		パソコン・タブレット端末による 双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回		言語獲得、言語発達について：授業のねらい、進め方を含む										
第 2 回		言語障害の基礎知識：音声言語の困難さ、構音障害、吃音について										
第 3 回		言語障害の基礎知識：音声言語の困難さ、特異的言語発達障害（SLI）について										
第 4 回		言語障害の基礎知識：書記言語の困難さ、発達性ディスレクシアについて										
第 5 回		聴覚障害の基礎知識：概念・定義、障害の種類と原因について										
第 6 回		聴覚障害の基礎知識：きこえの評価について										
第 7 回		聴覚障害の基礎知識：きこえの困難さと言語について										
第 8 回		その他の言語・コミュニケーションの問題：自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害、情緒障害のある子どもの困難さ										
定期試験 期末レポート（本授業の目標に対する到達度評価する）												
⑧自主学習の課題		予習：各授業回において、次回の授業内容に関する資料を配布し、予習事項を提示する。配布資料を含め、参考書・参考資料などを用いて予習しておくこと。予習には約 90 分を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。配布資料や参考書・参考資料などを用いて、復習事項をまとめ、次回の授業までに提出すること。復習には約 90 分を要する。										
⑨テキスト		必要に応じて、資料を配布する。										
⑩参考書 / 参考資料 ／ 準備物等		我妻敏博『聴覚障害児の言語指導－実践のための基礎知識 改訂版』田研出版、2011。 岩立志津夫・小椋たみ子（編）『よくわかる言語発達 改訂新版』ミネルヴァ書房、2017。 加藤正子・竹下圭子・大伴 潔（編著）『特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2012。 小林宏明・川合紀宗（編著）『特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子どもの理解と支援』学苑社、2013。 大伴 潔・大井 学（編著）『特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援』学苑社、2011。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 文部科学省『特別支援学校幼稚園部教育要領小学部・中学部学習指導要領—平成 29 年 4 月告示』海文堂出版										
⑪教材費		不要										
⑫履修条件 / 履修上 の注意事項		本授業ではグーグルクラスルームを用いて課題及び授業資料の提示を行う。そのため、クラスルームに必ず参加すること（担当教員が初回授業時までに案内する）。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		知識・技能		思考・判断・ 表現		関心・意欲・ 態度						
②評価方法										③配点比率		
1	定期試験	○		○						50 %		
2	小テスト	○		○						20 %		
3	提出物	○		○		○				20 %		
4	発表・実技・プレゼン									0 %		
5	受講態度					○				5 %		
6	自主学習態度					○				5 %		
7	その他									0 %		
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計		100 %	
⑤課題等に対するフィード バックの方法		授業回ごとの提出物に対して、講評を行う。 定期試験及び最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育内容の指導法「言葉」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care;Language							②科目コード	Y4-2B008			
③担当教員名	古川 寿子											
④実務経験								⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程	【幼二種免・教職に関する科目】教育課程及び指導法に関する科目・保育内容の指導法											
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習 (演習)											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	乳幼児の言葉の発達を促す指導法について学ぶ											
②授業の概要	幼稚園・保育所等において、乳・幼児の言葉の発達過程や学びの過程を踏まえた適切な指導や支援のできる幼稚園教諭・保育士になるために、領域「言葉」のねらいと内容を押さえた上で、乳・幼児の年齢に応じた「言葉の発達」を促す指導案作成と口頭発表・実演を行うこととする。また、幼稚園教諭・保育士の言葉掛けや援助について理解を深める。											
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の領域「言葉」のねらいと内容について理解し、説明することができる。 2. 乳・幼児の「言葉」の発達の過程を理解し、実践に活かすことができる。 3. 乳・幼児の「言葉」を促す児童文化財について理解し、援助・指導の方法を学ぶとともに、指導案を作成・実演を行うことができる。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○		○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		○			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業							ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画 (授業の内容)												
第 1 回	授業の進め方・評価方法について、言葉の働きと児童文化財について学ぶ。学生による発表内容とグループの決定											
第 2 回	児童文化財の理解とグループで採り上げる「言葉遊び」「絵本」「紙芝居」「素話」等の検討。「0、1、2歳児用絵本」の特徴についての理解											
第 3 回	教材研究の方法についての説明①「3、4、5歳児用の絵本」の特徴を知る。図書館で絵本・紙芝居等を研究する。指導案の書き方を学ぶ											
第 4 回	乳幼児の言葉の発達の実態① 0～2歳、乳児の言葉を育てる「語りかけ」についての理解											
第 5 回	『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「言葉」の領域の3つの視点とねらい・内容 (0.1.2歳児)											
第 6 回	乳幼児の言葉の発達の実態② 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解 (3～4歳児)											
第 7 回	乳幼児の言葉の発達の実態③ 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解 (4～5歳児)											
第 8 回	乳幼児の言葉の発達の実態④ 3～6歳前後、保育現場における子どもの言葉の成長・発達についての理解 (5～6歳児)											
第 9 回	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の「言葉」の領域のねらい (3.4.5歳児)											
第10回	学生発表準備 (幼稚園教育要領の内容の発表資料作成)											
第11回	学生発表①乳・幼児への言葉の指導 (0・1・2歳児向き絵本による演習)と内容 (1・2・3) の発表、全員による講評、教師による補説を行う。											
第12回	学生発表②幼児への言葉の指導 (3・4歳児向き絵本・素話による演習)と内容 (4・5・6) の発表 全員による講評、教師による補説を行う											
第13回	学生発表③幼児への言葉の指導 (5歳向き絵本・素話による演習)と内容 (7・8・9) の発表 全員による講評 教師による補説を行う											
第14回	学生発表④言葉を育てる児童文化財 (4・5歳児向き紙芝居・素話による演習)と内容 (10) の発表 全員の講評 教師による補説と文字指導についての理解											
第15回	学生発表⑤言葉を育てる児童文化財 (言葉遊びによる演習)と言葉に支援の必要な幼児の指導についての理解。											
定期試験	筆記試験 (持ち込みなし) を実施する。											
⑧自主学習の課題	予習：グループ発表のスケジュールに基づき、演習発表・指導案の実演で採り上げる言葉遊び・絵本・紙芝居・素話についての調査・研究・発表資料作成・実演の練習を行う。約 30 分の学習時間を要する。 復習：乳・幼児の言葉の発達過程と児童文化財の選定・活用について復習し、後期の「幼稚園教育実習」および専攻科の「保育実習」に役立てられるようにする。約 30 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助 ミネルヴァ書房											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	実習の日程により、計画の順序が変わることがある。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目 ②評価方法		領域「言葉」のねらいと内容の理解	乳・幼児の言葉の発達への理解	乳・幼児への言葉掛け・援助・指導の方法	領域「言葉」における指導案の作成・実演	③配点比率						
1	定期試験	○	○	○	○	70	%					
2	小テスト					0	%					
3	提出物	○	○	○	○	10	%					
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	10	%					
5	受講態度	○	○	○	○	5	%					
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%					
7	その他					0	%					
④ルーブリック評価		取り入れている (学生による演習発表について)					比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目														
①科目名	社会福祉論 Social Welfare							②科目コード		Y2-2A004				
③担当教員名	野崎 陽弘													
④実務経験	障害児者相談支援（17 年）（社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師）							⑤担当形態		単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択			
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程														
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的の理解に関する科目 社会福祉（講義）													
Ⅱ 授業内容に関する項目														
①テーマ	保育士のための社会福祉の基礎知識													
②授業の概要	障害児・者の相談支援事業や生活困窮者支援、ひきこもり支援などに従事してきた教員が本科目を担当する。事例や実践を踏まえながら、社会福祉に関する歴史や法制度、理論などについて講義を展開する。前半では、社会福祉の意義と歴史的変遷、法制度やその動向について、後半は社会福祉の専門職としての価値・知識・技術、権利擁護のあり方や仕組みなどについて取り上げる。													
③履修者の到達目標（学習成果）	1 〔関心・意欲・態度〕社会福祉の意義、歴史的変遷、法制度の動向に関心を持ち、自ら探求できる。 2 〔思考・判断・表現〕社会福祉における現代的課題について多面的に考察し、社会福祉制度や相談援助の原則をふまえて自分の意見を述べることができる。 3 〔技能〕社会福祉に関する事例について必要な情報を選択し、課題解決に向けた検討ができる。 4 〔知識・理解〕社会福祉の理念、法制度や体系、相談援助の原則について理解し説明することができる。													
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性					
	○		○											
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート							
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク							
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							
⑦授業の計画（授業の内容）														
第 1 回	私たちの生活と社会福祉													
第 2 回	社会福祉のあゆみ													
第 3 回	生活を守る社会保障制度													
第 4 回	社会福祉の制度と体系													
第 5 回	社会福祉の実施機関													
第 6 回	社会福祉の施設													
第 7 回	子ども家庭支援と社会福祉													
第 8 回	共生社会と障がい者福祉													
第 9 回	高齢者の福祉と介護保険													
第10回	地域福祉の意味と推進方法													
第11回	社会福祉の専門職と倫理													
第12回	相談援助の原理と方法													
第13回	福祉サービスの利用支援と第三者評価													
第14回	権利擁護と苦情解決													
第15回	社会福祉の動向と課題													
定期試験	実施する（筆記試験・持ち込みなし）													
⑧自主学習の課題	予習：各回に該当するテキストの章を事前に読み、概略を理解しておく。予習には約 90 分間の学習時間を要する。 復習：テキストおよび配付資料を中心に復習を行うこと。復習には約 90 分間の学習時間を要する。													
⑨テキスト	橋本好市・宮田徹（編）『保育と社会福祉（第4版）』みらい													
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館													
⑪教材費	なし													
⑫履修条件／履修上の注意事項														
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率														
①学習項目		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解				③配点比率		
②評価方法														
1	定期試験			○		○		○				70	%	
2	小テスト											0	%	
3	提出物											0	%	
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○		○				20	%	
5	受講態度	○										10	%	
6	自主学習態度											0	%	
7	その他											0	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない									比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価についての問い合わせは個別に応じる。												
Ⅳ その他														

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	子ども家庭福祉 Child and Family Welfare					②科目コード	Y2-2A005					
③担当教員名	野田 敦史											
④実務経験	児童指導員・支援員（社会福祉士・介護福祉士）					⑤担当形態	単独					
⑥開講対象	幼児保育学科	2 年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の本質・目的の理解に関する科目 子ども家庭福祉（講義）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	子ども家庭福祉に関する基本的な知識・理解											
②授業の概要	児童指導員・支援員（社会福祉士・介護福祉士）として児童福祉施設等で従事してきた教員が講義を担当する子どもを取り巻く歴史と現状を踏まえ、子ども家庭福祉の基本的理念や概念、制度等が、それらの事象とどのように結びついているのか理解を深める。 授業方法は講義が中心となるが、具体的な子ども家庭福祉の制度に関連する機関・施設等のイメージを理解できるよう動画等の視聴も取り入れながら授業展開する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 【関心・意欲・態度】 子どもを取り巻く歴史や現代の社会情勢について関心と社会的課題意識を持つことができる。 2. 【思考・判断・表現】 子どもの福祉・家庭に関連する社会的課題を統計データから読み取り、説明することができる。 3. 【技能】 子ども家庭福祉分野の施策と支援サービスを体系的に分類し、それに対応した保育士としての役割を実行（イメージ）できる。 4. 【知識理解】 子ども家庭福祉の知識を使って支援の現状と課題を説明することができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		〇		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				〇		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	子ども家庭福祉を学ぶにあたって											
第 2 回	子どもとその家族を取り巻く社会の現状											
第 3 回	子どもとその家族が直面している諸問題											
第 4 回	子どもの権利と子ども家庭福祉の理念											
第 5 回	子ども家庭福祉の歴史											
第 6 回	子ども家庭福祉に関する法制度											
第 7 回	子ども家庭福祉の実施体制											
第 8 回	少子化対策と保育施策											
第 9 回	子どもの健全育成・地域子育て支援に関するサービス											
第10回	児童虐待とドメスティック・バイオレンス											
第11回	社会的養護を必要とする子どもに対するサービス											
第12回	障がいのある子どもとその家庭に対するサービス											
第13回	非行問題や心理治療の必要性を抱える子どもへのサービス											
第14回	ひとり親家庭に対するサービスと子どもの貧困問題											
第15回	貧困家庭、外国へつながる子どもの家庭に対するサービス											
定期試験	筆記試験（持ち込みなし）を実施する											
⑧自主学習の課題	予習：授業回のテーマに沿ったテキスト内の該当章を通読し、課題ワークシートに取り組む（約 90 分間の学習時間を要する）。 復習：課題ワークシートに授業の感想・質疑を記入する（約 90 分間の学習時間を要する）。											
⑨テキスト	比嘉真人監修、石山直樹ら編集【第 2 版】『輝く子どもたち・子ども家庭福祉論』みらい 2022 年											
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 参考資料：厚生労働省 HP「子ども・子育て」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/index.html											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件／履修上の注意事項	課題ワークシートは毎回、事前に配布するので記入しておくこと。 小テストは毎回、実施予定。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識理解		③配点比率		
②評価方法												
1 定期試験		〇		〇				〇		50	%	
2 小テスト		〇		〇				〇		25	%	
3 提出物		〇		〇				〇		10	%	
4 発表・実技・プレゼン										0	%	
5 受講態度		〇								5	%	
6 自主学習態度		〇		〇				〇		10	%	
7 その他										0	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		小テストの結果及び模範解答は、授業回ごとにフィードバックする。 成績評価に対する問い合わせは、各評価項目ごとの評価基準と素点をもとに個別に説明する。										
Ⅳ その他												
「社会福祉主事任用資格」に該当する科目である。												

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	子ども家庭支援論 Child and family Support Theory					②科目コード	Y2-2B006			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	2 単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 家庭支援論 (講義)									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	子育て家庭の現状と支援のあり方									
②授業の概要	公認心理師(臨床発達心理士)として保育現場に従事してきた教員が本講義を担当する。実務経験を活かして、事例や映像資料を取り入れながら講義を展開する。本講義は子育て家庭を取り巻く問題や家族形態の多様化をふまえた支援のあり方および制度と保育者の役割について取り上げる。毎回の講義は双方向型授業として、パワーポイントを用いて受講者の理解度や関心に応じて進めていく。また、Google classroom を活用し課題および授業資料を提示することで学生の自主学習を支援する。また、Classroom を活用して反転授業を多く取り入れる予定である。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 家庭支援の意義、現状、動向に関心を持ち、自ら探求できる。 2 [思考・判断・表現] 家庭支援における現代的課題について多面的に考察し、支援制度や保育士に求められる基本的態度をふまえて自分の意見を述べることができる。 3 [技能] 家庭支援に関する事例を読んで必要な情報を選択し課題解決に向けた検討ができる。 4 [知識・理解] 子育て家庭のニーズに応じた支援展開、現状と課題について理解し説明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習			反転授業		○		ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク			プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画(授業の内容)										
第 1 回	子どもと家庭を取り巻く環境①―家族と家庭の現状― * 授業の進め方を含む									
第 2 回	保育者による家庭支援―子ども家庭支援の基本的な考え方―									
第 3 回	子育て家庭への支援体制①―子育て家庭を支える社会資源―									
第 4 回	子育て家庭への支援体制②―子育て家庭を支える法・制度―									
第 5 回	保育者に求められる基本的態度									
第 6 回	保育者に求められる相談技術									
第 7 回	保育所等の家庭支援									
第 8 回	地域の子育て家庭への支援									
第 9 回	さまざまな家庭の理解と支援①―ひとり親家庭・ステップファミリー―									
第10回	さまざまな家庭の理解と支援②―里親家庭・外国にルーツのある家庭―									
第11回	不適切な養育環境の子どもと家庭への支援									
第12回	発達障害児等の理解と家庭への支援									
第13回	子どもの貧困の理解と家庭への支援									
第14回	保育におけるソーシャルワーク									
第15回	保育が子ども家庭支援に果たす役割									
定期試験	実施する(レポート試験)									
⑧自主学習の課題	予習:テキストの各回に該当する章を読み、Google Classroom の課題に取り組む。約 90 分間の学習時間を要する。 復習:各回、配布プリントとテキストを参考に Googl Classroom の課題に取り組む。約 90 分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	石動瑞代・中西彦彦・隣谷正範編著『保育と子ども家庭支援論』みらい出版社 2020 年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待します。 ・やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 ・本科目の Classroom に必ず参加すること(クラスコードは初回の講義で伝えます)。 ・遠隔授業が必要となった場合には、Google classroom の meet 機能を利用し、オンラインによる授業を行います。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験			○	○	○		40		%	
2 小テスト		○	○	○	○		30		%	
3 提出物		○	○	○	○		20		%	
4 発表・実技・プレゼン							0		%	
5 受講態度		○					5		%	
6 自主学習態度		○					5		%	
7 その他							0		%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
Ⅳ その他										
・ピアヘルパー資格に該当する科目である。										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名		幼児と表現（音楽）Ⅱ Children and Expression; Music Ⅱ						②科目コード		Y4-2A005		
③担当教員名		町田 治 浅賀 ひろみ 山岸 智秋 中野 由紀子 武内 理恵 長永 理恵 恵須川 理津子										
④実務経験		幼稚園教諭（浅賀、中野）、保育士（浅賀）						⑤担当形態		複数・クラス分け		
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程												
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ		保育に必要な音楽表現活動のための知識、技術と表現力										
②授業の概要		ピアノの演奏技術、歌唱、弾き歌いに関する知識や技術を習得する中で、保育に必要な音楽とその音楽の様々な活用法について学ぶ。										
③履修者の到達目標（学習成果）		1. [ピアノの演奏技術] 保育現場に必要なピアノ演奏の技術を身につける。 2. [ピアノ演奏の表現技術] 音楽的表現を意識したピアノの演奏技術を習得する。 3. [発声法と歌唱表現力] 保育現場で使える歌唱表現力を習得する。 4. [弾き歌いの技術] できるだけ多くの課題を練習することで、弾き歌いの技術を向上させる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
		グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○		
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回		ピアノ演奏法 指や腕の開閉練習 腕の脱力と手首の使い方										
第 2 回		ピアノ演奏法 手首の回転と腕の脱力 やってはいけない運指										
第 3 回		ピアノ演奏法 反復音の練習とスタッカート オクターブの弾き方										
第 4 回		声楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声										
第 5 回		声楽 発音練習 母音と子音の発音の仕方 プレスについて										
第 6 回		声楽 発音練習 日本語の詩の特徴 スタッカートとアクセント										
第 7 回		ピアノ演奏法 レガート奏法の練習 運指の工夫 親指の活用										
第 8 回		ピアノ演奏法 重音のレガート練習 ミスをして音楽を止めないための工夫										
第 9 回		ピアノ演奏法 ペダルの練習 弱音ペダルの使用法										
第 10 回		声楽 表現に結びつけた発声練習 声を弾ませる										
第 11 回		声楽 音の高低による発声の違いと工夫 遠くまで声を響かせる工夫										
第 12 回		声楽 歌唱表現の工夫 レガートで歌う 顔の表情を使って										
第 13 回		弾き歌い 旋律を弾きながら歌う 旋律は言葉のリズムと同じように										
第 14 回		弾き歌い 伴奏を弾きながら歌う 声の主、ピアノは従										
第 15 回		弾き歌い 同じ曲を違った速さで歌う 何があっても止まらない										
定期試験		公開演奏による実技試験										
⑧自主学習の課題		予習と復習 授業で決められた課題曲の予習復習を充分に行うこと。毎回60分以上（毎日30分が望ましい）の練習が必要となる。										
⑨テキスト		『バーナムピアノテクニック導入書』（終了した場合は『バーナムピアノテクニック 1』）『こどものうた200』『続こどもの歌200』、中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社）2021 年初版										
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費		各自でそれぞれ異なった課題の楽譜を必要とする場合、入手する楽譜については個人が負担することになる。 『バーナムピアノテクニック導入書』が終了した場合は、『バーナムピアノテクニック 1』を購入することになる。										
⑫履修条件／履修上の注意事項		この科目を履修する場合は、「幼児と表現（音楽）Ⅲ」も履修登録すること。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		ピアノ演奏の技術	ピアノ演奏の表現技術	発声法と歌唱表現力	弾き歌いの技術			③配点比率				
②評価方法												
1	公開演奏による定期試験	○	○	○	○			30	%			
2	毎回の課題曲の実技総合評価	○	○	○	○			60	%			
3	提出物							0	%			
4	発表・実技・プレゼン							0	%			
5	受講態度	○	○	○	○			10	%			
6	自主学習態度							0	%			
7	その他							0	%			
④ルーブリック評価		取り入れている						比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		出された課題は次のレッスンで仕上がり状況が確認され、問題点、練習の必要がある事項についての指摘が為される。										
Ⅳ その他												
公開演奏による定期試験、及び追・再試験について、2022 年度は担当していない、この科目の担当可能な教員が、採点に加わることがある。												

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	幼児と表現（音楽）Ⅲ Children and Expression; Music Ⅲ					②科目コード	Y4-2A006			
③担当教員名	町田 治 浅賀 ひろみ 山岸 智秋 中野 由紀子 武内 理恵 長永 理恵 恵須川 理津子									
④実務経験	幼稚園教諭（浅賀、中野）、保育士（浅賀）					⑤担当形態	複数 クラス分け			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程										
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育に必要な音楽表現活動のための知識、技術と表現力									
②授業の概要	ピアノの演奏技術、歌唱、弾き歌いに関する知識や技術を習得する中で、保育に必要な音楽とその音楽の様々な活用法について学ぶ。なお、課題曲は「幼児と表現（音楽）Ⅱ」と異なる曲で実施する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [ピアノの演奏技術] 保育現場で必要なピアノ演奏の技術を身につける。 2. [ピアノ演奏の表現技術] 音楽的表現を意識したピアノの演奏技術を習得する。 3. [発声法と歌唱表現力] 保育現場で使える歌唱表現力を習得する。 4. [弾き歌いの技術] できるだけ多くの課題を練習することで、弾き歌いの技術を向上させる。									
④ディプロマブリーシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	声楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声									
第 2 回	ピアノ演奏法 手首の回転と腕の脱力 やってはいけない運指									
第 3 回	ピアノ演奏法 反復音の練習とスタッカート オクターブの弾き方									
第 4 回	声楽 呼吸・発声法の習得 腹筋の活用 いろいろな発声練習 子どものための発声									
第 5 回	声楽 発音練習 母音と子音の発音の仕方 プレスについて									
第 6 回	声楽 発音練習 日本語の詩の特徴 スタッカートとアクセント									
第 7 回	ピアノ演奏法 レガート奏法の練習 運指の工夫 親指の活用									
第 8 回	ピアノ演奏法 重音のレガート練習 ミスをしても音楽を止めないための工夫									
第 9 回	ピアノ演奏法 ペダルの練習 弱音ペダルの使用法									
第 10 回	声楽 表現に結びつけた発声練習 声を弾ませる									
第 11 回	声楽 音の高低による発声の違いと工夫 遠くまで声を響かせる工夫									
第 12 回	声楽 歌唱表現の工夫 レガートで歌う 顔の表情を使って									
第 13 回	弾き歌い 旋律を弾きながら歌う 旋律は言葉のリズムと同じように									
第 14 回	弾き歌い 伴奏を弾きながら歌う 声为主、ピアノは従									
第 15 回	弾き歌い 同じ曲を違った速さで歌う 何があっても止まらない									
定期試験	公開演奏による実技試験									
⑧自主学習の課題	予習と復習 授業で決められた課題曲の予習復習を充分に行うこと。毎回60分以上（毎日30分が望ましい）の練習が必要となる。									
⑨テキスト	『バーナムピアノテクニック導入書』（終了した場合は『バーナムピアノテクニック 1』）『こどものうた200』『続こどもの歌200』、中野由紀子『音楽表現 そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社）2021 年初版									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自でそれぞれ異なった課題の楽譜を必要とする場合、入手する楽譜については個人が負担することになる。 『バーナムピアノテクニック導入書』が終了した場合は、『バーナムピアノテクニック 1』を購入することになる。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	「幼児と表現（音楽）Ⅱ」が未履修であっても履修可。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		ピアノ演奏の技術	ピアノ演奏の表現技術	発声法と歌唱表現力	弾き歌いの技術	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○		30	%		
2	毎回の課題曲の実技総合評価	○	○	○	○		60	%		
3	提出物						0	%		
4	発表・実技・プレゼン						0	%		
5	受講態度	○	○	○	○		10	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れている。				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		出された課題は次のレッスンで仕上がり状況が確認され、問題点、練習の必要がある事項についての指摘が為される。								
Ⅳ その他										
公開演奏による定期試験、及び追・再試験について、2022 年度は担当していない、この科目の担当可能な教員が、採点に加わることがある。										

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅱ Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Expression (Music) Ⅱ					②科目コード		Y4-2B009				
③担当教員名		中野 由紀子											
④実務経験		幼稚園教諭						⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程		【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）											
⑬保育士養成課程		【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育内容・方法に関する科目 保育内容演習											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		乳幼児期の音楽表現活動の知識と保育者に必要な技術を獲得する。											
②授業の概要		担当教員は、幼稚園教諭専修免許状と保育士資格を取得し、幼稚園教諭としての実務経験がある。 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容の理解 2 保育の現場で役立つような乳幼児期の音楽表現活動の実践力と指導法の習得											
③履修者の到達目標（学習成果）		1 乳幼児期の音楽表現活動を理解し指導できる。 2 保育現場で使用する楽器の奏法やリズムを習得し指導できる。 3 音楽関連行事（音楽会・お遊戯会など）の構成・企画・指導ができる。 4 他の領域との関連した総合的な表現活動を理解し指導できる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性			②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート			
		グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		・「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」の示す領域「表現」の概説 ・乳幼児の音楽活動と特徴											
第 2 回		歌唱活動① ・自己紹介のうた ・生活のうた ・子守歌											
第 3 回		歌唱活動② 季節のうた											
第 4 回		歌唱活動③ 行事のうた											
第 5 回		音楽遊び① ・絵本と音楽 ・手話と音楽											
第 6 回		音楽遊び② ・新聞紙シアター											
第 7 回		リズム① ボディーパーカッション											
第 8 回		リズム② ・ドラムラインアンサンブル ・鈴アンサンブル											
第 9 回		器楽合奏① こどもの器楽合奏について											
第10回		器楽合奏② リズム楽器の奏法と指導法											
第11回		器楽合奏③ メロディー楽器の奏法と指導法											
第12回		ミュージックベルの奏法と指導法											
第13回		グループワーク①・・・器楽合奏とミュージックベルのグループ練習（選曲と練習）											
第14回		グループワーク②・・・器楽合奏とミュージックベルのグループ練習（仕上げと発表）											
第15回		劇遊び・・・ドラムジカの制作と発表											
定期試験		実施しない											
⑧自主学習の課題		予習：乳幼児の日常生活にある、あらゆる音楽活動に興味を持ち、情報を得る努力をする。約 30 分の学習時間を要する。 復習：講義内容の様々な音楽表現活動について理解し、実習や保育の現場で指導出来るよう復習する。約 30 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト		中野由紀子編著『幼稚園教諭・保育士養成課程「音楽表現」そのまま使える基礎と実践』（共同音楽出版社 2021）											
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		特になし											
⑫履修条件／履修上の注意事項													
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		乳幼児の音楽表現活動の理解と指導法の習得		保育現場で使用する楽器の奏法と指導法の習得		音楽関連行事の企画と指導法の習得		他の領域との関連した総合的な表現活動の理解と指導法の習得		③配点比率			
②評価方法													
1 定期試験										0 %			
2 小テスト										0 %			
3 提出物						○		○		15 %			
4 発表・実技・プレゼン		○		○		○		○		20 %			
5 受講態度		○		○		○		○		50 %			
6 自主学習態度		○		○		○		○		15 %			
7 その他										0 %			
④ルーブリック評価		取り入れている										比率合計	100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価の問い合わせに応ずる。											
Ⅳ その他													
演習科目のため、積極的に取り組むこと。 授業で取り扱った楽曲や楽器、絵本などについては、保育現場で実践できるように各自で練習をしたり、知識をさらに深めるよう努力してほしい。													

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		幼児と表現（造形）Ⅰ Children and Expression; Art Ⅰ						②科目コード		Y4-2A003			
③担当教員名		森井 佳代											
④実務経験		保育士、アートワークショップ講師、障がいを持つ人と乳幼児の場づくり						⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程		【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：表現											
⑬保育士養成課程		【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の表現技術 保育の表現技術											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		季節、発達と共に変化する造形表現											
②授業の概要		保育現場では、子どもたちが日本の美しい四季を感じることができるよう様々な工夫がなされている。 季節と造形表現を関連させることで、保育活動との連携も意識しながら、その時ならではの表現活動を考えるヒントを得る。 ①行事との関わり、②低年齢児／高年齢児における発達と造形表現をテーマに進める。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 季節と造形表現の連携について理解を深める。 2. 9月～3月の低年齢児、高年齢児向けの活動を理解する。 3. 活動を考える力を身につけると共に、学生自らの創造性を育み感性を養う											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
				○		○		○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
		グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○	
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回	授業概要の説明 年間のスケジュール 季節、行事、発達と造形表現												
第 2 回	春の自然散策 自然の中にある色・カタチ探求 フィールドワーク ※携帯カメラ使用												
第 3 回	低年齢児と高年齢児の造形表現の違い 実践紹介 グループディスカッション、動画上映あり												
第 4 回	低年齢児向けワーク実践①野菜でスタンプづくり 絵本紹介												
第 5 回	低年齢児向けワーク実践②五感で遊ぶ におい、感触												
第 6 回	季節のワーク① 母の日のプレゼントづくり												
第 7 回	高年齢児向けワーク実践①見立て遊びで劇づくり ものがたりづくり（グループワーク）												
第 8 回	高年齢児向けワーク実践②見立て遊びで劇づくり 音をつくって劇に生かす（グループワーク）												
第 9 回	高年齢児向けワーク実践③見立て遊びで劇づくり 発表 ふりかえり（グループワーク）												
第10回	季節のワーク② 水・氷を用いた造形表現 液体のイロイロ												
第11回	季節のワーク③ 粘土のワーク実践 身体をつかって表現しよう												
第12回	張り子で帽子① 立体的な帽子づくり 張り子の型づくり												
第13回	張り子で帽子② 立体的な帽子づくり 張り子の基本的な作り方												
第14回	自由表現 自分が好きな表現を見つける、楽しむ												
第15回	自由表現 発表 1年のまとめ												
定期試験 実施なし（提出物及び制作物で評価）													
⑧自主学習の課題		準備：適宜、授業に使うものを各自準備する（授業前に説明あり）											
⑨テキスト		なし											
⑩参考書／参考資料／準備物等		参考書：深谷ベルタ『造形あそび－“体験”が感性を育む（これからの保育シリーズ 6）』風鳴舎 2018 年 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		1500 円											
⑫履修条件／履修上の注意事項		やむを得ず授業を欠席した場合は、課題に自ら取り組むこと。 グループワーク時は、他メンバーと連携を図り協力して進めること。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		季節と造形表現		発達と造形表現		自由表現						③配点比率	
②評価方法													
1	定期試験											0 %	
2	小テスト											0 %	
3	提出物	○		○		○						65 %	
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○						10 %	
5	受講態度	○		○		○						15 %	
6	自主学習態度	○		○		○						10 %	
7	その他											0 %	
④ルーブリック評価		取り入れていない										比率合計	100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法		発表時に学生、教師間でふりかえりとフィードバックを実施（一部グループワークあり）発表時											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		幼児と表現（造形）Ⅱ Children and Expression; Art Ⅱ						②科目コード		Y4-2A004			
③担当教員名		森井 佳代											
④実務経験		保育士、アートワークショップ講師、障がいを持つ人と乳幼児の場づくり						⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程		【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：表現											
⑬保育士養成課程		【必修科目】（告示別表1による教科目） 保育の表現技術 保育の表現技術											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		造形表現を通して子どもの探求心、想像力、創造力を育む プロジェクト・アプローチの実践的理解											
②授業の概要		子どもの発想、主体性から子どもたちの学びを深めるアプローチを下記の点に留意し実践的に学びます。 ・教師主導ではない、子どもたちの発想を主体に表現を深める造形活動を知る。 ・子どもの探求心、創造力、創造力を育むアプローチを実践的に理解を深める。 ・子どもの学びを通し、一過性ではない継続的な学びへと深化させるふりかえりの方法を学ぶ。 ・学生自らの学びや気づきを記録し、造形表現だけでなく保育現場でも応用できるポートフォリオを作成する。											
③履修者の到達目標（学習成果）		①プロジェクト・アプローチの概要、どのように実践するかの基礎を知る。 ②子どもたちが探求し、学ぶ気持ちを学生自身が感じ、経験する。 ③自らの学びを客観的に振り返り、他者と共有することで、さらに学びを深める。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		○		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
		グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		○	
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		到達目標と活動概要 学びのポートフォリオ作成方法 保育現場での写真の撮り方のポイント 実践紹介											
第 2 回		プロジェクト・アプローチの概要 子どもにとっての表現って？「自己」を知るワーク グループディスカッション											
第 3 回		フィールドワーク テーマ設定 ～「自然」をキーワードに身近な場／モノから、探究したいテーマを探す～											
第 4 回		プロジェクト① テーマからウェブマップをつくる 学びの可視化 学びの計画表づくり（グループワーク）											
第 5 回		プロジェクト② 様々な表現から探求を深める 現場でのふりかえりの方法（グループワーク）											
第 6 回		プロジェクト③ プレゼン 自らの学びを他者（学生、教師）と共有する（グループワーク）											
第 7 回		ワーク体験①「自然」をテーマにしたワーク実践 葉っぱのスタンドグラス 葉っぱの色遊び											
第 8 回		ワーク体験②「自然」をテーマにしたワーク実践 光と影のコラージュ											
第 9 回		ワーク体験③「自然」をテーマにしたワーク実践 風と遊ぶ											
第10回		ワーク実践① 探求したテーマを元に、子どもたちと実践する造形表現ワークショップを考える 子どもの探求をどう深めるか											
第11回		ワーク実践② 探求したテーマを元に、子どもたちと実践する造形表現ワークショップを考える 材料・道具、環境の準備											
第12回		ワーク実践③ 子どもたちと実際に造形表現ワークショップを行う 実践のふりかえり											
第13回		ワークショップ実践をふりかえる 記録のまとめ方											
第14回		自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる ①ポートフォリオを自分らしく表現する											
第15回		自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる ②ポートフォリオを自分らしく表現する											
定期試験 実施なし（提出物及びポートフォリオで評価）													
⑧自主学習の課題		毎回の活動を自分で撮影、記録する。自分の学びを客観的に見る「学びのポートフォリオ」作成 約 60 分											
⑨テキスト		授業時に資料を配布											
⑩参考書／参考資料／準備物等		青木一永編著「つながる保育スタート BOOK ～プロジェクト・アプローチを通して探求を支える～」東洋館出版社 2022											
⑪教材費		1500 円											
⑫履修条件／履修上の注意事項		動きやすい、汚れても良い服装で参加する。 はさみ、のり、その他必要な道具、材料を持参する。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		探究的な学びの実践		プロジェクトの理解		まとめ（ポートフォリオ）				③配点比率			
②評価方法													
1	定期試験									0	%		
2	小テスト									0	%		
3	提出物	○		○		○				65	%		
4	発表・実技・プレゼン	○		○						10	%		
5	受講態度	○		○						15	%		
6	自主学習態度					○				10	%		
7	その他									0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない								比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		授業内で提出作品に対するフィードバックを教師、学生同士で実施											
Ⅳ その他													
写真撮影、アプリ使用に際し、携帯電話を用いる（スマートフォンが望ましいが、それ以外も可）。 第4回～6回のグループワークは同じグループで進める。													

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	幼児と健康Ⅱ Infants and Health Ⅱ					②科目コード	Y4-2A001			
③担当教員名	遠山 健太									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程	【幼二種免・領域及び保育内容の指導法に関する科目】領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項：健康									
⑬保育士養成課程	【厚生労働省告示別表第1による教科科目】保育の内容・方法に関する科目 保育内容の理解と方法									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児の健康									
②授業の概要	乳幼児が健康な心と体を育み、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うために必要な運動、栄養、休息（睡眠の質）、基本的な生活習慣、生活リズムについての知識を身につける。具体的には、明るく伸び伸びと行動し、充実感を子どもに味わわせたり、自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする意欲を高めたり、健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につけ、見通しをもって行動できるようにするための知識を身につける。「安全」に関してはベネフィットリスクアセスメント（BFA）の考え方を理解する。また、運動習慣の定着の観点で世界的に注目されている、身体リテラシーについてや、WHO（世界保健機関）が定めている24時間行動ガイドライン、また、国が定めている基本動作スキルの習得について学ぶ。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 乳幼児期の運動・栄養・休息、基本的な生活習慣、生活リズムの重要性を説明できるようにする 2. 乳幼児が健康で安全な生活をつくり出す力を養うための運動や食育の意義、安全教育について説明できる 3. 身体リテラシーについて理解をし、子どもが生涯を通して健康づくりなどの素養をどのようにして身につけるかを説明できる									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
		○			○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	オリエンテーション、乳幼児期の健康に関する現代的課題									
第 2 回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」									
第 3 回	ねらい及び内容、内容の取扱い、幼児期において育成すべき資質・能力と領域「健康」									
第 4 回	乳幼児期の心の健康									
第 5 回	乳幼児期の体の発育と発達									
第 6 回	乳幼児期の体力と運動能力ー身体リテラシーについてー									
第 7 回	乳幼児期の運動発達の特性ー運動の多様性とバリエーションー									
第 8 回	運動意欲を育む重要性①ー運動発達と心理的側面の発達ー									
第 9 回	運動意欲を育む重要性②ー遊びとしての運動の重要性和内発的動機づけー									
第10回	乳幼児期の基本的な生活習慣の形成と生活リズムの獲得（グループでの検討）									
第11回	食育のねらい及び内容									
第12回	食育を通じた望ましい食習慣の形成									
第13回	安全教育（安全指導と安全学習）と安全管理、一ベネフィットリスクアセスメントー									
第14回	事故防止ーリスクとハザードー									
第15回	学んだ内容の振り返りとまとめ									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業資料やテキストを読み、次の授業の概要を理解する。予習には約30分の学習時間を要する。 復習：授業の最後にその日の授業の振り返りシートを配布、記入する。テキストや資料、配布プリント、ノートを読み返し、振り返りシートを完成させる。復習には約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	『子どもの健康と遊びの科学 からだと心を育む術』（講談社）									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 WHO（世界保健機関）『24時間行動ガイドライン』、ベネフィットリスクアセスメント資料									
⑪教材費										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	やむを得ない事情があつて欠席する際は必ず授業資料と振り返りシートを担当教員から受け取ること。 体を動かしながら課題やグループワークをすることもあるため動きやすい服装が好ましい。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		健康領域について	乳幼児期の運動発達	乳幼児期の生活習慣	乳幼児期の安全	身体リテラシー	③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験		○	○	○	○	○	60	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物		○	○	○	○	○	30	%		
4 発表・実技・プレゼン		○	○	○	○	○	5	%		
5 受講態度		○	○	○	○	○	5	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物（レポート）を評価し、返却する									
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育内容の指導法「健康」 Pedagogy of Early Childhood Education and Care; Health						②科目コード	Y4-2B007				
③担当教員名	打越 みゆき											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程	【幼二種免・教職に関する科目】教育課程及び指導法に関する科目・保育内容の指導法											
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 保育内容演習(演習)											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	幼児の健康で安全な生活をつくりだすための運動の実践と指導法											
②授業の概要	「幼児と健康Ⅰ」で学んだ内容を活かして「健康」領域の模擬授業に取り組む。模擬授業では、指導案を立案し、安全に配慮しながら、子どもたち一人ひとりに応じた楽しい運動遊び実施する。また、幼児体操をグループで創作し、発表する。											
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 領域「健康」のねらい・内容を踏まえた題材を選び、指導案を作成することができる。 2. 指導上の留意点、安全に配慮した模擬授業が実施できる。 3. 体験した種目について、指導と援助の方法を振り返り、記録することができる。 4. 幼児の発達を促す体操を自ら創って実演することができる。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション			⑤協働性		
		○			○		○			○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○	反転授業			ディスカッション・ディベート					
	グループワーク			プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○	
⑦授業の計画(授業の内容)												
第 1 回	模擬授業の計画と指導案の書き方(授業の進め方、Google classroom の活用法、評価方法についても説明します)											
第 2 回	模擬授業体験・実習で行いたい遊びの体験											
第 3 回	模擬授業の実施 番号順 1 番目～6 番目											
第 4 回	模擬授業の実施 番号順 7 番目～12 番目											
第 5 回	模擬授業の実施 番号順 13 番目～19 番目											
第 6 回	模擬授業の実施 番号順 20 番目～26 番目											
第 7 回	模擬授業の実施 番号順 27 番目～33 番目											
第 8 回	模擬授業の振り返り 保育現場で留意したい指導上のポイントと安全管理、自己課題の確認											
第 9 回	幼児体操を創ろう(理論)											
第10回	幼児体操を創ろう(各パートの創作)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。											
第11回	幼児体操を創ろう(始まり方、終わり方の創作)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。											
第12回	幼児体操を創ろう(動きの確認と仕上げ練習)・作品をできたところまで動画撮影し、振付を記録する。											
第13回	幼児体操の発表											
第14回	水遊びの計画方法(演習)											
第15回	水遊びの危険(演習) まとめ											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習 模擬授業の担当回に向けて準備を進める。30 分程度を要する。なお、練習の際は自分の様子を動画で撮影し、実践のための準備をすること。 復習 毎時間の授業についてノートにまとめてくること。毎回 30 分ほど要する。											
⑨テキスト	高野牧子編著『うきうきわくわく身体表現あそび』同文書院 2015 年											
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 指導案を綴じるための紙ファイル(A4)を購入しておくこと。											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件/履修上の注意事項	履修上の注意事項: 保育者としてふさわしい服装、言動を求める。Tシャツ、ジャージ、体育館シューズ、運動靴が必要。 その他: 天候により、多少内容の変更がありうる。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		指導案の作成	模擬授業の実践と振り返り	運動遊びの記録	幼児体操の実演と記録			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0	%			
2	小テスト							0	%			
3	提出物	○	○		○			10	%			
4	発表・実技・プレゼン		○		○			30	%			
5	受講態度			○				20	%			
6	自主学習態度							0	%			
7	その他(授業ノート・ファイル)			○				40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている(模擬授業評価)								100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題提出は Google classroom から行い、Google classroom より評価の返却またはコメントする。 ワークシートやノートについては、現物にコメントする場合がある。											
Ⅳ その他												
Google classroom 使用。ノートは「幼児と健康Ⅰ」の続きを使用してもよい。												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	子どもの保健 Child Health						②科目コード		Y3-2A003			
③担当教員名	田中 笑子											
④実務経験	看護師						⑤担当形態		単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2 単位(30)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表 1 による教科目） 保育の対象の理解に関する科目 子どもの保健（講義）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	子どもの心身の健康状態を評価し、子ども特有の疾病・事故を予防するための根拠に基づく支援方法、環境調整を理解する。											
②授業の概要	子どもの心身の健康状態と身体的発育・発達を理解し、子どもに多い疾病と対応方法、および、子どもの生活を理解し、生活環境を整える理論と方法を教科書、配布資料、グループワークなどを通して学ぶ。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 子どもの健康状態を把握する意味と方法を理解できる。 2. 疾病などを早期に発見し、対応できる。 3. 子ども期に特有の事故の特徴と予防方法について理解できる。 4. 子どもに大切な環境を整えることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方											
第 2 回	子どもの心身の健康と保健の意義											
第 3 回	子どもの統計と年齢別にみた事故・けが・病気予防											
第 4 回	子どもの心身の発達の評価の概要											
第 5 回	子どもの精神発達											
第 6 回	子どもの心身の健康状態とその把握											
第 7 回	子どもの生理機能の発達											
第 8 回	子どもの睡眠と発達											
第 9 回	子どもの脳神経の発達											
第10回	子どもの運動機能の発達とその評価											
第11回	子どもの感覚の発達とその評価											
第12回	子どもの歯の発達とケア											
第13回	子どもの病気と予防、手当（Ⅰ）（発熱、けいれん、咳）											
第14回	子どもの病気と予防、手当（Ⅱ）（嘔吐、下痢）											
第15回	子どもの複合的な発達と支援											
定期試験	実施する											
⑧自主学習の課題	予習：教科書の該当箇所に目を通し、要点を整理する。約 90 分。 復習：講義で学んだ内容を中心に復習を行うこと。約 90 分。											
⑨テキスト	高内正子編著『子どもの保健と安全』教育情報出版 第 3 版											
⑩参考書／参考資料／準備物等	母子手帳 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	特になし											
⑫履修条件／履修上の注意事項	特になし											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		健康状態	疾病予防	疾病予防 事故予防	環境調整		③配点比率					
②評価方法												
1	定期試験	○	○	○	○		50	%				
2	小テスト	○	○	○	○		10	%				
3	提出物	○	○	○	○		10	%				
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		10	%				
5	受講態度	○	○	○	○		10	%				
6	自主学習態度	○	○	○	○		10	%				
7	その他						0	%				
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法		提出物について、講評する。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	子どもの健康と安全 Child Health and Safety					②科目コード	Y4-2B016			
③担当教員名	田中 笑子									
④実務経験	看護師					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法に関する科目 子どもの健康と安全 (演習)									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	子どもの心身の健康と安全を守るための根拠に基づく評価と計画、実践について、知識と基本技術を組み合わせ実践力を養う。									
②授業の概要	保健活動のために必要な技術を準備から片付けまで一連の流れを演習する。また、健康教育を施行する。その際、知識を応用し、論理的な思考技術を用いて、テーマの選定、方法の決定、内容の準備、発表を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 子どもの観察と日常生活援助ができる。 2. 科学的根拠に基づく評価を行い、問題の早期発見ができる。 3. 応急手当や受診行動、記録、関係機関との連携と保護者対応など、健康と安全を守るための適切な対応ができる。 4. 基本的な知識と技術を論理的思考により整理し、健康教育などの保健活動の実施計画を立てることができる。 5. 実施計画に基づき、健康教育などの保健活動を実施できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
			○		○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業					ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク	○	プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方									
第 2 回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅰ 子どもの発達とかかわり、保育環境の基礎									
第 3 回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅱ 事例の展開									
第 4 回	保健的観点をふまえた子ども理解と評価Ⅲ 子どもの衛生管理と安全対策									
第 5 回	保育における健康と安全の管理Ⅰ 子どもの危機管理と災害への備え、体調不良・けがへの対応、救急処置の基礎									
第 6 回	保育における健康と安全の管理Ⅱ 演習									
第 7 回	保育における健康と安全の管理Ⅲ まとめ、根拠に基づく支援計画と実践									
第 8 回	「保育所における感染症対策ガイドライン」に基づく予防と対処									
第 9 回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅰ 3 歳未満、アレルギーや慢性疾患、障がいや医療的ケア									
第10回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅱ 演習									
第11回	個別的な配慮を要する子どもと保護者への対応Ⅲ まとめ：根拠に基づく計画づくりと実践									
第12回	子どもと保健指導Ⅰ 保健活動の考え方 根拠と計画作成									
第13回	子どもと保健指導Ⅱ グループワーク									
第14回	子どもと保健指導Ⅲ 発表									
第15回	子どもの健康と安全管理の実施体制と技術：連携とエンパワメント									
定期試験	実施しない(ただしレポート課題あり)									
⑧自主学習の課題	予習：翌週行う実技をすぐに開始できるように予習を行うこと。それぞれ 30 分の時間を要する。 復習：行った実技を実践で用いる際の留意点および工夫点について復習を行うこと。									
⑨テキスト	安梅勲江：田中裕編著『保育パワーアップ講座 実践編』保育パワーアップ研究会 (オンライン配布)									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	高内正子編著『子どもの保健と安全』教育情報出版 第2版 母子手帳 ※状況により、PC またはスマートフォンなどの端末を用いたオンライン演習を行う可能性があります。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		子ども理解と評価	健康と安全の管理	個別的な対応	論理的思考と環境調整	健康教育(保健指導)	③配点比率			
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○	○	50	%		
2	小テスト	○	○	○	○	○	10	%		
3	提出物	○	○	○	○	○	10	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○	10	%		
5	受講態度	○	○	○	○	○	10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○	○	10	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れている				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		実演や提出物について、講評する。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名		特別支援教育実習（事前事後の指導を含む） Practical Training and Study at Special Needs Education School					②科目コード		Y5-2C002			
③担当教員名		竹森 亜美 坂本 真季										
④実務経験		臨床発達心理士（坂本）・臨床心理士（竹森）・公認心理師（竹森・坂本）					⑤担当形態		複数			
⑥開講対象		幼児保育学科 2 年		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	3 単位	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		必修		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程		【特二種免・特別支援教育に関する科目】心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習										
⑬保育士養成課程												
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ		特別支援学校教育実習の事前・事後指導										
②授業の概要		臨床心理士・公認心理師・臨床発達心理士として、特別支援学校の特別非常勤講師の勤務経験と、現場との協働研究の実践経験を活かし、具体的な支援事例をもとに講義を行う。事前指導では、実習校の事前調査、見学・参加実習の実施を行い、それらで得た情報を基に、個別指導の形式で研究授業の準備を行う。事後指導では、実習評価を基に自分の教員としての強みや課題を確認し、特別支援教育に自らが貢献できることがらについて自覚していく。										
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 見学・参加実習を通して、実習校や実習クラスに所属する児童の個別の特徴を捉え記述できる。 2. 教員とのチームティーチングを意識しながら、児童生徒一人ひとりのニーズをふまえた学習指導案を作成することができる。 3. 教育実習を通して教員としての自らの強みと課題点を自覚し、実習日誌や振り返りを通じて言葉で表現することができる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
				○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習 グループワーク		反転授業 プレゼンテーション				ディスカッション・ディベート 実習・フィールドワーク		○		
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回		特別支援学校・教育実習の特徴／実習事前事後指導のスケジュール確認										
第 2 回		実習校の下調べ・情報収集										
第 3 回		個々の児童生徒の実態把握（課題分析と指導方法）										
第 4 回		特別支援学校の授業とは										
第 5 回		学習指導案の書式・仕組みの理解（PC による学習指導案作成の練習）										
第 6 回		前年度実習生による体験報告及び情報収集										
第 7 回		特別支援学校における指導案の構成①（児童の実態・指導の展開）										
第 8 回		特別支援学校における指導案の構成②（児童観・教材観・指導観）										
第 9 回		見学・参加実習の実践										
第10回		実習日誌の記録方法										
第11回		研究授業準備（個別面談）										
第12回		実習事後振り返りバズセッション										
第13回		個別面談による事後指導										
第14回		教育実習体験報告集の作成準備										
第15回		教育実習体験報告集の作成										
定期試験		実施しない										
⑧自主学習の課題		予習：見学・参加実習を中心に、研究授業の学習指導案作成において、実習校の HP や教科書・参考書などを見て、自主的に教材研究を行うこと。 復習：実習後、研究授業に関する現場からの指摘を記録にまとめること。 ※予習・復習ともに約 45 分の時間を要する。										
⑨テキスト		特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）開隆堂出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費		年度初めに教育実習費を支払うこと。また、実習中の給食費や教材費は各自負担する。										
⑫履修条件／履修上の注意事項		特別支援教育実習に参加希望を出した学生のうち、選抜された学生のみ履修できる。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		②評価方法		①学習項目	見学・参加実習	指導案作成	教育実習	実習日誌による振り返り	③配点比率			
1	定期試験								0		%	
2	小テスト								0		%	
3	提出物	○			○		○	○	20		%	
4	発表・実技・プレゼン								0		%	
5	受講態度	○			○		○	○	10		%	
6	自主学習態度	○			○		○	○	5		%	
7	その他	○			○		○	○	65		%	
④ルーブリック評価		実習日誌の記述については、ルーブリック評価を活用する							比率合計		100 %	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
Ⅳ その他												
評価方法の「その他」は、実習評価と担当教員との面談の得点である。												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	保育実習Ⅰ（保育所）Training of ChildcareⅠ					②科目コード	Y5-2C004				
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験						⑤担当形態	複数				
⑥開講対象	幼児保育学科 2年			⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	2単位（70）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表Ⅰによる教科目）保育実習 保育実習Ⅰ（実習）										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所における実習										
②授業の概要	保育所での実習を通して、保育所の役割・機能、子どもの生活、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解を深めるとともに、既習の教科目の内容を踏まえた子ども・利用者への支援について総合的に理解する。また、実習日誌等の記録を通して自己省察を行う。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 保育所理解・利用者支援：観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深め、子どもへの直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。										
④ディプロマブリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション			⑤協働性		
		○			○	○			○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション			実習・フィールドワーク			○		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	実習施設におけるオリエンテーション										
第2回	実習に向けての準備										
第3回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第1日目										
第4回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第2日目										
第5回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第3日目										
第6回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第4日目										
第7回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第5日目										
第8回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第6日目（巡回担当教員による指導）＊実習中間報告										
第9回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第7日目										
第10回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第8日目										
第11回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第9日目										
第12回	保育所における現場実習及び日誌の記入 第10日目 ＊実習終了報告										
第13回	実習の振り返りおよび自己評価										
第14回	実習体験の分かち合い										
第15回	実習日誌の振り返り										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：翌日の実習の準備 復習：実習日誌の記入										
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・保育所からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、総合点に関わらず不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 ・「保育実習指導Ⅰ（保育所）」が不合格だった場合、この「保育実習Ⅰ（保育所）」も不合格となる。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		実習課題	実習日誌	保育所理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価		③配点比率				
②評価方法											
1	定期試験						0	%			
2	小テスト						0	%			
3	提出物	○	○	○	○		20	%			
4	発表・実技・プレゼン						0	%			
5	受講態度	○	○	○	○		10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○		30	%			
7	その他	○	○	○	○		40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）					比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習保育所からの評価をふまえて個別指導を行う。										
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所） Practical Training of ChildcareⅠ						②科目コード		Y5-2C005			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき											
④実務経験								⑤担当形態		複数		
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年			⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅰ（演習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保育所の役割・機能、子どもの支援、職務および職業倫理を具体的実践から学ぶための事前事後指導											
②授業の概要	保育所の役割・機能、子どもの生活、保育所における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と保育士の職責について解説する。 Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育所理解：保育所の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：事前学習や調べ学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係			②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	保育実習全体の意義・目的・内容理解。											
第 2 回	保育所・幼稚園・認定こども園の特色を理解する											
第 3 回	保育所の役割の理解・保育所保育指針											
第 4 回	保育所における子どもたちの生活											
第 5 回	保育園園長先生による講話											
第 6 回	講話の振り返り・実習日誌の書き方①1日の流れを記録する											
第 7 回	実習日誌の書き方②エピソード記録と考察の書き方を理解する											
第 8 回	実習する保育所について調べる（実習施設の確認）											
第 9 回	0～2歳児の発達についての調べ学習・オリエンテーションについて・日誌の取り扱い											
第10回	保育の計画と指導案の立案											
第11回	実習課題の設定（個別指導）											
第12回	指導案の書き方を練習する											
第13回	専攻科生による保育所実習体験談											
第14回	保育所実習に向けての授業のまとめ											
第15回	保育所実習後のまとめ ※グループディスカッション											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習 毎回の内容に該当するテキストの章を読む（30 分程度の学習時間を要する）。 復習 毎回の課題に取り組む（30 分程度の学習時間を要する）。											
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版 守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている											
⑫履修条件／履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・履修上の注意事項：「保育実習Ⅰ（保育所）」が不合格・失格の場合、本科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には Google classroom および meet を活用しオンデマンドまたは双方向型授業を実施する。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		保育所理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0		%		
2	小テスト							0		%		
3	提出物	○	○	○	○			40		%		
4	発表・実技・プレゼン							0		%		
5	受講態度	○	○	○	○			40		%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			20		%		
7	その他							0		%		
④ルーブリック評価		取り入れていない。						比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		提出物は随時返却する。										
Ⅳ その他												
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。2 年次後期に専攻科前期の保育実習Ⅰ（施設）について、施設実習ガイダンスがある。詳細は授業で説明する。												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅱ Career Exercise of Child Care and Education Ⅱ						②科目コード	Y1-2B001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季										
④実務経験							⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	幼児保育学科 2 年		⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2 単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	卒業必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	必修	特二種免許	必修	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修		
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	企画運営・実践、様々な環境に対応する基礎知識と技術の習得、及び就職に向けてのキャリア教育										
②授業の概要	1. 「テアトロ・SEIBI（以下「テS」とする）」の準備 1) 配役決定、脚本読み合わせ、立ち稽古 2) 係の準備活動（音響、音楽、衣装、大道具小道具製作、広報、おもてなし計画と準備等） 3) 1、2の活動のための計画及び場所、時間の設定・確保 2. 「テS」公演 1) 公演と撤収 2) 反省と振り返り（振り返りアンケート） 3) 引き継ぎ 3. キャリアセンター企画講座 1) 施設長講話 2) 社会人基礎力・職業適性検査 3) ジョブカードの作成 4) 就職活動報告会 4. 現場体験活動を体験する										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [本学の理念] 本学の教育理念を「テアトロ・SEIBI」の実践を通して理解する。 2. [舞台発表の基礎・企画力・協調性] 「テアトロ・SEIBI」の公演を通して、達成感を得る。 3. [舞台発表の基礎・企画力・協調性] 様々な人の意見、能力を認め合い、集約し、協力ができる。 4. [社会人基礎力] 社会人として必要な基礎学力を身に付ける。 5. [社会人基礎力] 保育者として必要な礼儀やマナーを身に付ける。 6. [現場体験活動] 現場体験活動を体験する。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○		反転授業	ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク		○		プレゼンテーション	○		実習・フィールドワーク			
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○	

⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	テSのスケジュール発表、脚本配布・本読み（二木秀幸：担当） キャリア支援ガイダンス（進路登録票、ボランティア） 現場体験活動について			第16回	集中練習（大講義室にて後半部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）					
第2回	本読み（前回より入念に）、係決定（活動計画立案）（二木秀幸：担当）			第17回	集中練習（大講義室にて場面のつなぎの練習・係活動）（二木秀幸：担当）					
第3回	配役オーディション準備（二木秀幸：担当）			第18回	集中練習（演劇を完成させる・全体リハーサル）（二木秀幸：担当）					
第4回	配役候補発表、オーディション開催第1回（二木秀幸：担当）			第19回	舞台稽古（衣装・舞台美術最終チェック）					
第5回	オーディション開催第2回（二木秀幸：担当）			第20回	舞台稽古（作品完成）（二木秀幸：担当）					
第6回	係活動の詳細の確認（二木秀幸：担当）			第21回	テS 公開リハーサル（二木秀幸：担当）					
第7回	係活動（内容に沿ったそれぞれの活動の実施）（二木秀幸：担当）			第22回	テS 第1回公演（二木秀幸：担当）					
第8回	係活動（他の係との関連確認）（二木秀幸：担当）			第23回	テS 第2回公演（第1回目の振り返りを活かす）（二木秀幸：担当）					
第9回	シーン別稽古、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）			第24回	振り返りとレポート 防災訓練②消防署の職員からの指導					
第10回	シーン別稽古（前半シーン）、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）			第25回	社会人基礎力、職業適性検査の実施					
第11回	シーン別稽古（後半シーン）、並行して係活動も実施（二木秀幸：担当）			第26回	社会人基礎力、職業適性検査のフィードバック、ジョブカード作成					
第12回	荒通し（全体を通してみた作品を、今後どのように仕上げていくかについて考える）（二木秀幸：担当）			第27回	施設長講話					
第13回	集中練習（大講義室にて前半部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）			第28回	同窓会説明会、					
第14回	集中練習（大講義室にて中盤部分の練習・係活動）（二木秀幸：担当）			第29回	就職活動報告会（全学年交流会） 学生部主催講演会 現場体験活動の振り返り					
第15回	学長講話 防災訓練①保育現場での避難の実際 夏期休暇中の現場体験活動について			第30回	学長講話					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題		予習：テSについては、台本をよく読んでおくこと、それによりイメージを膨らませておくこと、稽古が進む中では各自の担当する役、係の振り返りから浮かび上がる課題への対処を考えておくこと。後期は、保育を中心にした社会事情に関する情報に目を向けておくことが予習となる。 復習：テSについては、役、役割について常に振り返りを行うこと。後期は、それぞれで受けた授業の内容を記録したり、資料をファイルして今後に役立てられるように工夫しておく。 また学生生活の中で常に振り返りをする事。 各授業の予習、復習に要する時間は20分～1時間程度								
⑨テキスト		文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館								
⑩参考書／参考資料／準備物等		・現場体験活動の実施については、ボランティア活動や研修会など随時紹介をしていく。								
⑪教材費		現場体験活動を実施する際の交通費および研修会参加費等は各自の負担となる。								
⑫履修条件／履修上の注意事項		9月の前半10日間に自主稽古（学生の自主的な活動）5日間と、教員が指導する集中稽古（授業扱い・リアクションペーパーあり）5日間ある。特別支援学校教育実習関連以外は、この10日間すべてに参加して作品を仕上げていくことになる。重要な10日間のため、9月前半は予定を空けておくこと。								
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		②評価方法	③配点比率							
		③配点比率								
1	定期試験		0	%						
2	小テスト		0	%						
3	提出物（課題レポート、振り返りシート）	○	○	○	○					
4	発表・実技・プレゼン	○	○			30				
5	受講態度	○	○	○		27				
6	自主学習態度	○	○	○	○	3				
7	その他					0				
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		アドバイザー、テSでの係担当教員、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容にかかわりの深い担当が必要に応じて対応、フィードバックを行う。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	人格論 Personality theory						②科目コード	Y1-3C002		
③担当教員名	阿部 健一									
④実務経験							⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	4 単位(60)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	キリスト教的な生き方の理解									
②授業の概要	トルストイの民話とマザー・テレサの言葉を通して、キリスト教的な生き方について理解する。各授業ごとに、予習表に基づいてグループワークを行い、理解を深める。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) マザー・テレサの言動に関心を持ち、それを表明できる。 2. (思考・判断・表現) トルストイの民話、マザー・テレサの言動について考え、自分の意見を表明できる。 3. (知識・理解) キリスト教的な価値観について、正しく表明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
	○									
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク		○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)										
第 1 回	オリエンテーション			第 16 回	洗礼の子①悪を悪で取り除こうとする					
第 2 回	愛のあるところに神あり①人生への絶望			第 17 回	洗礼の子②玉座から見えたもの					
第 3 回	愛のあるところに神あり②絶望を癒やすもの			第 18 回	洗礼の子③洗礼の子が犯した罪					
第 4 回	愛のあるところに神あり③誰の中にもイエス様が			第 19 回	洗礼の子④洗礼の子が学んだもの					
第 5 回	人にはどれほどの土地がいるか①自分の土地を持つ喜び			第 20 回	洗礼の子⑤追剥の回心					
第 6 回	人にはどれほどの土地がいるか②広い土地への欲望			第 21 回	火を粗末にすると消せなくなる①事の起こり					
第 7 回	人にはどれほどの土地がいるか③広い自分の土地の欲望			第 22 回	火を粗末にすると消せなくなる②悪に悪で対した結末					
第 8 回	人にはどれほどの土地がいるか④必要だった土地の広さ			第 23 回	火を粗末にすると消せなくなる③平和のために					
第 9 回	ろうそく①悪にどう立ち向かうか			第 24 回	人はなんで生きるか①不思議な青年との出会い					
第 10 回	ろうそく②悪に勝利するもの			第 25 回	人はなんで生きるか②人は、与える愛を持っている					
第 11 回	イワンのばか①悪魔の手口			第 26 回	人はなんで生きるか③人は自分の未来を知らない					
第 12 回	イワンのばか②イワンと兄たち			第 27 回	人はなんで生きるか④地に落とされた天使					
第 13 回	イワンのばか③イワン王が治める			第 28 回	人はなんで生きるか⑤人は何によって生きているか					
第 14 回	イワンのばか④対大悪魔イワンの勝利			第 29 回	死刑：被害者家族の日々					
第 15 回	イワンのばか⑤まとめ			第 30 回	命めぐる水辺					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：予習表により事前学習を行う。90 分程度を要する。 復習：約 90 分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	トルストイ著『トルストイ民話集イワンのばか』岩波文庫 1932 年 トルストイ著『トルストイ民話集人は何で生きるか』岩波文庫 1932 年 M・K・ポール著『コロコタの聖なるマザー・テレサ』サンパウロ 2007 年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関・意・態	思・判・表	知識・理解				③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	小テスト	○	○	○				30	%	
3	提出物	○	○	○				30	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				40	%	
5	受講態度							0	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		①予習表については、グループワークを経て、学生の解答状況・質問を踏まえ、解答を例示し、解説する。 ②小テストについては、回収後、その場で解答を例示し、解説する。 それ以外の時点でも、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅲ Career Exercise of Child Care and Education Ⅲ					②科目コード	Y1-3C001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2 単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必修別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種 免許		特二種 免許		保育士 資格		発達障がい児 保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会人になる上での総仕上げ									
②授業の概要	本授業は、主に4つの内容から構成される。 1つ目は、社会人に向けて自己の特性を理解する「キャリアアップ講座」である。教育・保育関連の職業の特性について理解し、自己分析を通して必要な資質、能力を振り返る。 2つ目は、社会人に必要な技能を身に付ける「キャリアセンター企画講座」である。就職活動に必要な求人票の閲覧方法や履歴書作成、面接練習を実施する。さらに、園長講話や OG 懇談会を通して、就職活動に必要な準備を明確にする。 3つ目は、他学年との交流を通して最上級学年の学生として今まで育んできた共感、協働性を発揮し、更にそれぞれに深めることである。これらは本学の教育理念に裏打ちされて行われるものであり、3年間の学習を俯瞰しつつ社会の入口に立つ準備を行うこととなる。 4つ目は、本科から積み重ねてきた現場体験活動の体験をより広げ深めることである。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. [キャリアアップ] 自己の特性を理解し、自己分析を通して自身の資質・能力を振り返りつつ将来を考えることができる。 2. [キャリアセンター講座] 社会人に必要な技能が身についている。 3. [共感・協働性] 周りの人の考え・思いを大切にしつつ自分自身を保ちながら共に活動することができる。 4. [現場体験活動] 現場体験活動を通して実際の仕事に触れる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
	○		○				○		○	
⑤アクティブ・ラーニング 実施内容	プロジェクト型学習 グループワーク		○		反転授業 プレゼンテーション		ディスカッション・ディベート 実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第 1 回	ガイダンス (キャリア演習Ⅲの 1 年間の概要とフィールドワーク)				第16回	就職活動 (個別相談・見学・面接・研修等)				
第 2 回	ガイダンス (クラス委員の選出・現場体験活動記録の説明)				第17回	2年生の「テアトロ SEIBI」の鑑賞				
第 3 回	キャリアガイダンス 就職活動スケジュールの説明				第18回	面接対策 (グループ・Web 面接)				
第 4 回	公務員の仕事説明				第19回	就職活動① (個別相談・見学・面接・研修等)				
第 5 回	就職活動に必要な知識・技能 ①進路について				第20回	就職活動② (個別相談・見学・面接・研修等)				
第 6 回	就職活動に必要な知識・技能 ②進路希望調査				第21回	就職活動③ (個別相談・見学・面接・研修等)				
第 7 回	履歴書の作成				第22回	就職活動④ (個別相談・見学・面接・研修等)				
第 8 回	性格検査の実施				第23回	就職活動の振り返り 防災訓練②消防署の職員からの指導				
第 9 回	性格検査のフィードバック				第24回	労働関連講話「社会人として働き出したら」				
第10回	卒業生との懇談会① (公務員・児童養護)				第25回	現場体験活動の振り返り				
第11回	卒業生との懇談会② (幼稚園・こども園)				第26回	就職活動報告会の準備				
第12回	卒業生との懇談会③ (保育園)				第27回	就職活動報告会 (全学年交流会)				
第13回	卒業生との懇談会④ (特別支援学校)				第28回	同窓生としてのアイデンティティ				
第14回	学長講話				第29回	学生部主催講演会				
第15回	夏期休暇中の過ごし方 防災訓練①保育現場での避難の実際				第30回	学長講話 まとめ 3年間を振り返って				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：保育を中心にした社会事情、又政治・社会面に関するニュース・情報に日頃から目を向けておくことが予習となる。 復習：授業内容について、学生生活や卒業後の社会人生活において活かせるよう必要と思われる内容について各自でファイリングや記録にまとめて保管する。 課題を行うための時間は 60 分程度。									
⑨テキスト	適宜プリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上 の注意事項										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		キャリアアップ	キャリア センター講座	共感・協働性	現場体験活動 (フィールドワーク)			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			80	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○				20	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィード バックの方法	アドバイザー、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容に関わりの深い担当者が必要に応じて対応、フィードバックを行う。									
Ⅳ その他										
専攻科修了必修科目である。										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	卒業研究ゼミナール（町田） Graduation Research Seminar						②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	町田 治											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必修別	修了必修		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修		
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	音楽に関する研究または音楽作品創作を行う。											
②授業の概要	・各自で設定したテーマに基づく研究、創作を行い、論文または作品（研究小論文を含む）にまとめる。 ・研究についての論述の仕方、論点の整理の仕方、書式、音楽研究発表上必要な方法・知識を学ぶ。 ・研究倫理について知る。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [テーマの設定] [目次の設定] [修了研究提出後のレジュメ作成] 文章を構成し、まとめることができる。 2. [創作・研究への取組] 音楽に関する文章の表現、文書上での提示の仕方を知る。（作品の場合）楽譜の基本的な書き方が分かる。 3. [創作・研究への取組] 研究資料の読み方を知る。 4. [創作・研究への取組] 研究発表をする上で、倫理上やってはならないことが分かるようになる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	ガイダンス（ゼミでのスケジュール及び実施内容の確認）				第 16 回	夏期課題進捗状況報告と後期スケジュールの確認						
第 2 回	各自の研究計画の立案				第 17 回	文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て）						
第 3 回	各自の研究計画の立案第 17 回文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て） 第 3 回研究する上での資料の調べ方、扱い方① 図書館の利用				第 18 回	文章作成②第 1 章第 1 節						
第 4 回	研究する上での資料の調べ方、扱い方② ネットの利用				第 19 回	文章作成③第 1 章第 2 節						
第 5 回	研究する上での資料の調べ方、扱い方③『参考資料』という意識				第 20 回	文章作成④第 2 章第 1 節						
第 6 回	卒業研究では何をするのか、（論文とは、作品創作の場合）				第 21 回	文章作成⑤第 2 章第 2 節						
第 7 回	テーマの選定①選べるテーマ、テーマにならないもの				第 22 回	文章作成⑥第 3 章第 1 節						
第 8 回	テーマの選定②テーマにたどり着くために				第 23 回	文章作成⑦第 3 章第 2 節						
第 9 回	テーマの選定③各自のテーマ探し				第 24 回	文章全体の見直し						
第 10 回	テーマの仮決定				第 25 回	論文用ファイルの配布と提出のための確認						
第 11 回	各テーマに沿った資料探し、創作計画立案				第 26 回	文章作成⑨序論・研究目的、結論、終わりに、の確認						
第 12 回	資料整理の仕方、研究の場合の資料の扱い方				第 27 回	文章作成⑩参考資料一覧の確認						
第 13 回	目次の立て方				第 28 回	修論・作品提出のための最終確認						
第 14 回	文章を書く 1 節に当たる文章を書いてみる				第 29 回	各自の論文・創作に関するレジュメの作成						
第 15 回	テーマの決定と目次の提出				第 30 回	ゼミ内での修了研究発表						
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：各自が課題を決めて資料を読み、必要な文章をまとめ、作品ならスケッチを描いておく。 復習：授業でのコメントや指摘を受けて、修正したり先を進めたりしていく。 1 日 30 分から 3 時間と、各自の進捗、内容、また時期によってかかる時間は幅が出てくる。											
⑨テキスト	授業の中で、適宜資料を配布する。											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。											
⑪教材費	なし											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		テーマの設定	目次の設定	創作・研究への取り組み	修了研究提出後のレジュメ作成			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0		%		
2	小テスト							0		%		
3	提出物	○	○		○			30		%		
4	発表・実技・プレゼン			○				20		%		
5	受講態度	○	○	○	○			25		%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			25		%		
7	その他							0		%		
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計		100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		課題が提出されたところで、問題点、改善点を指摘し、次の課題を提示する。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	卒業研究ゼミナール（中島） Graduation Research Seminar						②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	中島 千恵子											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修		
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	①情報教育：情報通信技術の教育への活用に関わること。②教材開発：幼児保育に役立つ教材開発に関わること。											
②授業の概要	各自が興味・関心のある研究テーマを選定し、教材開発に関する研究手法を身につけることを目的とする。具体的には、教材の仕様（対象者、学習目標など）を検討し、教材を制作し、得られた結果の考察を行い、論文を執筆する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマを選定し、研究計画を立案することが出来る。 2. 教材の仕様（対象者、学習目標など）を設定し、実際に教材を製作することが出来る。 3. 研究成果を論文にまとめることが出来る。 4. パワーポイントを活用したプレゼンテーションが出来る。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
	○		○		○		○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		○	プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	ガイダンス（研究計画の立案）				第16回	演習（試作の改善点の検討）						
第 2 回	テーマ選定（研究の動機）				第17回	演習（教材の改善）						
第 3 回	テーマ選定（現状の把握）				第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）						
第 4 回	研究の目的				第19回	演習（教材の改善）						
第 5 回	研究の方法				第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）						
第 6 回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）				第21回	演習（教材の改善）						
第 7 回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）				第22回	考察（教材の利用方法など）						
第 8 回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）				第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）						
第 9 回	教材の仕様（素材の検討）				第24回	考察（問題点と今後の課題など）						
第10回	教材の仕様（利用方法の検討）				第25回	結論の検討						
第11回	教材の仕様（先行研究との比較）				第26回	論文の推敲、提出						
第12回	教材の仕様（教材の特徴）				第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）						
第13回	演習（教材の素材収集）				第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）						
第14回	演習（教材の試作）				第29回	プレゼンテーションリハーサル						
第15回	中間発表会（グループディスカッション）				第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）						
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題およびプレゼンテーション等で行う）											
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。											
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。											
⑪教材費	個人で使用する物品費は、自己負担とする。											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		研究テーマの選定	教材の制作	論文の記述	プレゼンテーション			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0		%		
2	小テスト							0		%		
3	提出物	○	○	○	○			60		%		
4	発表・実技・プレゼン				○			20		%		
5	受講態度	○	○	○	○			20		%		
6	自主学習態度							0		%		
7	その他							0		%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。											
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール（井出） Graduation Research Seminar						②科目コード		Y1-3C003		
③担当教員名	井出 麻里子										
④実務経験							⑤担当形態		単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	各自の設定したテーマについて研究成果をまとめる										
②授業の概要	自分の興味のある分野からテーマを設定し、個別指導を受けながら論文を執筆もしくは作品を制作し、3年間の集大成としてまとめ上げる。随時、学術研究における倫理規程や執筆上のルールについても解説する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマ、研究方法について設定できる。（研究テーマ・研究方法） 2. 研究テーマに関する情報を収集し、必要に応じたデータを作成することができる。（データ収集・データ作成） 3. 収集した情報・データを整理、分析し、論理的に構成することができる。（論理構成） 4. 自分自身の言葉で考えを論述するとともに、第三者に分かりやすく表現し、発表することができる。（文章表現・発表） 5. 研究倫理について理解し、研究のプロセスおよび「幼児教育研究」の執筆に活かすことができる。（研究倫理）										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
	○		○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	オリエンテーション：授業の進め方、評価				第16回	論文作成に必要なWord機能について					
第 2 回	研究とは何か・研究倫理について				第17回	論文の書き方②：引用・要約の仕方					
第 3 回	研究の進め方①：研究ノートの使い方				第18回	データ作成①：事例の書き方					
第 4 回	研究の進め方②：文献研究				第19回	データ作成②：表のまとめ方					
第 5 回	研究の進め方③：フィールドワーク				第20回	データ作成③：写真画像の扱い					
第 6 回	研究テーマの設定①：文献の利用				第21回	個別指導③：データの扱い方					
第 7 回	研究テーマの設定②：インターネットの利用				第22回	個別指導④：本章					
第 8 回	先行研究の調べ方				第23回	個別指導⑤：終章					
第 9 回	個別指導①：テーマ設定と研究方法				第24回	タイトルの最終決定と表紙、目次の書き方					
第10回	ゼミ内発表会①：テーマ設定と研究方法				第25回	参考文献一覧、謝辞の書き方					
第11回	研究計画の立案				第26回	個別指導⑥：タイトルの決定					
第12回	論文の書き方①：序章の書き方				第27回	提出後の振り返りと研究発表会について					
第13回	論文構成について				第28回	個別指導⑦：研究発表会資料					
第14回	個別指導②：序章				第29回	ゼミ内発表会③：研究発表会					
第15回	ゼミ内発表会②：序章				第30回	卒業研究のまとめと自己評価					
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約 30 分の学習時間を要する。 復習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約 30 分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	授業時に資料を配付する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	必要に応じて紹介する。										
⑪教材費	・ 作品制作を行う場合の材料費、実践現場での検証を行う場合の交通費などは各自で負担する。 ・ 大学ノート（B5 サイズ）を 1 冊用意すること。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・ オンデマンド授業の課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回授業で伝える）										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		研究テーマ・研究方法	データ収集・データ作成	論理構成	文章表現・発表	研究倫理	③配点比率				
②評価方法											
1	定期試験						0	%			
2	小テスト						0	%			
3	提出物	○	○	○	○		75	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		10	%			
5	受講態度	○	○	○	○		10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○		5	%			
7	その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。										
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	卒業研究ゼミナール（打越） Graduation Research Seminar						②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	打越 みゆき											
④実務経験							⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必修別	修了必修		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修		
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。											
②授業の概要	前期は、個々の興味のあることについて発表し、討議しながら視野を広げ、研究の基礎資料をまとめる。後期からは本格的に執筆する。独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。研究成果をまとめたものを他者にわかりやすく説明する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究計画にしたがって、幼児教育総合研究を執筆することができる。 2. 研究成果をレジメ・パワーポイントにまとめることができる。 3. 研究成果を発表することができる。											
④ディプロマブリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
	○		○		○		○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク				プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	合同ゼミガイダンス				第16回	幼児教育総合研究 資料整理をする						
第 2 回	ゼミガイダンス、発表スケジュール作り				第17回	幼児教育総合研究 目次を書く						
第 3 回	研究テーマを考える				第18回	幼児教育総合研究 序論・研究目的を書く						
第 4 回	研究テーマを発表する				第19回	幼児教育総合研究 序論・研究方法を書く						
第 5 回	テーマにふさわしい参考文献を探す				第20回	幼児教育総合研究 第1章第1節を書く						
第 6 回	テーマにふさわしい先行研究を探す				第21回	幼児教育総合研究 第1章第2節を書く						
第 7 回	論文の書き方を学ぶ				第22回	幼児教育総合研究 第2章第1節を書く						
第 8 回	研究目的を考える				第23回	幼児教育総合研究 第2章第2節を書く						
第 9 回	研究方法を考える				第24回	幼児教育総合研究 各章をまとめる						
第10回	目次を考える				第25回	幼児教育総合研究 結論を書く						
第11回	研究方法にしたがって調査・分析等の準備をする				第26回	幼児教育総合研究 仕上げる						
第12回	研究方法にしたがって調査・分析等の情報収集をする				第27回	幼児教育総合研究 最終チェックをする						
第13回	研究方法にしたがって調査・分析等の実際の作業を行う				第28回	研究発表用のレジメを作成する						
第14回	作業状況について教員の個別指導を受ける				第29回	研究発表用のパワーポイントを作成する						
第15回	夏休みの計画を考える				第30回	ゼミ内で研究成果を発表する						
定期試験	なし											
⑧自主学習の課題	予習 各回の課題に取り組む。約 60 分を要する。 復習 授業以外でも研究を進める。時期にもよるが、60 分～ 240 分を要する。											
⑨テキスト	なし											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 論文検索サイト（CiNii）で自分の研究テーマに関する先行研究を検索し、手元に用意すること。											
⑪教材費	各自の研究に必要な資料代。											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		研究執筆	レジメ パワーポイント	研究成果の 発表					③配点比率			
②評価方法												
1	定期試験								0	%		
2	小テスト								0	%		
3	提出物	○	○						50	%		
4	発表・実技・プレゼン			○					20	%		
5	受講態度		○	○					20	%		
6	自主学習態度	○	○	○					10	%		
7	その他								0	%		
④ルーブリック評価		取り入れている						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		Google クラスルーム、または提出原稿を随時添削してフィードバックする。										
Ⅳ その他												
Google クラスルーム使用、ゼミの人数、時間割の状況によって、グループワークを取り入れることがある。												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	卒業研究ゼミナール（大井） Graduation Research Seminar							②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	大井 美緒											
④実務経験	幼稚園教諭（15 年）							⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科		幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許				保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	幼児教育に関してのテーマを設定し、卒業研究としてまとめる。											
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験をもつ教員が担当する。 前期は、保育に関する事例等を提示し、子ども理解や保育者の援助など視点を定めて討論を行い考察をしていく。これらを通して幼児教育について関心のあるテーマを設定していく。 後期は、目的を定めてテーマに関する研究に取り組み、卒業研究としてまとめあげ、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [関心・意欲・態度] 自分の興味や関心をもとに探求できる研究テーマを設定できる。 2. [思考・判断・表現] 研究テーマに関連する文献や資料等情報を収集できる。 3. [技能] 収集した情報を整理、分析、考察し、自分の考えを論述し卒業研究としてまとめ上げる。 4. [知識・理解] 研究内容について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
	○		○		○		○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	オリエンテーション 卒業研究の進め方				第 16 回	研究進捗状況の報告						
第 2 回	研究テーマの設定について				第 17 回	結果の整理方法						
第 3 回	研究テーマを探す①（先行研究の探し方）				第 18 回	結果の図の作成について						
第 4 回	研究テーマを探す②（文献の探し方）				第 19 回	結果の表の作成について						
第 5 回	先行研究の整理の仕方				第 20 回	結果の記述						
第 6 回	研究の動機・目的について				第 21 回	考察の書き方						
第 7 回	発表①研究テーマと構想				第 22 回	考察の作成						
第 8 回	卒業研究の書き方（基本的なルール）				第 23 回	結論の作成						
第 9 回	研究を進めるにあたっての倫理規定について				第 24 回	引用参考文献、謝辞の書き方について						
第 10 回	目次の作成				第 25 回	卒業研究全体の確認						
第 11 回	序論の書き方と作成				第 26 回	研究協力者への報告について						
第 12 回	研究方法の書き方				第 27 回	研究発表に向けて①（プレゼンテーションの作成）						
第 13 回	発表②（研究テーマ・序論・方法）前半グループ				第 28 回	研究発表に向けて②（資料の作成）						
第 14 回	発表②（研究テーマ・序論・方法）後半グループ				第 29 回	発表リハーサル						
第 15 回	夏休みの課題と今後の研究計画について				第 30 回	ゼミ内卒業研究発表会						
定期試験	なし											
⑧自主学習の課題	予習：テーマに関する文献を調べ要約する。指導内容を踏まえて研究を進めていくこと。予習には 30 分の学習時間を要する。 復習：助言や指導を受けた事項を確認し、加筆・修正をし、研究をまとめていく。復習には 30 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	必要な資料は、随時は配布する。											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	必要に応じて紹介する。											
⑪教材費	研究に必要な教材やフィールドワーク等にかかる費用は個人負担とする。											
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業に欠席した場合は、予習・復習事項を自ら取り組むこと。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0	%			
2	小テスト							0	%			
3	提出物	○	○	○	○			50	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%			
5	受講態度	○	○	○	○			10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%			
7	その他							0	%			
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		提出物は、添削をし個別指導をして返却する。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール（竹森） Graduation Research Seminar						②科目コード		Y1-3C003		
③担当教員名	竹森 亜美										
④実務経験	臨床心理士・公認心理師						⑤担当形態		単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	特別支援教育におけるアセスメントの理解／障がい児心理学の実践研究										
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい児・者とその家族の心理支援、学校現場への巡回相談などの実践経験を活かし、実践現場へのフィールドワークを推奨し、授業を展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児心理学の先行研究や実践報告等を購読し、研究テーマとなる問題を設定する。さらに、現場での実践研究または調査研究を計画、実行、評価する力を養う。前期では、実践研究を進めるための必須技術であるインタビュー調査・介入研究についての理解を深める。また、研究を実施する上での倫理的配慮を学びながら、フィールドワーク先で実施可能な研究計画を立案する。後期には、収集したデータを分析・整理した上で結果をまとめ、そこから考察できる事象をまとめる。研究によって得られた成果を現場に報告する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育及び障がい児心理学の実践研究の手法（アセスメントを含む）と研究倫理に関する知識を習得する。 2. 現在のフィールドワークから、実践研究を計画し、実行する。 3. 実践報告や調査研究により収集したデータを分析・整理し、論理的に考察することができる。 4. 研究成果をまとめ、保育・教育の実践現場にわかりやすく報告する。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
	○		○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○	反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク			プレゼンテーション			実習・フィールドワーク			○	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	前期ガイダンス				第 16 回	後期ガイダンスと研究進捗状況の報告					
第 2 回	実践研究演習 1：インタビュー調査①				第 17 回	データの分析と結果の表示方法について					
第 3 回	実践研究演習 2：インタビュー調査②				第 18 回	研究中間発表 1：前半グループ					
第 4 回	実践研究演習 3：介入研究①				第 19 回	研究中間発表 2：後半グループ					
第 5 回	実践研究演習 4：介入研究②				第 20 回	データの整理方法 1：グラフの作成					
第 6 回	実践研究演習 5：介入研究③				第 21 回	データの整理方法 2：表の作成					
第 7 回	フィールドワーク先の決定と研究テーマの設定				第 22 回	考察の書き方について					
第 8 回	研究を進めるにあたっての倫理規程について				第 23 回	結論と要旨による結果のまとめ					
第 9 回	先行研究調査と文献引用について				第 24 回	研究論文の校正 1：用語整理					
第 10 回	実践研究の手法について				第 25 回	研究論文の校正 2：引用文献の確認					
第 11 回	研究テーマと研究フィールドの発表 1：前半グループ				第 26 回	研究発表方法について					
第 12 回	研究テーマと研究フィールドの発表 2：後半グループ				第 27 回	研究の報告と研究フィールドへのお礼					
第 13 回	データの種類と収集方法について				第 28 回	研究成果報告書の作成					
第 14 回	研究依頼文書の作成と送付				第 29 回	研究発表会・報告準備					
第 15 回	夏期休業中のフィールドワークについて				第 30 回	研究フィールドへの報告及びお礼の実践					
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：引用文献となる文献を調べ、入手しておくこと。 復習：研究に関わる資料や授業での配布資料を整理し、研究論文執筆たえの手順と進捗を各自で確認すること。 ※予習・復習含め、60 分程度の時間を要する。										
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。										
⑩参考書／参考資料／準備物等	一般社団法人日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員『改訂 保育学研究倫理ガイドブック：子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』フレーベル館、2012 年										
⑪教材費	研究実施に必要な図書費、フィールドワークにかかる交通費、教材費は個人の負担とするが、相談を受け付ける。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	特記事項なし。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		アセスメント	研究遂行力	論文執筆	研究倫理の理解			③配点比率			
②評価方法											
1	定期試験							0	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物	○	○	○	○			40	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%		
5	受講態度							0	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7	その他							20	%		
④ルーブリック評価	研究論文の作成において、一部ルーブリック評価を活用する。					比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（研究論文やレポート等）の成績評価に対する個別の問い合わせに応じる。										
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（坂本） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2 単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必修別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	子育て支援領域において研究テーマを設定し、卒業研究としてまとめ上げる。									
②授業の概要	公認心理師（臨床発達心理士）として子育て支援に従事してきた教員が担当する。 保育・子育て支援において問題意識やテーマを絞り込み、フィールドワークから事象を客観的に捉え整理し、文献に基づきながら評価・考察する。これらの経過を記録し、卒業研究としてまとめ上げる。 卒業研究は、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。 Google classroom により課題・資料を提示し、必要に応じて meet やメールによるオンライン個別指導を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 〔関心・意欲・態度〕 子育て支援に関する先行研究を概観し、探求したいテーマを設定できる。 2 〔思考・判断・表現〕 研究テーマについて多面的に考察し、先行研究や他者の意見をふまえて自分の意見を述べることができる。 3 〔技能〕 心理学的研究手法に基づき、目的に沿った研究の実施、結果の整理、考察ができる。 4 〔知識・理解〕 文献検索、論文作成の基本的事項と研究テーマに関する基礎知識を理解し卒業研究を作成できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○		反転授業				ディスカッション・ディベート	
	グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	卒業研究の進め方				第 16 回	研究実施の準備				
第 2 回	子育て支援領域における研究テーマ				第 17 回	結果の整理方法				
第 3 回	研究テーマを探す① インターネットの検索方法				第 18 回	結果の表作成				
第 4 回	研究テーマを探す② 図書館における文献検索				第 19 回	結果の図作成				
第 5 回	先行研究の整理方法				第 20 回	結果の記述				
第 6 回	研究動機・構想の作成				第 21 回	考察の書き方				
第 7 回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第 22 回	考察の作成				
第 8 回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第 23 回	考察・結論の作成				
第 9 回	論文の書き方（基本ルールと目次の作成）				第 24 回	引用文献・資料・謝辞の書き方				
第 10 回	序論の書き方と作成				第 25 回	卒論最終チェック *ゼミ内卒論提出				
第 11 回	研究方法と方法の書き方				第 26 回	卒論の振り返りとまとめの作成				
第 12 回	個人発表②（目次、序論、方法）				第 27 回	研究協力者への報告書作成				
第 13 回	個人発表②（目次、序論、方法）				第 28 回	発表パワーポイントの作成				
第 14 回	研究実施に関わる倫理				第 29 回	発表リハーサル				
第 15 回	研究の実施計画				第 30 回	ゼミ卒業研究発表会				
定期試験 実施しない										
⑧自主学習の課題	・研究テーマに関連する書籍・論文を検索し、その内容について要約すること。 ・指導内容をふまえて、論文の執筆を進めていくこと。 ・授業外の時間に研究の実施を行うこと。 自主学習時間は、本授業の前後に各 90 分間を要する。									
⑨テキスト	なし *必要な資料は、随時配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書：白井利明・高橋一郎（著）「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 その他、参考資料などは随時紹介する。									
⑪教材費	フィールドワークおよび卒業研究に関わる経費は、個人負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・フィールドワークをもとに卒業研究を行う。 ・受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待する。 ・やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 ・本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回の講義で伝えます）。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験							0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○	○			50	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%		
5 受講態度	○	○	○	○			10	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物については、添削し返却するとともに講評する。 発表については、内容・態度・技能について講評する。									
Ⅳ その他										

I 科目に関する項目												
①科目名	卒業研究 Graduation Research						②科目コード	Y1-3C004				
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季											
④実務経験							⑤担当形態					
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2 単位	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
II 授業内容に関する項目												
①テーマ	各自の設定したテーマについての研究成果をまとめる。											
②授業の概要	自分の興味・関心のあるテーマを設定し、指導教員のもと研究を進めて報告書の執筆や作品制作を行ない、3 年間の集大成としてまとめる。(作品制作の場合でも報告書は付さねばならない。)											
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 研究テーマを設定できる。 2. 研究テーマに関する情報収集ができる。 3. 集めた情報を整理し、分析することができる。 4. 自分の考えを論述できる(自分の表現したいものを制作物・作品として形にできる)。 5. 公に文書を発表、公表する際の倫理、研究倫理に基づき、研究発表ができる。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性							
	○			○								
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート									
	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク									
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							
⑦授業の計画(授業の内容)												
第 1 回	各自行った研究に基づいて、担当教員の指導を受けながら報告書としてまとめる。制作物の場合も報告書は必須であり、担当教員の指導に従ってまとめる。 ・提出分量(文字数、ページ数等)、書式、提出方法、提出日時、提出場所については、各担当教員の指示に従う。 ・報告書、制作物の審査・評価後、研究発表を行うことがある。 ・提出した報告書、制作物は、専攻科修了までに本人に返却される。 ・担当教員から、保存資料として報告書のコピーの指定を受けることがある。コピーは図書館にて閲覧可能な資料として保存される。											
第 2 回												
第 3 回												
第 4 回												
第 5 回												
第 6 回												
第 7 回												
第 8 回												
第 9 回												
第 10 回												
第 11 回												
第 12 回												
第 13 回												
第 14 回												
第 15 回												
定期試験	報告書、制作物そのものが評価対象となる。											
⑧自主学習の課題	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
⑨テキスト	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
⑩参考書/参考資料/準備物等	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
⑪教材費	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
⑫履修条件/履修上の注意事項	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
III 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目										③配点比率		
②評価方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											%
1 定期試験												%
2 小テスト												%
3 提出物												%
4 発表・実技・プレゼン												%
5 受講態度												%
6 自主学習態度												%
7 その他		%										
④ルーブリック評価	取り入れていない								比率合計		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。											
IV その他												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 A Special Seminar and Research A						②科目コード		Y6-3B001		
③担当教員名	町田 治										
④実務経験							⑤担当形態		単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。										
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。 就職試験での音楽課題にも対応する。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画(授業の内容)											
第 1 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについての復習(英語音名)。										
第 2 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音～臨時記号が付かない和音)。										
第 3 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音～臨時記号が付く和音)。										
第 4 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるハ長調の課題の実施)。										
第 5 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるヘ長調の課題の実施)。										
第 6 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによる変ロ長調の課題の実施)。										
第 7 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音～臨時記号が付かない和音)。										
第 8 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音～臨時記号が付く和音)。										
第 9 回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったハ長調の課題の実施)。										
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったヘ長調の課題の実施)。										
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったニ長調の課題の実施)。										
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。										
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。										
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:短音階、短調の曲想)										
第15回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:イ短調の課題の実施)										
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。										
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。										
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する										
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。										
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力			③配点比率			
②評価方法											
1	定期試験							0	%		
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○			80	%		
3	提出物							0	%		
4	発表・実技・プレゼン							0	%		
5	受講態度	○	○	○	○			10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7	その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目															
①科目名		特別演習 B Special Seminar and Research B						②科目コード		Y6-3B002					
③担当教員名		町田 治													
④実務経験								⑤担当形態		単独					
⑥開講対象		専攻科		幼児保育専攻		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了						
⑫教職課程															
⑬保育士養成課程		【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目													
Ⅱ 授業内容に関する項目															
①テーマ		保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。													
②授業の概要		レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。就職試験での音楽課題にも対応する。													
③履修者の到達目標(学習成果)		1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。 ([特別演習 A] と同じ授業概要、学習成果となっているが、レッスン課題は A とは異なる課題にて行うことになる)													
④ディプロマポリシー(DP)との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性				
				○			○				○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート						
		グループワーク		プレゼンテーション					実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業							グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)															
第 1 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ハ長調の課題)													
第 2 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ト長調の課題)													
第 3 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ヘ長調の課題)													
第 4 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:ハ長調の課題)													
第 5 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:二長調の課題)													
第 6 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:変ロ長調の課題)													
第 7 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(付加6の和音:ハ長調の課題)													
第 8 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(増3和音:ヘ長調の課題)													
第 9 回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短7の和音:ト長調の課題)													
第10回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(長7の和音:ハ長調の課題)													
第11回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(掛留和音:ハ長調の課題)													
第12回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属9の和音:ヘ長調の課題)													
第13回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:ト長調の課題)													
第14回		各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:変ロ長調の課題)													
第15回		各自の課題曲のレッスン。日本の旋法とコードについて													
定期試験		実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。													
⑧自主学習の課題		予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用方法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。													
⑨テキスト		全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する。													
⑩参考書/参考資料/準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館													
⑪教材費		各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。													
⑫履修条件/履修上の注意事項		各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。 「特別演習A」が未履修であっても履修可。													
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率															
②評価方法		①学習項目		ピアノ演奏技術		弾き歌いの技術		コード・ネームの理解		音楽的総合力		③配点比率			
1 定期試験												0 %			
2 授業で実施する課題の採点				○		○		○		○		80 %			
3 提出物												0 %			
4 発表・実技・プレゼン												0 %			
5 受講態度				○		○		○		○		10 %			
6 自主学習態度				○		○		○		○		10 %			
7 その他												0 %			
④ルーブリック評価				取り入れていない								比率合計		100 %	
⑤課題等に対するフィードバックの方法				成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。											
Ⅳ その他															

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	特別演習 C Special Seminar and Research C							②科目コード	Y6-3B003			
③担当教員名	武田 秀美											
④実務経験								⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科		幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	幼児保育のための児童文学（絵本）の研究											
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の児童文学（絵本）の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。 また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢・発達状況に応じた児童文学の提供の方法と技術を学ぶ。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法と技術を身に付け、実践できる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション			⑤協働性	
			○			○					○	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			○		ディスカッション・ディベート			○	
	グループワーク		○			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						○
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	授業の進め方、演習発表、成績評価、演習発表で採り上げる絵本の選定について											
第 2 回	児童文学の概要（童話・昔話・民話・物語・絵本等）と演習発表について											
第 3 回	児童文学の研究手法と発表資料の作成方法について（『ももたろう』を例に）											
第 4 回	演習発表で採り上げる絵本の研究①（各自選定した作品の分析研究）											
第 5 回	演習発表で採り上げる絵本の研究②（作品を読み聞かせる幼児・児童の年齢や発達段階、読み聞かせにおける配慮、保育のねらい等の研究）											
第 6 回	学生による絵本についての発表（第1回目）と質疑応答および教員による補説											
第 7 回	名作絵本の研究（1）『ねずみくんのチョコッキ』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション											
第 8 回	『ねずみくんのチョコッキ』についての教員の解説											
第 9 回	学生による絵本についての発表（第2回目）と質疑応答および教員による補説											
第10回	名作絵本の研究（2）『こすずめのぼうけん』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション											
第11回	『こすずめのぼうけん』についての教員の解説											
第12回	学生による絵本についての発表（第3回目）と質疑応答および教員による補説											
第13回	名作絵本の研究（3）『ぐるんぱのようちえん』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション											
第14回	『ぐるんぱのようちえん』についての教員の解説											
第15回	学生による絵本についての発表（第4回目）と質疑応答および教員による補説											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：各自発表する作品について分析・研究し、発表資料を作成する。また、授業で採り上げる作品についても必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習（ディスカッション）に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深めること。予習・復習ともに、約 45 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	プリント教材を使用する。											
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。											
⑪教材費												
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	定員 15 名。 採り上げる絵本の内容や数は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報		作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力		保育における 作品選定 および 実演の能力				③配点比率		
②評価方法												
1	定期試験									0	%	
2	小テスト									0	%	
3	提出物	○		○		○				30	%	
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○				50	%	
5	受講態度	○		○		○				10	%	
6	自主学習態度	○		○		○				10	%	
7	その他									0	%	
④ルーブリック評価		学生の演習発表の評価において用いている。							比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	特別演習 D Special Seminar and Research D						②科目コード		Y6-3B004			
③担当教員名	武田 秀美											
④実務経験							⑤担当形態		単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期 後期		⑧単位 (時間数) 1 単位 (30)		⑨授業形態 演習		⑩必選別		選択	
⑪関連免許資格等	幼二種 免許		特二種 免許		保育士 資格		発達障がい児 保育 BP 修了					
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	幼児保育のための児童文学（童話・昔話・民話・物語・絵本）の研究											
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「児童文学」（童話・民話・昔話・物語・絵本）の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢に応じた児童文学の提供の方法を学ぶ。 具体的には、作品についての各自の作品研究、学生グループでの意見交換、各グループごとの意見の発表、教員による作品についての解説を行う。											
③履修者の到達目標 （学習成果）	1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法について説明することができる。											
④ディプロマブリシー （DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
			○			○				○		
⑤アクティブ・ラーニ ング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			○		ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		○			プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業						グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	授業の進め方、成績評価について											
第 2 回	児童文学の概要（童話・民話・昔話・物語・絵本等）について											
第 3 回	児童文学の研究の方法について（絵本『ぐりとぐらのかいすいよく』を例に）											
第 4 回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究（1）時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について											
第 5 回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究（2）作品のテーマ、表現の特色について											
第 6 回	アンデルセン「おやゆび姫」の研究（3）幼児向け絵本版『おやゆび姫』の種類と内容について											
第 7 回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究（1）時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在につ いて											
第 8 回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究（2）作品のテーマ、表現の特色について											
第 9 回	グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究（3）幼児向け絵本版「こぶとりじいさん」の種類と内容につ いて											
第10回	新美南吉「ごんぎつね」の研究（1）時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在											
第11回	新美南吉「ごんぎつね」の研究（2）作品のテーマ、表現の特色について											
第12回	新美南吉「ごんぎつね」の研究（3）幼児向け絵本版『ごんぎつね』について											
第13回	ルース・エインズワース『葉っぱのフレディ』の研究（1）時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在											
第14回	ルース・エインズワース『葉っぱのフレディ』の研究（2）作品のテーマ、表現の特色について											
第15回	保育・児童教育における児童文学の意義と役割について											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：授業で採り上げる作品については必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習（ディスカッション）に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深める。予習・復習ともに、約 45 分の学習時間を要する。											
⑨テキスト	プリント教材を使用する。											
⑩参考書／参考資料 ／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。											
⑪教材費												
⑫履修条件／履修上 の注意事項	定員 15 名。 授業中に採り上げる作品は必ず読み、「作品研究シート」を提出するとともに、グループ学習・口頭発表を行うことが履修の条件となる。 なお、採り上げる児童文学は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		児童文学に 関する基礎的 基本的知識・ 情報		作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力		保育における 作品の選定と 与え方の知識				③配点比率		
②評価方法												
1	定期試験									0	%	
2	小テスト									0	%	
3	提出物	○		○		○				40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○		○		○				40	%	
5	受講態度	○		○		○				10	%	
6	自主学習態度	○		○		○				10	%	
7	その他									0	%	
④ルーブリック評価		なし						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィード バックの方法		提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。										
Ⅳ その他												

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 E Special Seminar and Research E						②科目コード	Y6-3B005			
③担当教員名	中島 千恵子										
④実務経験							⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	Web 技術の教育への活用（基礎）										
②授業の概要	本授業では、高度情報化社会における多様な教育環境に対応するべく、Web による情報発信のプロセスと手法を総括的に学ぶ。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得し、実践的な力量を形成することを目的とする。各授業では、デジタル教材を活用する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. HTML によるコーディング技法を説明できる。 2. テキストエディタを使って、Web をコーディングできる。 3. Web による情報発信のプロセスと手法を説明できる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	イントロダクション										
第 2 回	文書の基本構造を表す HTML										
第 3 回	演習（コーディング：分かりやすい情報表現）										
第 4 回	分散管理のためのリンク技術										
第 5 回	演習（コーディング：ハイパーリンク）										
第 6 回	表現を分離するスタイルシート										
第 7 回	演習（コーディング：スタイルシート）										
第 8 回	テーブル										
第 9 回	演習（コーディング：テーブル）										
第 10 回	マルチメディアオブジェクトの扱い										
第 11 回	演習（コーディング：マルチメディアオブジェクト）										
第 12 回	Web プロジェクトのワークフロー										
第 13 回	企画の立案										
第 14 回	演習（企画の立案：動機、目的、対象者）グループディスカッション・プレゼンテーション										
第 15 回	演習（企画の立案：期待効果、発信内容）グループディスカッション・プレゼンテーション										
定期試験	実施しない（評価は、授業時の小テスト、課題レポート、プレゼンテーション等で行う）										
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。										
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。										
⑪教材費	特になし。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目	HTML の基礎	コーディング	情報発信のプロセスと手法				③配点比率				
②評価方法											
1 定期試験							0	%			
2 小テスト	○						20	%			
3 提出物		○	○				50	%			
4 発表・実技・プレゼン		○	○				20	%			
5 受講態度		○					10	%			
6 自主学習態度		○	○				0	%			
7 その他							0	%			
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 F Special Seminar and Research F						②科目コード	Y6-3B006		
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験							⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	Web 技術の教育への活用（応用）									
②授業の概要	本授業では、各自が興味・関心のあるテーマを選定し、Web サイトの情報構造を設計する手法を学ぶ。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得し、実践的な力量を形成することを目的とする。各授業では、デジタル教材を活用する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. Web サイトの企画立案の手法を説明できる。 2. Web サイトの情報構造を設計できる。 3. HTML によるコーディング技法を習得し、基礎的な Web を製作できるようになる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		〇		反転授業		ディスカッション・ディベート		〇	
	グループワーク				プレゼンテーション		〇		実習・フィールドワーク	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション（特別演習 E の復習）									
第 2 回	Web サイト情報構造の設計									
第 3 回	演習（Web サイト情報構造の設計）									
第 4 回	ページ情報構造の設計									
第 5 回	演習（ページ情報構造の設計）									
第 6 回	デザイン・ガイドラインの設計									
第 7 回	演習（デザインガイドラインの設計）									
第 8 回	オブジェクト指向ベースのクライアントサイドスクリプト（JavaScript）									
第 9 回	演習（JavaScript）									
第10回	キャッチコピーの設定									
第11回	演習（キャッチコピー）									
第12回	演習（コーディング：基本構造）									
第13回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第14回	演習（プレゼンテーション準備）									
第15回	まとめ（プレゼンテーション、ディスカッション）									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題レポートおよびプレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	本講義を受講するためには、「特別演習 E」を事前に受講することが求められる。 授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		企画立案の手法	情報構造の設計	コーディング				③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	〇	〇	〇				60	%	
4	発表・実技・プレゼン	〇	〇	〇				30	%	
5	受講態度	〇	〇	〇				10	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 G（モンテッソーリ教育の理論） Special Seminar and Research G					②科目コード	Y6-3B007			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	モンテッソーリ教育の理論について理解する。									
②授業の概要	テキスト・配付資料や、視聴覚教材、モンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の理論について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. モンテッソーリ教育の基本原則について説明できる。（教育原理） 2. モンテッソーリ教具のカリキュラムや教具の意図について説明できる。（教具論） 3. モンテッソーリ教師および大人の役割について説明できる。（教師論）									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
		○		○				○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク	○	プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価についてなど / モンテッソーリ教育とは									
第 2 回	マリア・モンテッソーリの生涯と業績									
第 3 回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理①「パン屑をあさる障がい児」のエピソード									
第 4 回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理②「円柱差しの女兒」のエピソード									
第 5 回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理③「敏感期」について									
第 6 回	モンテッソーリ教具について（モンテッソーリ教具の 5 分野）									
第 7 回	「日常生活の練習」教具の紹介と教具体験									
第 8 回	「感覚教具」① 教具の紹介と教具体験									
第 9 回	「感覚教具」② 感覚教具の特徴とねらい									
第 10 回	「算数教具」① 目的とカリキュラム									
第 11 回	「算数教具」② 教具の紹介と教具体験									
第 12 回	「言語教具」① 目的とカリキュラム									
第 13 回	「言語教具」② 教具の紹介と教具体験									
第 14 回	モンテッソーリ教師の役割									
第 15 回	まとめ：モンテッソーリ教育における大人の役割									
定期試験	実施する（レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約 30 分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約 30 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	田中昌子著『マンガでやさしくわかるモンテッソーリ教育』日本能率協会マネジメントセンター 2018 年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業内で随時紹介する。									
⑪教材費	大学ノート（B5 サイズ）を 1 冊用意すること。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・教具体験はグループワークの形式で行う。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回授業で伝える）									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		教育原理	教具論	教師論					③配点比率	
②評価方法										
1	定期試験（レポート）			○					30	%
2	小テスト								0	%
3	提出物（ノート）	○	○	○					60	%
4	発表・実技・プレゼン								0	%
5	受講態度	○	○	○					5	%
6	自主学習態度	○	○	○					5	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目														
①科目名		特別演習 H（モンテッソーリ教育の実践） Special Seminar and Research H						②科目コード		Y6-3B008				
③担当教員名		井出 麻里子												
④実務経験								⑤担当形態		単独				
⑥開講対象		専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期		後期	⑧単位（時間数）		1 単位（30）	⑨授業形態		演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格				発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程														
⑬保育士養成課程		【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目												
Ⅱ 授業内容に関する項目														
①テーマ		モンテッソーリ教育の実践について知る。												
②授業の概要		画像・DVD などの視聴覚教材や実際のモンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の実践について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。また、モンテッソーリ教育を実践している現場でのフィールドワークを行い、モンテッソーリ教育の実際を知る。												
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 各発達段階の特徴と、その時期にふさわしい養育・保育環境について説明できる。（発達と環境） 2. モンテッソーリ教育の実践事例を知り、その特徴を説明できる。（実践事例の理解） 3. モンテッソーリ教育の実践現場を体験し、レポートにまとめる。（実践現場体験）												
④ディプロマブリッシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性				
				○		○						○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート				
		グループワーク				プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○		
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画（授業の内容）														
第 1 回		オリエンテーション：授業の概要と進め方、フィールドワーク、評価についてなど												
第 2 回		モンテッソーリ・メソッドの実践① DVD 視聴と解説『モンテッソーリ教育 0 歳児の家庭環境 出産～5ヶ月』												
第 3 回		0 歳児の子育て環境（家庭におけるモンテッソーリ教育）												
第 4 回		モンテッソーリ・メソッドの実践② DVD 視聴と解説『ニド モンテッソーリ教育 0 歳児の発達と環境』												
第 5 回		0 歳児クラスの保育環境① スペースと家具の配置												
第 6 回		0 歳児クラスの保育環境② モンテッソーリ教具と教師の役割												
第 7 回		モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説『インファントコミュニティ モンテッソーリ教育 1～3 歳児の生活教育』												
第 8 回		1～3 歳児クラスの保育環境												
第 9 回		モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説『子どもの家 モンテッソーリ教育 3～6 歳児の感覚教育』												
第 10 回		3～6 歳児クラスの保育環境												
第 11 回		モンテッソーリ園の特徴（一般園との比較を通して）												
第 12 回		フィールドワーク① 概要説明												
第 13 回		フィールドワーク② 事前学習												
第 14 回		フィールドワーク③ 園見学												
第 15 回		フィールドワーク④ フィールドワークの振り返りとモンテッソーリ教育の実践に関するまとめ												
定期試験		実施する（レポート課題）												
⑧自主学習の課題		予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約 30 分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約 30 分の学習時間を要する。												
⑨テキスト		随時、資料を配付する。												
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等		授業内で随時紹介する。												
⑪教材費		・大学ノート（B5 サイズ）1 冊を用意すること。・フィールドワークにかかる費用は各自の負担となる。												
⑫履修条件 / 履修上の注意事項		・前期に開講している「幼児教育研究 G（モンテッソーリ教育の理論）」を履修していること。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること。（クラスコードは初回授業で伝える）												
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率														
①学習項目		発達と環境		実践事例の理解		実践現場体験						③配点比率		
②評価方法														
1 定期試験（レポート）						○						30 %		
2 小テスト												0 %		
3 提出物（ノート）		○		○								60 %		
4 発表・実技・プレゼン												0 %		
5 受講態度		○		○		○						5 %		
6 自主学習態度		○		○		○						5 %		
7 その他												0 %		
④ルーブリック評価		取り入れている								比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。												
Ⅳ その他														

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	特別演習Ⅰ（保育時事問題演習） Special Seminar and ResearchⅠ						②科目コード	Y6-3B009			
③担当教員名	打越 みゆき										
④実務経験							⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	公務員採用試験に向けての面接・小論文対策										
②授業の概要	この授業では、公務員採用試験を受験希望の人を対象に、保育時事問題を取り上げ、試験で必要とされる小論文・面接・グループ討議等の力を身につける。保育士資格に必要な知識や自らの体験を総合的に捉え、自分の意見として人にわかりやすく伝えられるようにする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育時事問題について、自分の意見を文章にまとめることができる。 2. 保育時事問題について、自分の意見を人にわかりやすく伝えることができる。 3. 保育時事問題について、他者の意見を受け止めながら、自分の意見を伝えることができる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリット・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	ガイダンス・目標の設定										
第 2 回	小論文の基本的な考え方										
第 3 回	小論文の基本 実践① 公務員とは										
第 4 回	小論文の基本 実践①の振り返り										
第 5 回	保育に関する時事問題を調べる										
第 6 回	保育に関する時事問題を発表する										
第 7 回	小論文の基本 実践② 保育とは										
第 8 回	小論文の基本 実践②の振り返り										
第 9 回	保育時事問題・グループ討議の基本										
第10回	保育時事問題・グループ討議の実践										
第11回	保育時事問題・個人面接の基本										
第12回	保育時事問題・模擬面接										
第13回	保育時事問題・自己PRの基本										
第14回	保育時事問題・自己PRの実践										
第15回	総合問題（これまでの授業をふまえて、小論文としてまとめる）										
定期試験	なし										
⑧自主学習の課題	予習：約 10 分間の学習時間を要する。（新聞などを読み、時事問題について情報収集をする） 復習：約 60 分間の学習時間を要する。（授業での課題を復習、または解き直しをする）										
⑨テキスト	鈴木鋭智・著『改訂版 何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55』KADOKAWA 2020年										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ※汐見稔幸・監修『保育所保育指針ハンドブック 2017 年告示版』学研教育みらい ※近喰晴子・監修／コンデックス情報研究所編著『保育士採用試験重要ポイント＋問題集 '26 年度版』										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件／履修上の注意事項	公務員採用試験を受験する人は必ず受講すること。受験する可能性のある人もできれば受講すること。 受講者の中で希望があれば、試験前に面接の個別練習を受けることができる。 ※受け身にならず、自分から進んで調べたり、質問することができる人を望む。 授業を欠席した場合には、Google classroom を確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取ること。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の課題を Google classroom より配信する予定である。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法		①学習項目	小論文	面接練習スピーチ	グループディスカッション				③配点比率		
1	定期試験		○						20	%	
2	小テスト								0	%	
3	提出物		○						20	%	
4	発表・実技・プレゼン			○	○				20	%	
5	受講態度			○	○				10	%	
6	自主学習態度		○						30	%	
7	その他								0	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		小論文については添削して返却。面接練習スピーチ、グループディスカッションは授業時に随時コメントする。成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
Ⅳ その他											
参考図書の※は購入すると試験に役立つ。Google クラスルームを使用する。											

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		特別演習 J（乳幼児のあそびと健康教育） Special Seminar and Research J					②科目コード		Y6-3B010				
③担当教員名		打越 みゆき											
④実務経験							⑤担当形態		単独				
⑥開講対象		専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程													
⑬保育士養成課程		【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		乳幼児のあそびと健康教育											
②授業の概要		本科で触れることのできなかった乳幼児のあそびと健康教育を中心としながら、自然観察や伝統あそび・民俗舞踊の技能の習得、学外での学習も取り入れていく。また、子ども自身があそびの面白さや健康・安全を意識できるようなポイントをノートにまとめていく。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 乳幼児の様々な遊びを実践できるようになる。 2. 文献資料や DVD 資料などから、乳幼児のあそびと健康教育の重要ポイントをまとめることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
				○		○							
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート					
		グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回	ガイダンス・自然観察あそび（学内）説明します）				実践（授業の進め方、Google classroom の活用法、評価方法についても								
第 2 回	乳幼児のあそび 発表												
第 3 回	園外保育を想定した自然観察あそび				実践								
第 4 回	表現あそび（布を使った表現）												
第 5 回	運動会の表現（民俗舞踊）				映像による学習と体験								
第 6 回	伝承あそびの良さ				理論								
第 7 回	伝承あそびの習得・けん玉				練習								
第 8 回	伝承あそびの習得・けん玉				検定								
第 9 回	伝承あそびの習得・お手玉				練習								
第 10 回	伝承あそびの習得・お手玉				検定								
第 11 回	伝承あそびの習得・あやとり				検定								
第 12 回	伝承あそびの習得・コマ				練習								
第 13 回	伝承あそびの習得・コマ				検定								
第 14 回	季節のあそび（クリスマス・正月のあそび）												
第 15 回	発達に即した巧技台のあそび（学外）												
定期試験	実施しない（授業課題のみ）												
⑧自主学習の課題		予習：約 10 分間の学習時間を要する。（興味を持ったことについて調べる） 復習：約 30 分間の学習時間を要する。（ノートまとめ、課題練習）											
⑨テキスト		適宜プリントを使用											
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		なし											
⑫履修条件／履修上の注意事項		たくさん体を動かすので、運動しやすい格好で出席すること（ミニスカート、ショートパンツ、肌の露出が大きい服は不可）。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。 巧技台は外部のイベントに参加予定（交通費は自己負担）。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		様々なあそびの実践	様々な遊びのまとめ							③配点比率			
②評価方法													
1	定期試験									0	%		
2	小テスト									0	%		
3	提出物		○							40	%		
4	発表・実技・プレゼン	○								50	%		
5	受講態度	○								5	%		
6	自主学習態度	○	○							5	%		
7	その他									0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		随時、Google classroom よりコメントする。 検定については、その場でコメントする。											
Ⅳ その他													
・ ノートは「保育内容の指導法・健康」の続きを使用してもよい。ルーズリーフ不可。 ・ Google classroom を使用する。 ・ （科目等履修生の状況も含め）受講者数、天候等によって内容の変更がある。													

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 K Special Seminar and Research K						②科目コード	Y6-3B011			
③担当教員名	大井 美緒										
④実務経験	幼稚園教諭 (15 年)						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1 単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	子ども主体の保育の理解と振り返りの方法										
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が担当する。子ども理解や援助、造形表現や遊び等、子ども主体の保育を展開していくための知識や技術について、事例検討および実践を通して学ぶ。										
③履修者の到達目標 (学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 子ども主体の保育に関心を持ち、保育のあり方について探求することができる。 2 [思考・判断・表現] 子ども主体の保育の展開の仕方について考察し、設定保育の中ではどのような配慮等が必要か自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 保育指導案の作成や振り返りに必要な情報を選択し可視化することができる。 4 [知識・理解] 子ども主体の保育を展開することの重要性について理解し、説明することができる。										
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
		○		○				○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業			ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○				
⑦授業の計画 (授業の内容)											
第 1 回	授業の概要と進め方について										
第 2 回	保育者の意図的な環境について										
第 3 回	園外保育について①グループ討議										
第 4 回	園外保育について②立案										
第 5 回	園外保育について③役割と準備										
第 6 回	園外保育の実際										
第 7 回	園外保育の振り返り										
第 8 回	保育の振り返りについて①ドキュメンテーションとは										
第 9 回	保育の振り返りについて②ドキュメンテーション作成										
第 10 回	保育の振り返りについて③ドキュメンテーション発表										
第 11 回	幼児の遊び①夢中になることとは										
第 12 回	幼児の遊び②集団での遊び										
第 13 回	行事と遊びの関係										
第 14 回	遊びの環境と援助について										
第 15 回	子ども主体の保育とは										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：各授業回のテーマについて、保育雑誌等で実際に現場でどのようなことが行われているのか調べる。 予習には約 30 分の時間を要する。 復習：各授業回において、提示された課題に取り組む。復習には約 30 分間の学習時間を要する。										
⑨テキスト	授業時に資料を随時提示する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	製作物や見学等に関する費用については、各自の負担とする。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に取り組むこと。 ・グループワークでは、主体的に参加し自分の意見を述べることを。また、他者の意見を尊重し対話をしながら進めていくこと。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率			
②評価方法											
1	定期試験							0	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物	○	○	○	○			50	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%		
5	受講態度	○	○	○	○			10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7	その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
IV その他											

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 M Special Seminar and Research M					②科目コード	Y6-3B013				
③担当教員名	服部 純一										
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16 年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14 年)					⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	教育臨床（幼稚園・保育園・学校における特別な教育支援）										
②授業の概要	特別支援学校・特別支援学級の教育課程では義務とされ、通常学級や保育園幼稚園、児童発達支援センターなどでも必要とされる「個別の支援計画」の立て方や、支援計画を基に具体的な発達支援・学習支援のための教材づくりの基本を、来学する数名の発達障がい児への臨床研究として実践的に学習する。特に、特別支援教育や障がい児保育、療育を志す学生については、ケースから学ぶ方法や教育者・保育者・療育者として求められる実践的な力を身につけられるアクティブラーニング形式の授業にしたい。指導者は 1980 年代に日本に個別の教育計画を概念を紹介し、埼玉県の特別支援教育課程編成要領の策定にも関わってきた経験から、個別の支援計画の立案から活用に至る具体的な方法を、個々の子どもの課題に合わせて立案し実践する保証を指導する。教具の作成、支援の方法と評価、支援計画の修正などを実践的に学び、特別支援教育や療育に携わる支援者としての基礎的な能力を養う。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育や発達支援などの療育活動に対する支援者としての基本的な知識が理解できる。 2. 教育相談として定期的に来学する数名の発達障がい児に対し、担当教員の指導の下で学習支援や療育活動ができるようになる。 3. 特別な支援計画を立てるポイントを把握し、数名の発達障がい児への臨床活動を通して適切な支援や評価が行えるようになる。 4. 特別な教育支援計画に沿った支援を展開するための、合理的な教材・教具の工夫ができるようになる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
		○			○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート			
	グループワーク	○	プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク		○	
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業							グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	初回ガイダンス（特別演習を通して学ぶ内容と発達支援・特別教育支援の基本的な考え方の説明）										
第 2 回	臨床研究に関する打ち合わせ（来学するケースの紹介と臨床担当者の調整。バックアップする学生の役割の説明と教材づくりについて）										
第 3 回	ケース研究 A（発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生）への学習支援セッション。										
第 4 回	ケース研究 B（極小未熟児後遺症による発達に問題のある小学生）への学習支援セッション。										
第 5 回	オンデマンドによる基礎学習：乳幼児期から学齢期の児童の発達のプロセスと発達支援をするべき内容										
第 6 回	ケース研究 C（ADHD と診断された小学生）への学習支援セッション。										
第 7 回	ケース研究 D：（発達障害から不登校傾向にある小学生）への学習支援セッション。										
第 8 回	ケース研究 A：特別な教育支援ニーズの把握と支援計画の立案										
第 9 回	ケース研究 B：特別な教育支援ニーズの把握と支援計画の立案										
第 10 回	オンデマンドによる基礎学習：特別な教育支援ニーズへの課題把握と支援方法の検討。										
第 11 回	オンデマンドによる基礎学習：特別な教育支援計画の立案のポイント										
第 12 回	ケース研究 C：特別な教育支援ニーズの把握と支援計画の立案										
第 13 回	ケース研究 D：特別な教育支援ニーズの把握と支援計画の立案										
第 14 回	ケース研究 A・B：特別な支援計画に基づいた支援の実践										
第 15 回	ケース研究 C・D：特別な支援計画に基づいた支援の実践										
定期試験	レポート課題：特別な教育支援のありかたについて（個別の支援プラン A・B と支援セッションの活動計画提出）まとめの講義										
⑧自主学習の課題	予習：各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業（臨床研究）に臨む。予習には教材研究を含め約 90 分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。復習には約 60 分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。										
⑪教材費	なし。 但し、自作の教材への材料費は自己負担。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	臨床研究はケースの児童 1 名につき学生 1～2 名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は 8 名まで。特別演習 M と N のセットで受講されることを勧めるが、定員以内なら M のみの受講も可とする。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		特別な教育支援の理解	個別の療育的支援	子どもへの支援と評価	教材・教具の工夫			③配点比率			
②評価方法											
1	定期試験（課題提出）	○	○	○	○			20	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物（授業セッションへの計画）	○	○	○	○			40	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			20	%		
5	受講態度	○	○	○	○			10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7	その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物（個別の支援計画や教材・教具の工夫）については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。										
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名		特別演習 N Special Seminar and Research N					②科目コード		Y6-3B014		
③担当教員名		服部 純一									
④実務経験		特別支援学校・特別支援学級教諭(16 年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14 年)					⑤担当形態		単独		
⑥開講対象		専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程		【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ		教育臨床（インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援と支援の連携）									
②授業の概要		特別支援学校・学級の教員、教育委員会の教育相談室長、特別支援学級設置小学校の校長経験を活かし、具体的な発達支援と特別支援教育で必要とされる実践的な支援法を臨床研究として展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児保育、療育について、教育相談として来学するケースに対し、個別の支援計画を立てながら、臨床的に発達支援を実施する方法をアクティブラーニング形式で学ぶ。特に N では、学校や保育園との連携、医療機関との連携をケースを通して具体的に試みる。ケースへの個別支援だけでなく、保護者の気持ちの寄り添った支援や子どもを取り巻く支援資源を把握した総合的な支援計画を検討し、インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援の実践のしかたについて、具体的に学べる体験的な授業にしていける。									
③履修者の到達目標（学習成果）		1. インクルーシブな保育・教育環境をつくるための特別な支援の方法や知識が理解できる。 2. 発達障がいの児童や幼児に必要なとされる保育・教育環境が理解でき、子どもにとって必要な個別支援計画を作成し中間修正が考えられる。 3. 担当教員の指導の下での学習支援や療育活動の中で、適切な教材・教具の工夫ができる。 4. 療育活動を通して、子どもを取り巻く関係者への連携の取り方が工夫でき、インクルーシブな保育・教育が行えるようになる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			
		グループワーク		〇		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク		〇	
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				〇	
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	初回ガイダンス（後期の授業におけるケースへの臨床研究と連携先とのかかわり方についての基礎知識）										
第 2 回	ケース研究 A（発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生）への学習支援セッションと小学校への中間レポートの検討。										
第 3 回	ケース研究 B（極小未熟児後遺症による発達に問題のある小学生）への発達支援セッションと小学校への中間レポートの検討。										
第 4 回	ケース研究 C（ADHD と診断された小学生）への特別支援セッションと小学校への中間レポートの検討。										
第 5 回	ケース研究 D（発達障害から不登校傾向にある小学生）への特別支援セッションと小学校への中間レポートの検討。										
第 6 回	ケース研究 A：発達支援セッションと保育園への中間レポートの提供。										
第 7 回	ケース研究 B：特別支援セッションと小学校への中間レポートの提供。										
第 8 回	ケース研究 C：発達支援セッションと保育園への中間レポートの提供。										
第 9 回	ケース研究 D：発達支援セッションと保育園への中間レポートの提供。										
第10回	各ケース毎の連携先との連携の状況の報告と経験の共有										
第11回	ケース研究 A：特別支援セッションと小学校と医療機関との連携についての成果と課題の確認。										
第12回	ケース研究 B：特別支援セッションと小学校と医療機関との連携についての成果と課題の確認。										
第13回	ケース研究 C：特別支援セッションと小学校と医療機関との連携についての成果と課題の確認。										
第14回	ケース研究 D：特別支援セッションと小学校と医療機関との連携についての成果と課題の確認。										
第15回	まとめ：インクルーシブな保育・教育に向けた教育・保育現場の特徴と連携を拡げる支援のあり方について										
定期試験	レポート課題										
⑧自主学習の課題		予習：各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業（臨床研究）に臨む。予習には教材研究を含め約 90 分の学習時間を要する。 復習：各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。 復習には約 60 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト		授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等		参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費		なし。 但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項		臨床研究はケースの児童 1 名につき学生 1～2 名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は 8 名まで。特別演習 M と N のセットで受講されることを勧めるが、定員以内なら N のみの受講も可とする。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		インクルーシブ教育への理解	個別の支援計画の中間修正	教材・教具の工夫	連携への知識	③配点比率					
②評価方法											
1	定期試験	〇	〇	〇	〇			20			%
2	小テスト							0			%
3	提出物	〇	〇	〇	〇			40			%
4	発表・実技・プレゼン	〇	〇	〇	〇			20			%
5	受講態度	〇	〇	〇	〇			10			%
6	自主学習態度	〇	〇	〇	〇			10			%
7	その他							0			%
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		・提出物（個別の支援計画や教材・教具の工夫）については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目													
①科目名		特別演習 Q Special Seminar and Research Q					②科目コード		Y6-3B017				
③担当教員名		竹森 亜美											
④実務経験		臨床心理士（10 年）・公認心理師（5 年）					⑤担当形態		単独				
⑥開講対象		専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程													
⑬保育士養成課程		【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目													
①テーマ		幼児期・学齢期における療育プログラムの計画と実施											
②授業の概要		臨床心理士・公認心理師として、発達障がい・知的障がい児への療育や心理臨床の実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定した実践的な授業を展開する。模擬療育を実施しながら、障がいを持つ子どもに行う療育支援プログラムについてアクティブラーニング形式で学ぶ。特に、自立活動を踏まえた療育指導及び教材作成を行い、実践する技術を養う。											
③履修者の到達目標（学習成果）		1. 特別支援教育における自立活動の概念について知り、療育プログラムに反映することができる。 2. 療育プログラムの遂行を共有する計画書を作成し、これに従って模擬療育を実施することができる。 3. 他者が行っている療育を見て、専門的見地から評価・コメントし、それらを療育ノートにまとめることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係		①カトリック・教養・人間性			②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
		○			○						○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習			反転授業					ディスカッション・ディベート		○	
		グループワーク			プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）													
第 1 回		イントロダクション（授業概要・成績評価の説明）											
第 2 回		特別支援教育における自立活動											
第 3 回		発達を促す療育											
第 4 回		療育計画とアセスメント											
第 5 回		模擬療育の説明・準備											
第 6 回		模擬療育①（言葉・コミュニケーション）											
第 7 回		模擬療育②（数概念）											
第 8 回		模擬療育③（記憶）											
第 9 回		模擬療育④（視知覚）											
第10回		模擬療育⑤（微細運動）											
第11回		模擬療育⑥（社会性）											
第12回		模擬療育・振り返り											
第13回		様々な療育的アプローチ											
第14回		就学前における発達支援の現場											
第15回		まとめ（アセスメントに基づく療育）											
定期試験		発表・実技で評価するため、実施しない。											
⑧自主学習の課題		予習：模擬療育で担当する教材について事前に調べること。 復習：実施した模擬療育のまとめノートを作成すること。 ※予習・復習ともに各 30 分程度の時間を要する。											
⑨テキスト		授業時に随時提示する。											
⑩参考書／参考資料／準備物等		文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費		実習費、教材費用：模擬療育で使用する教材費は、各自捻出すること。											
⑫履修条件／履修上の注意事項		上の注意事項 履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：模擬療育では、参加者全員の前で発表を行うため、そうしたことに過度な心理的負担が生じる場合には受講しないことがのぞましい。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率													
①学習項目		自立活動の理解	療育プログラム計画書の作成		模擬療育の実施		療育ノート				③配点比率		
②評価方法													
1 定期試験									0	%			
2 小テスト									0	%			
3 提出物			○				○		50	%			
4 発表・実技・プレゼン			○	○					40	%			
5 受講態度			○	○					5	%			
6 自主学習態度			○	○		○			5	%			
7 その他									0	%			
④ルーブリック評価		発表（実技）における評価についてはルーブリック評価を活用する。							比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。											
Ⅳ その他													

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	特別演習 R Special Seminar and Research R						②科目コード		Y6-3B018			
③担当教員名	竹森 亜美											
④実務経験	臨床心理士（10 年）・公認心理師（5 年）						⑤担当形態		単独			
⑥開講対象	専攻科		幼児保育専攻		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許				保育士資格				発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保護者支援											
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、保護者との教育相談や巡回相談の実践経験を活かし、具体的な実践を想定した授業を展開する。保護者が抱える悩み・不安、期待について理解し、保護者理解の観点をアクティブラーニング形式で学ぶ。 また、対人援助を行う上で支援者がどのように保護者と関わるといのか、ペアワーク等の実践を通して体験的に理解し、保護者と良好な関係を構築するための基礎的な力を養う。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保護者が抱えるさまざまな感情・悩みを知り、保護者に寄り添った対応をすることができる。 2. 保護者を理解するための観点を知り、どのような行動に着目すべきか表現することができる。 3. 保護者の様子を見立てる視点を知り、所見や記録に反映することができる。 4. 自己理解を深め、対人援助サービスを実施する上での自身の強みと課題を理解し、言葉で表現することができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
			○		○				○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク				プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	発達臨床領域における保護者支援											
第 2 回	保護者が抱えるさまざまな悩み：講義											
第 3 回	保護者が抱えるさまざまな悩み：発表											
第 4 回	ペアレント・トレーニング①：「行動」を捉える											
第 5 回	ペアレント・トレーニング②：よいところを褒める											
第 6 回	ストレスマネジメント①：基本的な考え方											
第 7 回	ストレスマネジメント②：ワークを用いた実践											
第 8 回	保護者相談①：相談の枠組みを作る											
第 9 回	保護者相談②：相手を労う											
第 10 回	保護者相談③：相手の話を傾聴する											
第 11 回	保護者相談④：相手に伝わりやすい工夫											
第 12 回	保護者相談⑤：わからない時にどうするか											
第 13 回	保護者相談⑥：困難事例への対処											
第 14 回	対人援助職に求められるセルフケア											
第 15 回	まとめ											
定期試験	授業内の実践・実技にて評価する											
⑧自主学習の課題	予習：授業時に配布する参考資料等に目を通しておくこと。 復習：保護者を支援するために必要な工夫について記録すること。 ※予習・復習それぞれに各 30 分の時間を要する。											
⑨テキスト	授業時に随時提示する。											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	特になし											
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：保護者対応を習得するために、多くの回でペアワーク（模擬面接等）を行う。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		保護者の理解		行動観察		観察記録		自己理解		③配点比率		
②評価方法												
1 定期試験											0	%
2 小テスト											0	%
3 提出物					○		○				50	%
4 発表・実技・プレゼン			○		○						40	%
5 受講態度			○		○		○				5	%
6 自主学習態度	○		○		○						5	%
7 その他											0	%
④ルーブリック評価			取り入れていない						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。											
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 U Special Seminar and Research U					②科目コード	Y6-3B021			
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（11 年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者に関しての知識・理解を深めていく。（基礎）									
②授業の概要	保育士、またろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向的やりとりで進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたらう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援に関しての知識を身につける。ろう者に会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【意識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
		○		○				○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	自己紹介とガイダンス（手話通訳あり）									
第 2 回	名前を手話で表現する									
第 3 回	家族に関する手話表現を学ぶ									
第 4 回	手話で自己紹介をする									
第 5 回	略歴を手話で表現する									
第 6 回	ゲストスピーカーによる講演①									
第 7 回	動物に関する手話表現を学び会話をする									
第 8 回	一日のタイムテーブルに関する表現を学び会話をする									
第 9 回	通学・通勤に関する表現を学び会話をする									
第10回	食べ物に関する表現を学び会話する									
第11回	ゲストスピーカーによる講演②									
第12回	病気・怪我に関する手話表現を学び会話する									
第13回	乳幼児の生活に困んだ手話表現を学び会話する									
第14回	保育園などのタイムテーブルに関する手話表現を学び会話する									
第15回	まとめと振り返り									
定期試験	実施する（実技試験・レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてグーグルクラスルームにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、グーグルクラスルームからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD 付き）、白水社、2022年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	【参考書】 松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】 透明マスク（推奨：ルカミィ / 栄商会、顔がみえマスク / ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA 上位者が優先される）。 ・本科目のグーグルクラスルームに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、グーグルクラスルームで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験		○	○	○			20	%	
2	小テスト			○				10	%	
3	提出物	○	○		○			15	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○		○				40	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			15	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 V Special Seminar and Research V					②科目コード	Y6-3B022			
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（11 年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者に関しての知識・理解を深めていく。（応用）									
②授業の概要	保育士、またろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向的やりとりで進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたらう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援に関しての知識を身につける。ろう者に会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【意識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
		○			○				○	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業					ディスカッション・ディベート		
	グループワーク	○	プレゼンテーション					実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	前期の復習・後期ガイダンス（手話通訳あり）									
第 2 回	夏休みの日の過ごし方などを手話で表現する									
第 3 回	電車や駅場所に関する手話表現を学ぶ									
第 4 回	手話で自己紹介をする（応用）									
第 5 回	ゲストスピーカーによる講演①									
第 6 回	手話の質問文の表現を学ぶ									
第 7 回	手話の質問文を用いた会話を練習する									
第 8 回	手話の疑問文の表現を学ぶ									
第 9 回	手話の疑問文を用いた会話を練習する									
第10回	ゲストスピーカーによる講演②									
第11回	イベントに関する手話を学ぶ									
第12回	手話イベントの計画をする・手話での出し物の練習をする									
第13回	手話のイベントの実施									
第14回	後期の復習									
第15回	まとめと振り返り									
定期試験	実施する（実技試験・レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてグーグルクラスルームにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、グーグルクラスルームからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD 付き）、白水社、2022年									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	【参考書】 松岡和美、「わくわく！ 納得！ 手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！ 人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】 透明マスク（推奨：ルカミィ / 栄商会、顔がみえマスク / ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください									
⑪教材費										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA 上位者が優先される）。 ・特別演習 W を履修していること。 ・本科目のグーグルクラスルームに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、グーグルクラスルームで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解	③配点比率				
②評価方法										
1 定期試験			○	○	○	20	%			
2 小テスト				○		10	%			
3 提出物		○	○		○	15	%			
4 発表・実技・プレゼン						0	%			
5 受講態度		○		○		40	%			
6 自主学習態度		○	○	○	○	15	%			
7 その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 W Special Seminar and Research W					②科目コード	Y6-3B023			
③担当教員名	森井 佳代									
④実務経験	保育士、アートワークショップ講師、障がいを持つ人と乳幼児の場づくり					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1 単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	造形素材を通して世界を広げる ～子ども理解、地域とのつながり～									
②授業の概要	①「私たち」の地域から造形表現で用いる素材を集める REMIDA 赤羽づくり 優れた乳幼児教育として知られるイタリア発祥のレッジョ・エミリア・アプローチでは、地域素材を教育現場に還元する素材庫 REMIDA（レミダ）という施設があります。保育を行う上で地域との連携は欠かせません。「私たち」が関わる場から、地域にまつわる素材を集め、それを生かした実践を考えます。赤羽周辺からどのような素材を得ることができるか調べ、フィールドワークをして私たちの REMIDA をつくりましょう！ ②自らが好奇心をもって表現する 子どもが豊かな好奇心を元に表現するように、学生自ら表現をするワクワク感を体験し、子ども理解を深めます。 ③身近にある素材からアイデアを得る 音、紙、絵の具など身近な材料を用いた造形表現を実践します。①で集めた素材も使い、素材の活用の仕方を実践的に学びます。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 造形表現を通して子どもの理解を深め、地域との関わりを体験的に学ぶ。 2. 素材の豊かさが、表現の豊かさにつながることを理解する。 3. 自ら考え、他者と協同的、対話的に学ぶ関係性づくりをする。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業					ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク	○	プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク		○
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	授業概要の説明 豊かな素材が子どもたちの表現を広げる イタリア レッジョ・エミリア・アプローチ実践の紹介									
第 2 回	赤羽の素材探し 赤羽の「現在」を調べ、保育現場で活用できる素材を探す 素材提供依頼の資料づくり（グループワーク）									
第 3 回	フィールドワーク① 実際に赤羽を散策し、素材を集める（グループワーク）									
第 4 回	フィールドワーク② 実際に赤羽を散策し、素材を集める（グループワーク）									
第 5 回	素材マップづくり 集めた素材を元に地図を作成（グループワーク後、ひとつの地図として作品にする）									
第 6 回	素材探究ワーク① 赤羽素材 集めた素材を元に、ワーク実践 素材をとことん探求する									
第 7 回	素材探究ワーク② 赤羽素材 集めた素材を元に、ワーク実践 「自己」「他者」を知る									
第 8 回	画材探究ワーク① 絵の具×○○＝？ 絵の具の可能性を知る									
第 9 回	画材探究ワーク② 紙 身近にある素材で、どのような表現ができるか探求									
第 10 回	絵本づくり① 音をテーマに、オノマトペの絵本を制作 ～音の色・カタチ探し～									
第 11 回	絵本づくり② 音をテーマに、オノマトペの絵本を制作 ～音でものがたりづくり～									
第 12 回	絵本づくり③ 制作した絵本を読み聞かせて発表 ふりかえりとフィードバック									
第 13 回	まとめのワーク① 多様な素材を用いて大きな立体作品をつくる									
第 14 回	まとめのワーク② 多様な素材を用いて大きな立体作品をつくる									
第 15 回	ポートフォリオ 今までの学びをポートフォリオにする まとめ									
定期試験	実施なし（提出物及び制作物で評価）									
⑧自主学習の課題	準備：赤羽で集めた素材の他に、各自、家で出た廃材など造形に使用できる素材集めをする 授業時間内で制作が終わらない場合は、自主学習として完成させる									
⑨テキスト	授業時に資料を配布									
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 レッジョ・チルドレン著 ワタリウム美術館編『子どもたちの 100 の言葉』日東書院本社 2012 年 清野とおる『東京都北区赤羽』Bbmf マガジン 2009 年									
⑪教材費	1500 円									
⑫履修条件／履修上の注意事項	定員 20 名 動きやすい、汚れても良い服装で参加する。 やむを得ず授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 グループワーク時は、他メンバーと連携を図り協力して進めること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		保育と地域 素材探求	作品づくり	他者との 協同制作					③配点比率	
②評価方法										
1	定期試験								0	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○					70	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					10	%
5	受講態度	○	○	○					15	%
6	自主学習態度	○	○						5	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計				100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	発表時に学生、教師間でふりかえりとフィードバックを実施（一部グループワークあり）									
Ⅳ その他										
写真撮影、アプリ使用に際し、携帯電話を用いる（スマートフォンが望ましいが、それ以外も可）。 作成した赤羽素材マップは、学内で展示をする。										

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名		子どもの食と栄養Ⅰ Food and Nutrition for ChildrenⅠ					②科目コード		Y3-3A001			
③担当教員名		佐藤 陽子										
④実務経験		管理栄養士					⑤担当形態		単独			
⑥開講対象		専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年		⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等		幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程		【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養 (演習)										
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ		栄養に関する基本的知識と乳児期の食生活										
②授業の概要		管理栄養士の資格を持つ教員が担当する。子どもの食生活は、発育・発達の上でとても重要であり、将来の食習慣にまで影響を及ぼす。そのために、栄養素の種類や体内での働き、ライフステージ別 (乳児期・幼児期) の特徴や望ましい食生活について理解し、適切に指導できる能力を養う。グループワークや調理実習を適宜取り入れて実践を身につける。授業は毎回パワーポイントを用いて行う。										
③履修者の到達目標 (学習成果)		1. 各栄養素の働きと健康との関わりについて説明ができる。 2. ライフステージ別 (幼児まで) の食生活の特徴を説明することができる。 3. 食事の基準値の意義・目的、基本的考え方についての理解し、適切な食事支援を行うことができる。										
④ディプロマポリシー (DP) との関係		①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
				○		○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容		プロジェクト型学習		○	反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
		グループワーク		○	プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		○	
⑥ICT 機器による授業や支援		パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画 (授業の内容)												
第1回	オリエンテーション・子どもの心身の健康と食生活の意義											
第2回	子どもの食生活の現状と課題											
第3回	子どもの発育・発達と食生活											
第4回	栄養素・栄養整理・代謝に関する基本的知識①食品の分類・炭水化物											
第5回	栄養素・栄養整理・代謝に関する基本的知識②脂質・たんぱく質											
第6回	栄養素・栄養整理・代謝に関する基本的知識③ビタミン・ミネラル											
第7回	調理の基本・食中毒の種類											
第8回	乳児期の特徴と食生活											
第9回	乳汁栄養の特徴											
第10回	乳汁栄養の実習 (人工乳)											
第11回	幼児期の心身の発達と食生活の現状											
第12回	離乳食の調理実習① (初期・中期)											
第13回	離乳食の調理実習② (後期・完了期)											
第14回	日本人の食事摂取基準について											
第15回	バランスガイドについて (献立作成)											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題		予習: 授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となりますので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。 (約 30 分の学習時間を要する) 復習: 授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。 (約 30 分間の学習時間を要する)										
⑨テキスト		森脇千夏 (代表著者) 『イラスト子どもの食と栄養』 東京教学社 2023 年										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等		・食育白書 (農林水産省、日経印刷) ・国民健康・栄養の現状 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、第一出版) ・その他、適宜授業で紹介する										
⑪教材費		教材費、材料費として 2,000 円										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項		・調理実習の際はエプロン、三角巾 (バンダナ)、マスク、ハンドタオルを準備し、身だしなみを整える (不適切なアクセサリーを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる) ・課題を提出する際は、提出前に必ずコピー等の控えをとること。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		栄養に関する基本的知識	子どもの健康と食生活の意義	乳児期の食生活	幼児期の食生活				③配点比率			
②評価方法												
1	定期試験								0	%		
2	小テスト	○							20	%		
3	提出物		○	○	○				60	%		
4	発表・実技・プレゼン		○						10	%		
5	受講態度	○	○	○	○				5	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○				5	%		
7	その他								0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない							比率合計		100 %	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		採点した課題等を授業内で返却、講評する。										
Ⅳ その他												
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ						②科目コード		Y3-3A002			
③担当教員名	佐藤 陽子											
④実務経験	管理栄養士							⑤担当形態		単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年			⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養 (演習)											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	学童期以降・特別な配慮を要する子どもの食生活と食育の実践											
②授業の概要	管理栄養士の資格をもつ教員が担当する。ライフステージ別(学童期以降)の特徴や望ましい食生活について理解を深める。幼児期の適切な間食・お弁当を考える。家庭・児童福祉施設における食生活の現状と課題について最新のデータより読み解く。また、アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもへの対応について理解する。適宜、ディスカッション・ディベート・グループワークを取り入れ、実践へと結び付ける。また食育ではグループワークを行い、食を通じた保育や健康支援について考え、共同作成する。授業は毎回パワーポイントを用いて行う。											
③履修者の到達目標(学習成果)	1. ライフステージ別(幼児の間食・お弁当・学童期以降)の食生活の特徴を説明することができる。 2. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について適切にデータを読み解くことができる。 3. 疾病、体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもの特徴を理解し、対応方法を説明することができる。 4. 幼児を対象とした食育計画の立案、実践、評価をし、一連の食育実践を行うことができる。											
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		○		反転授業					ディスカッション・ディベート		○
	グループワーク		○		プレゼンテーション			○		実習・フィールドワーク		○
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画(授業の内容)												
第1回	妊娠期の食生活(胎児期)・合併症について											
第2回	母乳と食生活・嗜好品について											
第3回	間食・お弁当(献立作成)											
第4回	幼児食の調理実習											
第5回	学童期・思春期の心身の発達と食生活											
第6回	学校給食・生涯発達と食生活											
第7回	家庭における食事と栄養											
第8回	児童福祉施設における食事と栄養											
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良の子ども、障がいのある子どもの食事											
第10回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子どもへの対応											
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③ 障害のある子どもへの対応											
第12回	食育の基本と内容① 食育の意義・目的と基本的考え方											
第13回	食育の基本と内容② 食育計画を立てよう											
第14回	食育の基本と内容③ 食育計画の準備											
第15回	食育の基本と内容④ 食育計画のまとめ 発表 評価											
定期試験	筆記試験を実施しない											
⑧自主学習の課題	予習: 授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となりますので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。(約30分の学習時間を要する) 復習: 授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。(約30分間の学習時間を要する)											
⑨テキスト	森脇千夏(代表著者)『イラスト子どもの食と栄養』東京教学社 2023年											
⑩参考書/参考資料/準備物等	・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する											
⑪教材費	教材費、材料費として1,500円											
⑫履修条件/履修上の注意事項	・調理実習の際はエプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、ハンドタオルを準備し、身だしなみを整える(不適切なアクセサリを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる) ・課題を提出する際は、提出前に必ずコピー等の控えをとること。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		ライフステージ別の食生活	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食育の基本と内容	③配点比率						
②評価方法												
1	定期試験					0	%					
2	小テスト		○	○		20	%					
3	提出物	○	○	○	○	50	%					
4	発表・実技・プレゼン		○		○	20	%					
5	受講態度	○	○	○	○	5	%					
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%					
7	その他					0	%					
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100 %				
⑤課題等に対するフィードバックの方法		採点した課題、小テスト等を授業内で返却、講評する。										
Ⅳ その他												
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。												

I 科目に関する項目										
①科目名	社会的養護 I Theory of Social Care for Children I						②科目コード	Y2-3A001		
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（18 年）、公認心理師（5 年）						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2 年		⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	2 単位 (30)	⑨授業 形態	講義	⑩必修 別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種 免許		特二種 免許		保育士 資格	必修	発達障がい児 保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的の管理に関する科目 社会的養護 I（講義）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども虐待と社会的養護の現状と基本理念、代替養育（施設養護 / 家庭的養護）について学ぶ									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども・家庭支援を行ってきた教員が担当する。虐待を受けるなど、家庭で養育されることが適当ではない子どもを社会で養育する仕組みを社会的養護と言う。本講では、社会的養護の現状と課題、家庭に代わる代替養育の場である施設養護と家庭養護（里親・養子縁組）等について学ぶ。また、事例検討で子ども虐待の実態と対応について学びを深め、支援方法を考えられるようになることを目的とする。子どもの支援者としての自覚を持ち、常日頃から、子ども家庭福祉に関する時事問題に関心を寄せてほしい。 授業はパワーポイントとレジュメを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで、学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は、Google classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標 （学習成果）	1 【社会的養護の現状と課題・原理の理解】社会的養護の現状と課題・原理を理解し、説明できる。 2 【虐待と対応】子ども虐待について知り、子どもや養育者に対する支援を考えることができる。 3 【施設養護・家庭養護の現状と課題】施設養護と家庭養護について、現状と課題を述べることができる。 4 【関心と意見】子ども家庭福祉に関する問題に関心を持ち、自分なりの考えを述べることができる。									
④ディプロマポリシー （DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニ ング実施内容	プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート	
	グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク	
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	子ども・家庭を取り巻く現状と社会的養護									
第 2 回	社会的養護の現状と基本理念、子どもの権利擁護									
第 3 回	社会的養護の原理とケアワーカーの役割									
第 4 回	子ども虐待と児童相談所の機能									
第 5 回	子ども虐待の対応―①現状と事例検討の基礎知識・方法									
第 6 回	子ども虐待の対応―②事例検討									
第 7 回	施設養護―①児童養護施設									
第 8 回	施設養護―②乳児院・③母子生活支援施設									
第 9 回	施設養護―④障がい児施設									
第10回	施設養護―⑤児童心理治療施設									
第11回	施設養護―⑥児童自立支援施設									
第12回	施設養護―⑦児童自立援助ホーム									
第13回	地域の中の福祉施設―子ども家庭支援センター（事例検討）									
第14回	家庭的養護―①日本の社会的養護システムの課題と今後の方向									
第15回	家庭的養護―②里親制度、ファミリーホーム、養子縁組制度									
定期試験	筆記試験（レジュメ持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習には、約 90 分の学習時間を要する。復習には、約 90 分の学習時間を要する。 予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースを敏感に取り入れ、自分なりに考える。意見や疑問点を授業で質問できるとよい。 復習：配布レジュメと Classroom にアップしたパワポ資料を読み返す。実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。									
⑨テキスト	不要。講師が準備したパワーポイントとレジュメを用いる。									
⑩参考書 / 参考資料 ／ 準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上 の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		社会的養護 の現状と課題	虐待と対応	施設養護・家 庭養護の現状 と課題	関心と意見			③配点比率		
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○			75	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物		○	○	○			15	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			5	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			5	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィード バックの方法		提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価についての問い合わせには個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	社会的養護Ⅱ Theory of Social Care for Children Ⅱ					②科目コード	Y4-3B002			
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（18 年）、公認心理師（5 年）						⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2 年		⑦開講 期	後期	⑧単位 （時間数）	1 単位 （30）	⑨授業 形態	演習	⑩必選 別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種 免許		特二種 免許		保育士 資格		必修	発達障がい児 保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程										
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会的養護における子どもの理解と実践的ケアを学ぶ									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども家庭支援を行ってきた教員が担当する。前期、社会的養護の授業を通して学んだ現状や制度の知識を基に、子ども理解のためのアセスメントの基礎知識、虐待の影響と対応、自立への支援等を学び、社会的養護を必要とする子どもたちへの実践的な理解と対応力を身に付けることを目的とする。また、子ども虐待や施設での子ども対応に関する事例検討を通して、子どもや家族の状態をアセスメントし、支援方法を自分なりに考える力を培う。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。 また、Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。 遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標 （学習成果）	1 【子どもの理解】子どもや家庭の状態を理解するための基礎知識を身につけ、ある程度アセスメントできる。 2 【虐待の影響と対応の理解】虐待を受けた子どもの状態とそのケアについて、説明できる。 3 【支援方法】子どもや家庭の状態の理解に基づいて、支援方法を複数述べることができる。 4 【考え伝える】知識と情報をもとに自分なりに考え、相手に伝えることができる。									
④ディプロマポリシー （DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
⑤アクティブ・ラーニ ング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業					ディスカッション・ディベート		○	
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援		○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ①現状と解説・事例の読み込み									
第 2 回	子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ②事例検討									
第 3 回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ①アセスメントとは ②愛着障害									
第 4 回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ③トラウマ									
第 5 回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ④その他のこころの障害									
第 6 回	子どもを迎えるとき ①児童票の読み方と見立て ー事例検討									
第 7 回	子どもを迎えるとき ②子どもを迎える準備とケア									
第 8 回	施設での集団生活									
第 9 回	子ども同士のトラブルの対応－事例検討									
第 10 回	家族関係への支援 ①家族再統合に向けて									
第 11 回	家族関係への支援 ②生い立ちの整理									
第 12 回	虐待の影響と対応 ①身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト									
第 13 回	虐待の影響と対応 ②性的虐待									
第 14 回	自立への支援									
第 15 回	職員の働き方－チームワークと代替養育者による虐待の防止									
定期試験	筆記試験（レジュメ・テキスト持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習には、約 90 分の学習時間を要する。復習には、約 30 分の学習時間を要する。 予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースに敏感になって取り入れ、自分なりに考える。疑問や意見を授業時に言えること。 復習：Classroom にアップしたパワポ資料と、書き込んだ配布レジュメを読み返す。 学んだことを、実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。									
⑨テキスト	中山正雄編著『実践から学ぶ社会的養護の内容』教育情報出版 2019.2									
⑩参考書／参考資料 ／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上 の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは初回授業で伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し提出すること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		子どもの理解	虐待の影響と 対応の理解	支援方法	考え伝える	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○		75	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物	○	○	○	○		15	%		
4	発表・実技・プレゼン			○	○		2	%		
5	受講態度	○	○	○	○		5	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○		3	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィード バックの方法		提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
Ⅳ その他										

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	子育て支援 Childcare Support (Exercises)						②科目コード		Y4-3B003		
③担当教員名	平田 美智子										
④実務経験	社会福祉士						⑤担当形態		単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年		⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 子育て支援(演習)										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育現場における子育て支援の在り方について学ぶ										
②授業の概要	子育て支援の現状と課題について学んだ上で、子育て支援の実際について多様な事例から支援の必要性と意義について理解を深めることを目的とする。また、講師の児童相談所や福祉事務所勤務における実務経験に基づき、相談支援の基本を踏まえながら、保育者の実践について演習方式で学ぶ。さらに、地域資源の活用と専門機関との連携を視野に入れた支援に関する知識を養う。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 子育て支援の意義や原則、援助・支援方法の具体的内容を述べることができる。 2. 保護者を支援するための基本姿勢を理解し、グループ・ディスカッションを通して仮想事例に基づいた支援計画を立案・検討することができる。 3. 地域資源や専門機関等について調べ、グループワークを通して子育て支援に必要な連携について考えることができる。										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
			○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		○		プレゼンテーション		○		実習・フィールドワーク		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	ガイダンス(授業のねらい・進め方・成績評価の説明)と子育て支援の意義を知る										
第2回	保育と子育てに関する概要を学ぶ										
第3回	子どもの権利と子育て支援を学ぶ										
第4回	保育の専門性と子育て支援を学ぶ										
第5回	子育て支援の展開過程・子育て支援における計画・記録・評価										
第6回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者との信頼関係の構築										
第7回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者の理解とかかわり方										
第8回	(ディスカッションを含む演習方式) 地域資源の活用と関係機関との連携・協力										
第9回	(ディスカッションを含む演習方式) 保育所の特性を生かした保護者への支援										
第10回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を要する保護者への支援・児童虐待										
第11回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を必要とする保護者への支援 児童虐待										
第12回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援										
第13回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援										
第14回	(ディスカッションを含む演習方式) 児童発達支援センターにおける子育て支援										
第15回	子育て支援の課題についてのまとめ、振り返り授業内レポート										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習: 約 30 分間の学習時間を要する。 復習: 約 30 分間の学習時間を要する。										
⑨テキスト	小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集「学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現在社会『演習・保育と子育て支援』2022 みらい										
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件/履修上の注意事項	毎回の授業では、他の教科や実習で学習した知識・経験を基に、積極的にディスカッションに参画し、発表を行って下さい。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目 ②評価方法		保護者支援の意義や原則等	支援の基本的理解と支援計画	支援方法の考案				③配点比率			
1	定期試験							0	%		
2	小テスト	○	○	○				50	%		
3	提出物	○	○	○				20	%		
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				10	%		
5	受講態度	○	○	○				20	%		
6	自主学習態度							0	%		
7	その他							0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	保育実習Ⅰ（施設）Training of ChildcareⅠ						②科目コード		Y5-3C001		
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験							⑤担当形態		複数		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（88）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育実習 保育実習Ⅰ（実習）										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設における実習										
②授業の概要	施設実習を通して、施設の役割・機能、子ども・利用者の理解と対応、施設の子ども・利用者の生活と環境、健康管理・安全対策の理解、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解する。日々の実践について実習日誌に記録し、自己省察を行うとともに自己評価する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
			○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション										
第2回	1. 施設の役割と機能（1）施設の生活と一日の流れ										
第3回	1.（2）施設の役割と機能										
第4回	2. 子ども理解（1）子どもの観察とその記録										
第5回	2.（2）個々の状態に応じた援助やかかわり										
第6回	3. 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助										
第7回	3.（2）子どもの心身の状態に応じた対応										
第8回	3.（3）子どもの活動と生活の環境										
第9回	3.（4）健康管理、安全対策の理解										
第10回	4. 計画と記録（1）支援計画の理解と活用										
第11回	4.（2）記録に基づく省察・自己評価										
第12回	5. 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容										
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価										
第14回	【事後】実習体験の分かち合い										
第15回	【事後】実習日誌の振り返り										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入										
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・施設からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務課に提出する。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価		③配点比率				
②評価方法											
1	定期試験						0	%			
2	小テスト						0	%			
3	提出物	○	○	○	○		20	%			
4	発表・実技・プレゼン						0	%			
5	受講態度	○	○	○	○		10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○		30	%			
7	実習施設からの評価	○	○	○	○		40	%			
④ルーブリック評価		取り入れている（実習日誌）					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
Ⅳ その他											

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育実習指導Ⅰ（施設） Practical Training of ChildcareⅠ							②科目コード	Y5-3C002			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき											
④実務経験								⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表Ⅰによる教科目） 保育実習 保育実習指導Ⅰ（演習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能、利用者の支援、職務および職業倫理を実習から修得するための事前事後指導											
②授業の概要	保育所以外の施設の役割・機能、子ども・利用者の生活、施設における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。 これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。 事後指導により、施設保育士の役割や職務および実習課題の達成度を振り返り、自己課題を明確にする。 公認心理師（臨床発達心理士）および保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と施設保育士の職責について解説する。 Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 施設理解：保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：これまでの実習経験や事前学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習 グループワーク		反転授業 プレゼンテーション				ディスカッション・ディベート 実習・フィールドワーク		○			
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第1回	施設実習の目的と先輩との情報交換											
第2回	保育所以外の施設の概要											
第3回	施設実習の1日の流れ・実習生調書の作成											
第4回	施設実習のオリエンテーション準備											
第5回	施設理解と実習内容―実習施設についての調べ学習―											
第6回	施設理解と実習課題の準備											
第7回	施設職員の講話											
第8回	実習課題の設定											
第9回	実習施設の理解と対応 ＊グループワーク											
第10回	実習施設の子ども・利用者への関わり ＊グループディスカッション											
第11回	日誌分析―施設実習の日誌の書き方―											
第12回	事前指導（グループ）											
第13回	実習直前指導―実習の心構えと倫理―											
第14回	事後指導 ＊グループディスカッション											
第15回	事後指導（個別）											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む（30分程度の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（30分程度の学習時間を要する）。											
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている											
⑫履修条件／履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・履修上の注意事項：「保育実習Ⅰ（施設）」が不合格・失格の場合、本科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には Google classroom および meet を活用しオンデマンドまたは双方向型授業を実施する。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		施設理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見			③配点比率				
②評価方法												
1	定期試験							0	%			
2	小テスト							0	%			
3	提出物	○	○	○	○			60	%			
4	発表・実技・プレゼン							0	%			
5	受講態度	○	○	○	○			40	%			
6	自主学習態度							0	%			
7	その他							0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は随時返却する。											
Ⅳ その他												
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育実習Ⅱ（保育所）Training of Childcare Ⅱ						②科目コード		Y5-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき											
④実務経験							⑤担当形態		複数			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（88）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		選択必修		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅱ（実習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保育士として必要な資質・能力・技術の習得、指導計画の立案・実践・振り返り、保護者への対応方法・子育て支援の方法の習得											
②授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」における実習での課題を踏まえ、保育全般に参加し、保育士の職務の理解、子どもの個人差・発達の違いによる対応方法、保護者への対応の方法、子育て支援のニーズと地域の社会資源との連携について学ぶ。また、一日の保育あるいは保育の一部分を担当する指導計画を立案・実践し、振り返りを行い、今後の自己の学習課題とその具体的方法について明確にする。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、保育所理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：保育所の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	実習施設におけるオリエンテーション											
第 2 回	1. 保育所の役割や機能の具体的展開（1）養護と教育が一体となって行われる保育											
第 3 回	1.（2）保育所の社会的役割と責任											
第 4 回	2. 観察に基づく保育理解（1）子どもの心身の状態や活動の観察											
第 5 回	2.（2）保育士等の動きや実践の観察											
第 6 回	2.（3）保育所の生活の流れや展開の把握											
第 7 回	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解											
第 8 回	3.（2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援											
第 9 回	3.（3）地域社会との連携											
第10回	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解											
第11回	4.（2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価											
第12回	5. 保育士の業務と職業倫理（1）多様な保育の展開と保育士の業務											
第13回	5.（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理											
第14回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価											
第15回	【事後】実習日誌の振り返り											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入											
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。											
⑫履修条件／履修上の注意事項	・保育所からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌は、実習終了後3日以内に実習保育所に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務・学生支援課に提出する。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		②評価方法		実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
1	定期試験								0	%		
2	小テスト								0	%		
3	提出物		○		○		○		20	%		
4	発表・実技・プレゼン								0	%		
5	受講態度		○		○		○		10	%		
6	自主学習態度		○		○		○		30	%		
7	実習施設からの評価		○		○		○		40	%		
④ルーブリック評価		取り入れている（実習日誌）						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。										
Ⅳ その他												

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所） Practical Training of Childcare Ⅱ							②科目コード	Y5-3C004			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき											
④実務経験								⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		選択必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅱ（演習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	保育所における子どもの最善の利益を考慮した保育を実習により修得するための事前事後指導											
②授業の概要	保育所保育士としての実践力を習得するための事前準備を行う。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら、保育所の役割や機能、保育の実践力、保育士の専門性と職業倫理などについて理解を深める、実習課題を立てる。また責任実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士・公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、事例などを通して子ども理解および保育士の役割・職責などについて解説する。Google classroom を活用し資料や課題を提示する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育所・保育士の理解：保育所の役割・機能と保育士の職務を理解できる。 2. 実習課題：既習の科目やこれまでの実習の学びと関連つけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 3. 保育実践・計画：子どもの発達や実態をふまえて責任実習に向けた準備をすることができる。 4. 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業					ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○			プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	保育実習Ⅱの意義と目的											
第 2 回	実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成											
第 3 回	保育実習Ⅰ 日誌分析											
第 4 回	保育実習Ⅱの日誌の書き方											
第 5 回	子どもの発達の理解と保育技術											
第 6 回	責任実習・指導案の準備											
第 7 回	実習直前指導―実習の心構えと職業倫理―											
第 8 回	事前指導（個別）											
第 9 回	実習後の振り返りと自己評価											
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション											
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見											
第12回	保育所保育指針を踏まえた保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク											
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・日本保育士研修センター）											
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）											
第15回	保育実習のまとめとその共有 ※グループワーク											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む（約 30 分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約 30 分の学習時間を要する）。											
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。											
⑫履修条件／履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
②評価方法	①学習項目	保育所・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括			③配点比率				
1	定期試験							0			%	
2	小テスト							0			%	
3	提出物	○	○	○	○			60			%	
4	発表・実技・プレゼン							0			%	
5	受講態度	○	○	○	○			40			%	
6	自主学習態度							0			%	
7	その他							0			%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する											
Ⅳ その他												
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること												

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設） Training of Childcare Ⅲ						②科目コード	Y5-3C005			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験							⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（88）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2Iによる教科目）保育実習 保育実習Ⅲ（実習）										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所以外の児童厚生施設等における実習										
②授業の概要	児童厚生施設等において、その役割や機能、保育士の業務や職業倫理、子どもの保育及び保護者への支援について、実践的、かつ総合的に理解する。 また、援助計画を立案し、実践するとともに、実習の振り返りを行い、今後の学習課題と課題実現の具体的方法を明確にする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。										
④ディプロマブリシシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
			○		○		○		○		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク		○		
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業						グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション										
第2回	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能										
第3回	2. 施設における支援の実際										
第4回	2（1）受容し、共感する態度										
第5回	2（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解										
第6回	2（3）個別支援計画の作成と実践										
第7回	2（4）子どもの家族への支援と対応										
第8回	2（5）多様な専門職との連携										
第9回	2（6）地域社会との連携										
第10回	3. 保育士の多様な業務と職業倫理										
第11回	4. 保育士としての自己課題の明確化										
第12回	【事後】学生による実習終了報告										
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価										
第14回	【事後】実習体験の分かち合い										
第15回	【事後】実習日誌の振り返り										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入										
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・施設からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法		①学習項目		実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価			③配点比率	
1	定期試験									0	%
2	小テスト									0	%
3	提出物	○		○	○	○	○			20	%
4	発表・実技・プレゼン									0	%
5	受講態度	○		○	○	○	○			10	%
6	自主学習態度	○		○	○	○	○			30	%
7	実習施設からの評価	○		○	○	○	○			40	%
④ルーブリック評価		取り入れている（実習日誌）							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法		実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他											

Ⅰ 科目に関する項目												
①科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設） Practical Training of Childcare Ⅲ							②科目コード	Y5-3C006			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき											
④実務経験								⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1 単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択		
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程												
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目） 保育実習 保育実習指導Ⅲ（演習）											
Ⅱ 授業内容に関する項目												
①テーマ	児童厚生施設等の役割、保育・支援の実践、職員の職務・職業倫理を実習により修得するための事前事後指導											
②授業の概要	児童厚生施設等の児童福祉施設の役割、利用者への支援、職員の職務および職業倫理について理解を深める。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら児童福祉施設の役割や機能について理解を深め、実習課題を立てる。 また、児童厚生施設等における子ども、保護者への対応や保育実践の基本について修得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士および公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、子どもの保育および保護者支援、職業倫理等について事例やグループワークなどを用いて解説する。Google classroom を活用し資料や課題を提示する。											
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 施設・保育士の理解：児童厚生施設の役割・機能と職員の職務・職業倫理を理解できる。健全育成につながる遊びについて考えたり、児童館が行う子育て支援の内容と重要性について理解したりできる。 2. 実習課題：既習の科目や実習に関連づけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 3. 保育実践・計画：利用者の理解・対応を修得するとともに部分実習の準備をすることができる。 4. 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。											
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習				反転授業				ディスカッション・ディベート		○	
	グループワーク		○		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画（授業の内容）												
第 1 回	保育実習Ⅲの意義と目的											
第 2 回	保育実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成											
第 3 回	保育実習Ⅰ 日誌分析											
第 4 回	保育実習Ⅲの日誌の書き方											
第 5 回	児童厚生施設の役割・機能および職員の職務・職業倫理											
第 6 回	部分実習・指導案の準備											
第 7 回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—											
第 8 回	事前指導（個別）											
第 9 回	実習後の振り返りと自己評価											
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション											
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見											
第12回	保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク											
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・日本保育士研修センター）											
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）											
第15回	児童福祉施設の機能と保育士の職務の理解 まとめとその共有 ※グループワーク											
定期試験	実施しない											
⑧自主学習の課題	予習：教科書の実習に関する部分を読んでおく（約 30 分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約 30 分の学習時間を要する）。											
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版											
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。											
⑫履修条件／履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持ってくる。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。											
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率												
①学習項目		施設・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括		③配点比率					
②評価方法												
1 定期試験							0	%				
2 小テスト							0	%				
3 提出物		○	○	○	○		60	%				
4 発表・実技・プレゼン							0	%				
5 受講態度		○	○	○	○		40	%				
6 自主学習態度							0	%				
7 その他							0	%				
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する。											
Ⅳ その他												
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること												

Ⅰ 科目に関する項目											
①科目名	ベビーシッター論 Theory of Home Visit Child Care					②科目コード		Y4-3B001			
③担当教員名	平野 美香										
④実務経験	臨床心理士（18 年）、公認心理師（5 年）					⑤担当形態		単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻		⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2 単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
Ⅱ 授業内容に関する項目											
①テーマ	家庭訪問保育について学び、居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働くための知識を身につける										
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、子ども家庭支援に関わってきた教員が担当する。家庭訪問保育は従来、細やかで柔軟性を持った保育サービスとして子育て家庭を支えてきたが、近年、国の子育て支援制度の中に居宅訪問型保育として正式に位置づけられ、その重要性を増している。 本講では、家庭訪問保育者の役割と責務、発達に即した保育内容、子育てアドバイス等、家庭における子ども・親への支援を学び、制度上の居宅訪問保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働く基礎知識を身に付けることを目指す。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行う。また Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1【家庭訪問保育の理解】国の子育て支援制度である居宅訪問型保育と一般型の家庭訪問保育について説明できる 2【安全と健康の理解】子どもの安全と健康を守る知識を持つ 3【家庭保育の実践】発達に即した家庭での保育や、親への支援を考えることができる 4【現場の対応と連携】現場の問題に対し、同僚や他職種・機関と連携して支援に臨む姿勢を持つことができる										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性		②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		〇		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				〇		
⑦授業の計画（授業の内容）											
第 1 回	家庭訪問保育の体系										
第 2 回	居宅訪問型保育の概要と課題（事例）										
第 3 回	家庭的保育者の姿勢と子どもの「育ち」の理解										
第 4 回	一般型家庭訪問保育、産後ケア										
第 5 回	新生児の発達とケア										
第 6 回	乳児の発達とケア										
第 7 回	幼児の発達とケア										
第 8 回	小児保健①子どもの健康管理										
第 9 回	小児保健②子どもに多い病気と対応										
第10回	リスクマネジメントと事故対応										
第11回	居宅訪問型保育における保育内容・環境整備・運営										
第12回	子どもの遊び・感覚										
第13回	特別に配慮を要する子どもへの対応										
第14回	保護者支援～気がかりな保護者（事例）										
第15回	子育てアドバイスと保育現場での対応（事例）										
定期試験	筆記試験（テキスト、レジュメ持ち込み可）を実施する										
⑧自主学習の課題	予習：各授業回に次回授業の学習箇所について知らせるので、その範囲のテキストを読んでくること。約 90 分の学習時間を要する。 復習：各自で書き込んだ配布レジュメとテキスト、classroom にアップしたパワポ資料を再読し、気が付いた点をレジュメに書き込むこと。約 90 分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規（第 3 版・2022）										
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業で紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件／履修上の注意事項	Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも提示する）、Classroom を利用して授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。										
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		家庭訪問保育の理解	安全と健康の理解	家庭保育の実践	現場の対応と連携			③配点比率			
②評価方法											
1	定期試験	〇	〇	〇	〇			75	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物			〇	〇			15	%		
4	発表・実技・プレゼン							0	%		
5	受講態度	〇	〇	〇	〇			5	%		
6	自主学習態度	〇	〇	〇	〇			5	%		
7	その他								%		
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。										
Ⅳ その他											
「認定ベビーシッター」資格取得に該当する科目である。											

Ⅰ 科目に関する項目										
①科目名	発達障がい児指導法演習 Practice in Developmental Disorders Guidance					②科目コード	Y5-3C007			
③担当教員名	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験	臨床心理士 / 臨床発達心理士 / 公認心理師					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2 単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	インクルーシブ保育現場での発達障がい児支援に関する基礎実践									
②授業の概要	臨床心理士・臨床発達心理士・公認心理師として、発達障害児への療育指導、保育・教育現場への巡回相談、発達障害児をもつ家族への支援に関する実務経験を有する教員による授業である。本授業では、発達障がいの基本的な行動特徴について確認した上で、保育現場で発達障がい児に適切にかかわれるよう、①行動問題について見立てを行う事例検討、②子どもおよび保護者のニーズを踏まえた個別の保育・指導計画の立案、③行動問題が生じた際の支援方法について模擬保育場面を設定して練習するシミュレーション・トレーニングを実施する。受講者が自ら考えて実践するアクティブラーニングの形式で授業を展開する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 発達障がい児の基本的な行動特徴を踏まえ、行動問題の原因を予測し、いくつかの支援方法を提案することができる。 2. 発達障がい児と保護者のニーズを踏まえ、個別の保育・指導計画を立案することができる。 3. インクルーシブ保育の環境づくりの知識を習得する。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性	
		○			○		○		○	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート			
	グループワーク	○	プレゼンテーション			○	実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)										
第 1 回	イントロダクション(インクルーシブ保育とは)				第 16 回	インクルーシブ保育実践・振り返り				
第 2 回	子どものアセスメントとインクルーシブ保育現場での実践				第 17 回	インクルーシブ保育教材(宿題)に関する情報交換会				
第 3 回	発達障がいの特性を理解する				第 18 回	ロールプレイの意義と効果について				
第 4 回	保育現場における事例検討とは				第 19 回	シミュレーション・トレーニング事前説明				
第 5 回	事例検討①:(感覚障害をもつ子ども)				第 20 回	シミュレーション・トレーニング①				
第 6 回	事例検討②:(行動調節が困難な子ども)				第 21 回	シミュレーション・トレーニング②				
第 7 回	事例検討③:(衝動性の高い子ども)				第 22 回	シミュレーション・トレーニング③				
第 8 回	個別の保育・指導計画とは				第 23 回	シミュレーション・トレーニング・まとめ				
第 9 回	個別の保育・指導計画の作成方法				第 24 回	園内支援体制と現職者研修				
第 10 回	実践事例: 個別の保育・指導計画の実施と修正				第 25 回	保護者の心理と早期支援				
第 11 回	個別の保育・指導計画と園内支援体制づくり				第 26 回	発達に偏りのある子どもの保護者への支援(虐待防止)				
第 12 回	行動問題を理解する枠組み(FBA の視点)				第 27 回	保育及び教育的ニーズとは何か				
第 13 回	発達の視点からの子ども理解				第 28 回	保育・教育現場における合理的配慮				
第 14 回	インクルーシブ保育教材の紹介／夏休み宿題の提示				第 29 回	個別の保育・教育支援計画と移行支援				
第 15 回	インクルーシブ実践・事前指導				第 30 回	インクルーシブ保育実践に関するまとめ				
定期試験	前期・後期それぞれ実施する。									
⑧自主学習の課題	予習: 事前に配られた事例理解シートを読み込むこと。 復習: 事例検討やシミュレーション・トレーニングで学んだ技術をノートに記入し、記載した事項や情報を復習すること。 ※予習・復習にそれぞれ約 30 分間の時間を要する。									
⑨テキスト	大石幸二監修 遠藤愛・太田研著「カンファレンスで深まる・作れる 配慮を要する子どものための個別の保育・指導計画」学苑社									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	インクルーシブ教材作成費用は自己負担									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	履修条件: 特になし 履修上の注意事項: 発達障害児保育ベーシックプログラムの必修科目であるが、本資格取得を希望しない者も履修可能である。 その他: シミュレーション・トレーニングには、原則、全て出席すること。詳細は、授業時に説明する。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		発達障がいの理解	行動問題の理解と対応	個別の保育・指導計画の作成	インクルーシブ保育の環境づくり	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○	○		70	%		
2	小テスト						0	%		
3	提出物				○		10	%		
4	発表・実技・プレゼン		○	○			20	%		
5	受講態度						0	%		
6	自主学習態度						0	%		
7	その他						0	%		
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		課題(試験やレポート等)の成績評価に対する問い合わせに応ずる。								
Ⅳ その他										